

延岡市文化財報告書 第44集

かみ た した い せき
上 田 下 遺 跡

新最終処分場建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2011

延岡市教育委員会

序

日頃より埋蔵文化財の保護、活用に関しまして深いご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。延岡市教育委員会では、北方町上田下地区内に所在する埋蔵文化財調査を実施しました。本書は、その報告書です。

延岡市は宮崎県の北部に位置し、五ヶ瀬川水系の水力資源を利用した県内最大級の電気化学工業集積地となっています。また、近世延岡藩の城下町としても繁栄を遂げ、教育文化・産業経済のけん引役を担っています。

近年は、市民参加による「のべおか天下-薪能」、「城山かぐらまつり」などの開催をはじめ、九州保健福祉大学の開学や国道10号延岡道路及び国道218号北方延岡道路の部分開通など大きな変革を迎えています。さらに、市有面積としては九州内で二番目の規模をもつ都市となり、伝承芸能や農林水産資源などが融合する活気あるまちづくりに歩みだしているところです。

本書の刊行を通して、地域の文化財に対する理解と認識が、ますます深まっていくことを願うとともに、今回の成果が社会教育・学校教育等で広く活用されれば幸いに存じます。

最後になりましたが、事業の推進にあたってご協力をいただきました市民の皆様をはじめ、ご指導ご助言をいただきました宮崎県教育委員会文化財課、新最終処分場建設室、笠下区など関係機関の皆様に対し、こころより感謝申し上げます。

平成23年3月

延岡市教育委員会

教育長 町田訓久

例 言

1. 本書は、平成22年度上田下地区新最終処分場建設事業に伴い新最終処分場建設空の委託を受けて実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2. 調査は、延岡市教育委員会が主体となり、同文化課文化財係専門員 小野信彦、主任主事 尾方農一が担当した。
3. 本書に使用した遺構・遺物の実測・トレース・図面作成は、発掘調査及び整理作業員の協力のもと小野信彦、尾方農一が行なった。
4. 現場及び遺物の写真撮影は、小野・尾方が行った。空中写真の撮影は、九州航空（株）が行った。
5. 方位は磁北を示し、本書に使用したレベルはすべて海拔高である。
6. 本書の執筆は小野・尾方が行い、編集は小野があたった。
7. 本書で使用した写真・図面については、延岡市教育委員会にて保管している。
8. 出土遺物は、延岡市教育委員会にて保管しており、今後展示公開の予定である。

目 次

I はじめに	
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査の組織	1
3. 位置と歴史的環境	1
II 調査の内容	
1. 調査の概要	6
2. 基本層序	6
3. 1区の調査	8
4. 2～4区の調査	8
III おわりに	9
報告書抄録	9

挿図・表・写真目次

番号	内 容	頁	番号	内 容	頁
1	上田下遺跡周辺航空写真(南から)		53	6号竪穴住居跡出土遺物実測図②(S=1/3、2/3)	51
2	延岡市北方町遺跡分布図(S=1/100,000)	3	54	7号竪穴住居跡実測図(S=1/40)	52
3	延岡市北方町遺跡一覧表	4	55	7号竪穴住居跡出土遺物実測図(S=1/3、2/3)	53
4	上田下遺跡周辺地形図(S=1/20,000)	5	56	8号竪穴住居跡実測図(S=1/40)	54
5	調査区位置図(S=1/5,000)	7	57	8号竪穴住居跡出土遺物実測図(S=1/3)	55
6	土層写真(1-C区中央部:南西より)	8	58	9号竪穴住居跡及出土遺物実測図①(S=1/3、1/40)	56
7	土層図(1-A区西壁:S=1/40)	8	59	9号竪穴住居跡出土遺物実測図②(S=1/3、1/4)	57
8	土層図(1-C区中央部:S=1/40)	9	60	10号竪穴住居跡実測図(S=1/40)	58
9	1区検出遺物一覧表	10	61	10号竪穴住居跡出土遺物実測図(S=1/1、1/3、2/3)	59
10	自然科学分析一覧表	10	62	弥生・古墳時代出土遺物実測図①(S=1/3)	60
11	1区遺構配置図(S=1/500)	11-12	63	弥生・古墳時代出土遺物実測図②(S=1/3)	61
12	1区空中写真	13	64	中・近世出土遺物実測図(S=1/3)	62
13	旧石器時代出土遺物実測図①(S=1/3)	14	65	1号土坑実測図(S=1/40)	63
14	旧石器時代出土遺物実測図②(S=1/3)	15	66	2号・3号土坑実測図(S=1/20)	64
15	縄文時代早期集石遺構実測図(S=1/20)	16	67	4号・5号土坑実測図(S=1/20)	65
16	縄文時代早期出土遺物実測図(S=1/3)	17	68	7号土坑実測図及出土遺物実測図(S=1/3、1/20)	66
17	縄文時代前期～後期出土遺物実測図(S=1/3)	18	69	8号土坑実測図(S=1/20)	67
18	縄文時代晩期6号土坑実測図(S=1/20)	19	70	1号不明遺構実測図及出土遺物実測図(S=1/3、1/20)	68
19	縄文時代晩期9号土坑実測図(S=1/20)	20	71	1号建物実測図(S=1/40)	69
20	縄文時代晩期土坑内出土遺物実測図(S=1/3)	21	72	C区溝状遺構検出状況(北より)	70
21	縄文時代出土遺物(土器)実測図①(S=1/3)	22	73	C区溝状遺構検出状況(北より)	70
22	縄文時代出土遺物(土器)実測図②(S=1/3)	23	74	その他の出土遺物実測図①(S=1/3)	70
23	縄文時代出土遺物(土器)実測図③(S=1/3)	24	75	その他の出土遺物実測図②(S=1/3)	71
24	縄文時代出土遺物(土器)実測図④(S=1/3)	25	76	その他の出土遺物実測図③(S=1/4)	72
25	縄文時代出土遺物(土器)実測図⑤(S=1/3)	26	77	出土遺物観察表①	73
26	縄文時代出土遺物(土器)実測図⑥(S=1/3)	27	78	出土遺物観察表②	74
27	縄文時代出土遺物(土器)実測図⑦(S=1/3)	28	79	出土遺物観察表③	75
28	縄文時代出土遺物(土器)実測図⑧(S=1/3)	29	80	出土遺物観察表④	76
29	縄文時代出土遺物(土器)実測図⑨(S=1/3)	30	81	出土遺物観察表⑤	77
30	縄文時代出土遺物(石器)実測図①(S=1/3、2/3)	31	82	出土遺物観察表⑥	78
31	縄文時代出土遺物(石器)実測図②(S=1/3)	32	83	出土遺物観察表⑦	79
32	縄文時代出土遺物(石器)実測図③(S=1/3)	33	84	出土遺物観察表⑧	80
33	縄文時代出土遺物(石器)実測図④(S=1/3、1/4)	34	85	上田下遺跡2区調査区配置図(S=1/800)	82
34	縄文時代出土遺物(石器)実測図⑤(S=1/3)	35	86	上田下遺跡3区調査区配置図(S=1/800)	84
35	縄文時代出土遺物(石器)実測図⑥(S=1/3)	36	87	上田下遺跡4区調査区配置図(S=1/800)	85
36	縄文時代出土遺物(土器)実測図④(S=1/3)	37	88	植物珪酸体化石組成表	86
37	縄文時代出土遺物(石器)実測図④(S=1/3、1/4)	38	89	上田下遺跡2～4区柱状図(S=1/40)	86
38	1号竪穴住居跡実測図(S=1/40)	39	90	上田下遺跡周辺航空写真(昭和23年米軍撮影)	87
39	1号竪穴住居跡出土遺物実測図(S=1/3)	40	91	発掘体験学習	87
40	出土遺物写真(玉環)	40	92	土層掘り作業	87
41	出土遺物写真(鉄器類)	40	93	1号集石遺構(北から)	88
42	2号竪穴住居跡出土遺物実測図①(S=1/3、1/4、1/40)	41	94	2号集石遺構(北から)	88
43	2号竪穴住居跡出土遺物実測図②(S=1/3、2/3、1/4)	42	95	1号竪穴住居跡(北から)	88
44	3号竪穴住居跡及出土遺物実測図①(S=1/1、1/3、1/40)	43	96	2号竪穴住居跡(北から)	88
45	4号竪穴住居跡実測図(S=1/80)	44	97	3号竪穴住居跡(南から)	88
46	4号竪穴住居跡出土遺物実測図①(S=1/3)	45	98	4号竪穴住居跡(南から)	88
47	4号竪穴住居跡出土遺物実測図②(S=1/3、1/4)	46	99	5号竪穴住居跡(東から)	88
48	4号竪穴住居跡出土遺物実測図③(S=1/3、1/4)	47	100	6号竪穴住居跡(東から)	88
49	4号竪穴住居跡出土遺物実測図④(S=1/1、2/3)	48	101	7号竪穴住居跡(西から)	89
50	5号竪穴住居跡及出土遺物実測図(S=1/3、1/40)	48	102	8号竪穴住居跡(東から)	89
51	6号竪穴住居跡実測図(S=1/40)	49	103	9号竪穴住居跡(東から)	89
52	6号竪穴住居跡出土遺物実測図①(S=1/3)	50	104	10号竪穴住居跡(西から)	89

番号	内 容	頁	番号	内 容	頁
105	1号土坑（北から）	89	129	出土遺物写真（288～300）	92
106	2号土坑（東から）	89	130	出土遺物写真（301～314）	92
107	3号土坑（西から）	89	131	出土遺物写真（315～327）	92
108	4号土坑（西から）	89	132	出土遺物写真（328～343）	92
109	5号土坑（北東から）	90	133	出土遺物写真（344～346）	93
110	6号土坑（東から）	90	134	出土遺物写真（347～355）	93
111	7号土坑（南西から）	90	135	出土遺物写真（356～363）	93
112	8号土坑（東から）	90	136	出土遺物写真（365～377）	93
113	9号土坑（西から）	90	137	出土遺物写真（378～385）	93
114	1号不明遺構（北東から）	90	138	出土遺物写真（394～402）	93
115	1号建物（北東から）	90	139	出土遺物写真（403～417）	93
116	出土遺物写真（1～13）	90	140	出土遺物写真（422～448）	93
117	出土遺物写真（14～27）	91	141	出土遺物写真（449～463）	94
118	出土遺物写真（28～40）	91	142	出土遺物写真（464～478）	94
119	出土遺物写真（41～54）	91	143	出土遺物写真（479～512）	94
120	出土遺物写真（55～83）	91	144	出土遺物写真（513～536）	94
121	出土遺物写真（84～104）	91	145	出土遺物写真（536～554）	94
122	出土遺物写真（105～132）	91	146	出土遺物写真（555～573）	94
123	出土遺物写真（133～146）	91	147	出土遺物写真（574～576）	94
124	出土遺物写真（147～169）	91	148	遺物出土状況（A区V層：北から）	94
125	出土遺物写真（170～196）	92	149	上田下遺跡航空写真（西から）	96
126	出土遺物写真（197～229）	92	150	上田下遺跡2区空中写真	96
127	出土遺物写真（230～265）	92	151	上田下遺跡3区空中写真	96
128	出土遺物写真（266～287）	92	152	上田下遺跡4区空中写真	96



1. 上田下遺跡周辺航空写真(南から)

I. はじめに

1. 調査に至る経緯

延岡市では、昭和55年5月から供用を開始した最終処分場の埋立て残余容量が残り少なくなってきたことから、新たに北方町笠下地区に新最終処分場建設事業を計画し、工事予定地内の埋蔵文化財についての照会を、平成20年2月4日付けで延岡市教育委員会に行った。工事予定地内の確認調査を行なった結果、遺跡と判断された。その後協議を重ね、工事着手前に本調査を実施することになった。

本調査は平成21年8月27日から平成22年3月31日にかけて実施し、引き続き整理作業を行った。報告書作成作業は平成22年5月24日から実施した。

2. 調査の組織

調査の組織は、以下の通りである。

調査主体 延岡市教育委員会

教育長	町田 調久
教育部長	笠江 孝一（平成21年度） 甲斐 享博（平成22年度）
文化課長	渡邊 博史（平成21年度） 大島紀世子（平成22年度）
文化課課長補佐	大島紀世子（平成21年度） 伊東 優（平成22年度）
文化課文化財係長	山田 聡

庶務担当 文化課文化振興係主任主事 松岡 直子

調査担当 文化課文化財係専門員 小野 信彦

文化課文化財係主任主事 尾方 農一

調査指導 宮崎県文化財課

調査協力 宮崎県埋蔵文化財センター、宮崎県総合博物館、宮崎県立西都原考古博物館、宮崎県市町村埋蔵文化財担当者及び地元関係各位

3. 位置と歴史的環境

上田下遺跡が所在する延岡市北方町は、宮崎県の北部に位置し、南は門川町・美郷町北郷区、西は西臼杵郡日之影町、北は大分県佐伯市と境を接する。南部を九州山地に源を発する五ヶ瀬川が流れる。北には1,000m級の大崩山・鬼の目山などの山々が連なる。五ヶ瀬川流域や曾木川流域には、阿蘇溶結凝灰岩の台地や河岸段丘が発達しており、遺跡の大部分が集中する。

上田下遺跡の東には、昭和44年に南九州短期大学によって発掘調査が行われ半船底型細石核と隆帯上に爪形文を施した土器が相伴して出土した岩土原遺跡がある。また、南には笠下（ゴルフ場）遺跡がありナイフ形石器や剥片尖頭器が出土している。この外に、五ヶ瀬川上流にはAT層下位より石核等が出土した穴野原遺跡がある。縄文時代では、矢野原遺跡、蔵田遺跡等で早期の押型文土器・集石遺構が検出されている。前期では笠下下原遺跡で畿B式土器・骨土器等が、中期では笠下下原遺跡等で船元式土器が出土している。後期では菅原洞穴で鐘ヶ崎式土器等が、晩期では南久保山小堀町遺跡で黒色磨研土器が出土している。

弥生時代では、昭和28年に板付Ⅱ式土器と思われる土器片が採集されて、宮崎大学に保管されている。後期初頭には瀬戸内系土器の移入も見られる。弥生時代終末期から古墳時代初頭にかけての竪穴住居跡が、矢野原遺跡、打扇遺跡、蔵田遺跡、早川渡遺跡等で検出されている。

古墳時代では、後期の箱式石椁が殿上、矢野原、駄小屋、後曾木等で発見されている。昭和12年に県指定史跡となった『北方村古墳』も、後期箱式石椁群の一つである。

古代では、速見峰地区遺跡や南久保山小堀町遺跡等で、若干の遺物が出土している程度である。中世になると、町内各地で六地蔵や五輪塔等が散見される。中世山城跡として、蔵田城や仲畑城があるが、笠下遺跡等では祭祀遺構が検出され、備前焼のすり鉢や明銭等が出土している。近世は延岡藩領となり、木炭生産や鉱山開発が盛んに行われ、明治新政府へと引き継がれた。

江戸時代から明治期にかけて、北方地区では日平鉱山をはじめ猿渡鉱山、横峰鉱山等の鉱山開発が積極的に行われた。特に、三菱に経営権が移ってからの横峰鉱山は、明治33年(1900)以降に発電所建設や技術革新が積極的に行われ、格段の活況を呈した。鉱山の賑わいは、北方地区の生活基盤の底上げを行い、経済効果はもちろん文化面での影響も多大なものがあつた。

昭和42年(1967)に鉱山が閉山すると産業構造も大きく変化し人口も大きく減少した。このため、農林業の振興の他、国指定名勝である比叡山・矢筈岳や鹿川溪谷等の自然遺産や人工芝スキー場・風力発電を備えた総合レジャー施設ETOランド等の観光資源を活かした地域づくりを積極的に推し進めている。

引用・参考文献

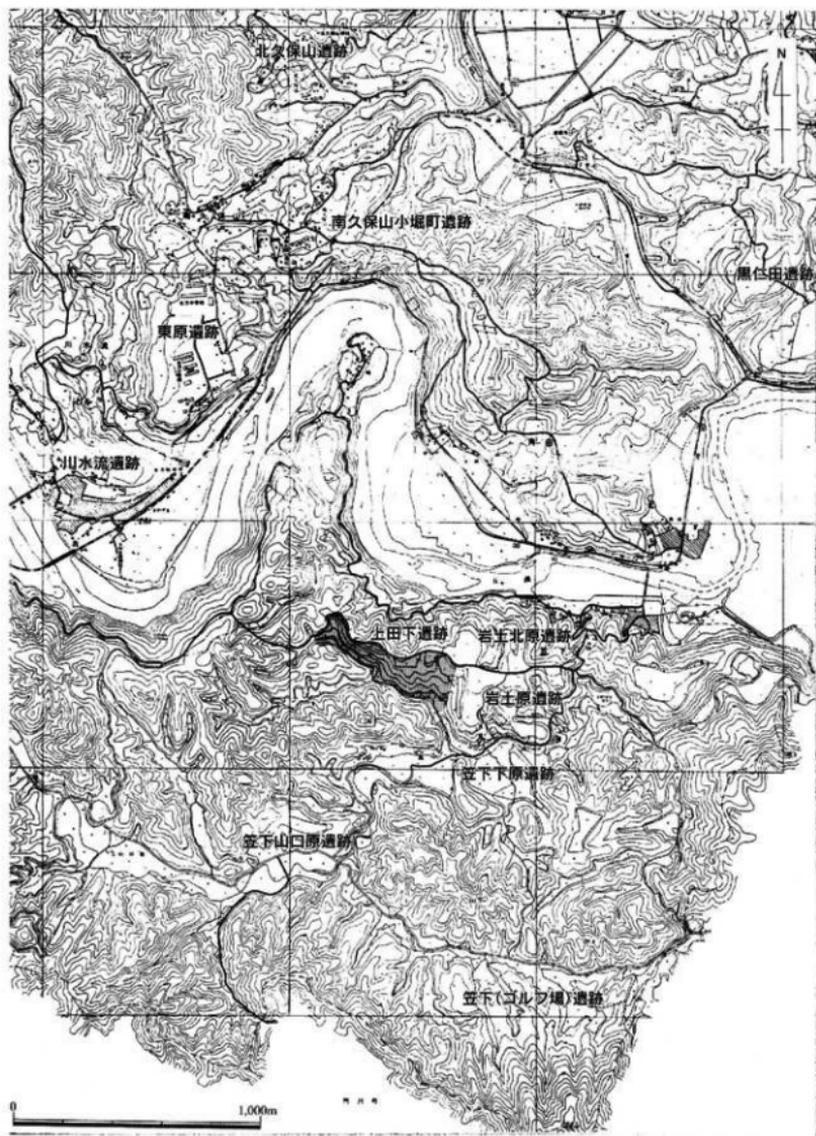
- ・田中茂「東臼杵郡北方村先史遺物地名録」北方村教育委員会 昭和34年(1959)
- ・田中茂「東臼杵郡北方村の古墳」北方村教育委員会 昭和37年(1962)
- ・鈴木重治「本邦における土器起源に関する研究—岩土原遺跡の調査を中心に」
「南九州大学園芸学部研究報告」第3号・別刷 南九州大学園芸学部 昭和45年(1973)
- ・北方町史編纂委員会「北方町史」北方町役場 昭和47年(1972)
- ・角川書店「角川 日本地名大辞典」45 宮崎県 昭和61年(1986)
- ・北方町教育委員会「笠下遺跡」『北方町文化財報告書1』昭和61年(1986)
- ・北方町文化財保護審議会「北方町の古跡を訪ねて」平成元年(1989)
- ・宮崎県「宮崎県史」資料編考古1 ぎょうせい 平成元年(1989)
- ・宮崎県「宮崎県史」資料編考古2 ぎょうせい 平成5年(1993)
- ・北方町教育委員会「横峰鉱山史」(1992)『宮崎県史』史料編近世3 ぎょうせい 平成4年
- ・宮崎県教育委員会「打扇遺跡・早川渡遺跡・矢野原遺跡・蔵田遺跡」『一般国道218号線バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』平成7年(1995)
- ・平凡社「宮崎県の地名」—日本歴史地名体系46巻 平成9年(1997)
- ・北方町「日本唯一千支の町 北方町の文化財」平成10年(1998)
- ・宮崎県教育委員会「宮崎県中近世城館跡緊急分布調査報告書Ⅰ」平成10年(1998)
- ・宮崎県教育委員会「宮崎県中近世城館跡緊急分布調査報告書Ⅱ」平成11年(1999)
- ・北方町史第2巻編纂委員会「北方町史第2巻」北方町役場 平成11年(1999)
- ・延岡市教育委員会「延岡市の文化財」平成13年(2001)
- ・北方町教育委員会「町内遺跡詳細分布調査報告書」『北方町文化財報告書』23 平成16年(2004)



2. 延岡市北方町遺跡分布図(S=1/100,000)

番号	名称	所在地	種別	時代	備考
1	上原川玄の内遺跡	上原川(東の内) 中	散布地	縄文～近世	一部I之跡向へ分布が広がる
2	比呂山	菅原木	国指定史跡	縄文～近世	日之影町矢野谷と合わせて指定
3	菅原橋六・菅原遺跡	菅原木	散布地・縄文遺跡	旧石器～中世	昭和41年宮九州短大により調査
4	網崎遺跡	網崎木	散布地	縄文～近代	飯山郡
5	茨々地遺跡	茨々地	散布地	縄文～中世	中世山城の可能性
6	三ヶ村奈の木遺跡	三ヶ村(奈の木) 午	散布地	中世～近世	備後流のすり鉢と多量の古銭が出土
7	三ヶ村内の1遺跡	三ヶ村(内の口) 午	散布地	中世～近世	
8	上山尾遺跡	藤の木(上山尾) 酉	散布地	中世～近世	和蘭5面と明銭2枚が出土
9	大保下遺跡	坂上(大保下) 亥	散布地	中世～近世	
10	石上遺跡	坂上(石上) 亥	散布地	中世～近世	
11	二股上遺跡	二股(二股上) 戌	散布地	中世～近世	
12	清立遺跡	二股(清立) 戌	散布地	中世～近世	
13	熊取遺跡	二股(熊取) 戌	散布地	縄文～中世	平成4年確認調査、一部消滅
14	屋形原遺跡	坂下(坂下平) 戌	散布地	縄文～中世	
15	坂下平遺跡	坂下(小瀬) 戌	集落跡	縄文～中世	平成5年確認調査、一部消滅
16	小坂遺跡	坂下(小坂) 酉	集落跡	縄文～中世	平成5年確認調査、一部消滅
17	藤の木水鏡遺跡	藤の木(藤木) 酉	散布地	中世～近世	
18	八映遺跡	八映(尾私) 午	散布地	中世～近世	
19	八映遺跡	八映(松舟) 午	散布地	中世～近世	一部消滅
20	松舟遺跡	松舟(松舟) 午	散布地	中世～近世	
21	徳道遺跡	徳道	散布地	縄文～近世	多木遺跡(旧名)を変更
22	徳道遺跡	泉上(徳) 巳	中世山城	縄文～近世	山城の大部分は削平されている
23	久次遺跡	泉上(久保) 巳	散布地	縄文～近世	
24	寛平遺跡	泉上(寛平) 巳	散布地	縄文～近世	
25	打割遺跡	坂中(打割) 巳	集落跡	旧石器～近世	平成2年～12年調査、一部保存
26	早川原遺跡	早川原	集落跡	旧石器～近世	平成2年～12年調査、一部保存
27	矢野原遺跡	坂田(矢野原) 辰	集落跡	旧石器～近世	平成5年調査、一部消滅
28	高田遺跡	高田	集落跡	旧石器～近世	昭和62年～平成5年調査、一部消滅
29	高田遺跡	高田	中世山城	中世	堀場が良好に残る
30	瓢小屋遺跡	瓢田(瓢小屋) 辰	散布地	旧石器～近世	
31	鳩山遺跡	粟田(鳩山) 辰	散布地	縄文～近世	平成9年調査、一部消滅
32	上遺跡	粟田(戸の七) 辰	散布地・石柵跡	旧石器～近世	石柵跡は消滅
33	上島地区遺跡	粟田(上島) 辰	散布地	旧石器～近世	平成12年度～19年度まで調査、一部消滅
34	船木谷遺跡	船木(船木谷) 辰	散布地	縄文～近世	
35	船木谷遺跡	船木(船木谷) 辰	散布地	縄文～近世	
36	川水遺跡	川水(川水) 辰	集落跡	旧石器～近世	中世山城の可能性、一部消滅
37	茨原遺跡	川水(茨原) 辰	散布地	旧石器～近世	一部消滅
38	藤久保山小堀町遺跡	藤久保山(小堀町) 子	集落跡	旧石器～近世	一部消滅
39	十割ノ尾遺跡	藤久保山(十割ノ尾) 子	散布地	縄文～近世	
40	柳瀬遺跡	菅木(柳瀬) 子	散布地	縄文～近世	
41	北久保山遺跡	北久保山 子	散布地	縄文～近世	一部消滅
42	陸院遺跡	柳瀬(陸院) 子	集落跡	縄文～近世	一部消滅
43	上柳遺跡	柳瀬(上柳) 子	散布地	縄文～中世	西南戦争時に再利用
44	仲田遺跡	柳瀬(仲田) 子	中世山城	中世	堀場が残る
45	仲田遺跡	柳瀬(仲田) 子	散布地	縄文～近世	
46	菅木(菅丁) 子	菅木(菅丁) 子	石柵跡	古墳	県指定北方村古墳1号墳
47	菅木(菅木) 子	菅木(菅木) 子	散布地	散布地・石柵跡	県指定北方村古墳3号墳
48	菅原遺跡	菅木(菅原) 子	散布地	縄文～近世	
49	菅谷遺跡	菅木(菅谷) 子	散布地	縄文～近世	
50	菅木原遺跡	菅木(菅木原) 子	散布地	旧石器～近世	一部消滅
51	深谷遺跡	菅木(深谷) 子	散布地	旧石器～近世	一部消滅
52	古城遺跡	菅木(古城) 子	散布地	旧石器～近世	一部消滅
53	中野遺跡	菅木(中野) 子	散布地	縄文～近世	一部消滅
54	野仁山遺跡	菅木(野仁山) 子	散布地	縄文～近世	一部消滅
55	菅木原遺跡	菅木(菅木原) 子	散布地	縄文～近世	一部消滅
56	舟田遺跡	舟田	散布地	縄文～近世	上屋敷、下屋敷、城内などの地名が残る
57	舟田ノ原遺跡	舟田(上ノ原) 丑	散布地	縄文～近世	
58	足高遺跡	舟田(足高) 丑	散布地	縄文～近世	
59	下崎遺跡	舟田(下崎) 辰	散布地	縄文～近世	
60	中山遺跡	川水(中山) 卯	散布地	縄文～近世	消滅
61	上田下遺跡	菅下(上田下) 寅	散布地	縄文～近世	一部消滅
62	岡北平遺跡	菅下(岡北平) 寅	散布地	旧石器～近世	
63	辺上遺跡	菅下(辺上原) 寅	散布地	旧石器～近世	昭和44年南九州短期大学により調査
64	菅下遺跡	菅下	散布地	縄文～近世	一部消滅
65	松尾原遺跡	菅下(松尾原) 寅	散布地	旧石器～近世	
66	藤ノ木谷遺跡	菅下(藤ノ木谷) 寅	散布地	旧石器～近世	一部消滅
67	伊木原遺跡	菅下(伊木原) 寅	散布地	旧石器～近世	
68	伊ノ尾遺跡	菅下(伊ノ尾) 寅	散布地	旧石器～近世	
69	菅下遺跡	菅下(下ノ原) 寅	集落跡	旧石器～近世	下原は通称名
70	菅下遺跡	菅下(藤原) 寅	散布地	旧石器～近世	一部消滅
71	菅下山口遺跡	菅下(山口原) 寅	散布地	旧石器～近世	一部消滅
72	菅下ゴルフ場遺跡	菅下(鳩田 外) 寅	集落跡	旧石器～近世	一部消滅

3. 延岡市北方町遺跡一覧表



4. 上田下遺跡周辺地形図(S=1/20,000)

II. 調査の内容

1. 調査の概要

今回の新最終処分場建設事業に伴う埋蔵文化財調査では、確認調査により遺構・遺物が確認された1～4区の本調査を行った。1区は標高70～80mの台地上に位置し、縄文時代早期の集居遺構2基、縄文時代晩期の土坑2基、弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住居跡10軒を検出した。また、時期は不明であるが、溝状遺構、土坑、柱穴、焼土集中部をアカホヤ層上面等で検出した。

細長い谷部にあたる2区から4区は、1区との比高差が2区で20m、4区で40mを測る。確認調査でチャート製の剥片や砂岩製の礫器が出土したが、本調査では例年以上の雨のために、調査区の壁土の崩壊防止と作業の安全を考慮して、各区ともに面調査ではなくトレンチ調査を行った。

調査の結果、土器片が若干出土したが、遺構の検出はなかった。磨耗している土器片もあり、上部からの流れ込みの可能性が高い。

2. 基本層序

本遺跡1区の基本層序は以下の通りである。2～4区については別項を参照されたい。1区では、調査対象区域の形状にほぼ合わせた形で更に1-A区～C区に設定したが、いずれの調査区も耕作や植林等により大幅な地形の改変が行なわれており、遺構検出の目安となるアカホヤ層がA区の南西側と北東側、C区の西側に残るのみであった。A区では、1号～3号竪穴住居跡の床面をX層で、5号住居跡の床面をVII層で検出するなど、耕作による削平がかなりの深さまで達している。C区の東側では、一部阿蘇溶結凝灰岩の風化土壌を検出しているが、五ヶ瀬川流域の阿蘇溶結凝灰岩台地の上では、II層・V層を除いてほぼ以下の層序で安定している。

上鹿川東の内遺跡や三ヶ村遺跡などの山間部や支流の上・中流域では、阿蘇溶結凝灰岩関連の地層が発達せずに、四万十帯の砂岩層あるいは花崗斑岩の上にアカホヤ層が直接堆積し、その上部に黒色土や薄い表土が見られる。

I層…表土層もしくは耕作土(約20cm)

II 1層…埋土(約20～80cm)畑地の整地用(重機導入以降)

II 2層…埋土(黄茶褐色土層:約30cm)畑地の整地用(重機導入以前)

II 3層…埋土(暗茶褐色土層:約30cm)畑地の整地用(重機導入以前)

III層…茶褐色土層。バサつく。一部を除き削平されている。

IV層…黒色土層。バサつく。一部を除き削平されている。

V 1層…暗黄茶褐色土層。(約20cm)上面がやや硬くしめるがそれ以外はバサツク。

縄文時代晩期の遺物に弥生～中・近世の遺物が混じって出土。

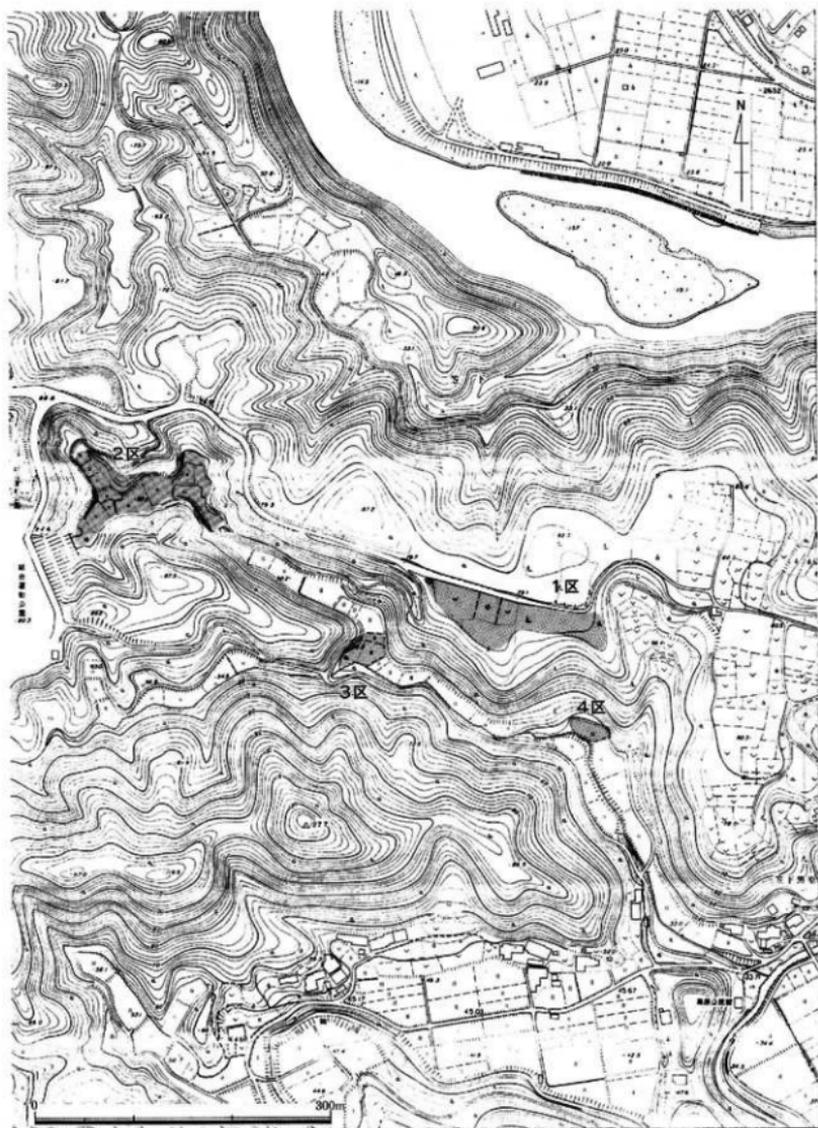
V 2層…黄茶褐色土層。(約20cm)バサつく。V 1層と質的には同じ層である。

VI層…アカホヤ層(約20cm)

VII層…黒褐色土層(約20cm)やや粘質。縄文時代早期の遺物が出土。

VIII層…黄褐色土層(約20cm)粘質。旧石器時代の遺物が出土。矢野原遺跡では、A T層までに黒褐色土層や黄褐色土層が見られる。

IX層…A T層(約20cm)



5. 調査区位置図(S=1/5,000)

X層…黒褐色土層。(約20～50cm) 今回の調査では遺物の出土はなかった。3～5cmのブロック状を呈する。矢野原遺跡では県教育委員会が行なった中位の埋土分析の結果、 $24,290 \pm 680$ (22,340B.C) という数値が得られている。

XI層…黄褐色土層。粘質。小砂利を多く含む。上部で石器が出土する遺跡の調査例が、県北地域でも増えている。

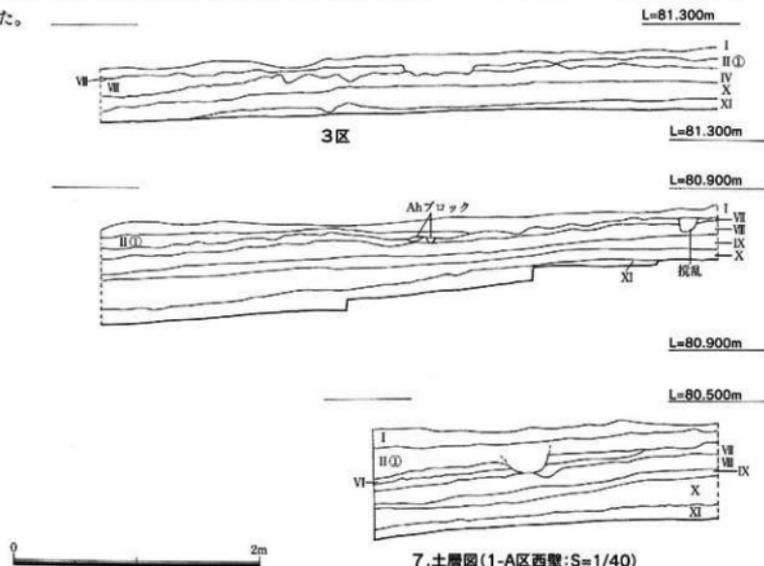
3. 1 区の調査

調査の概要

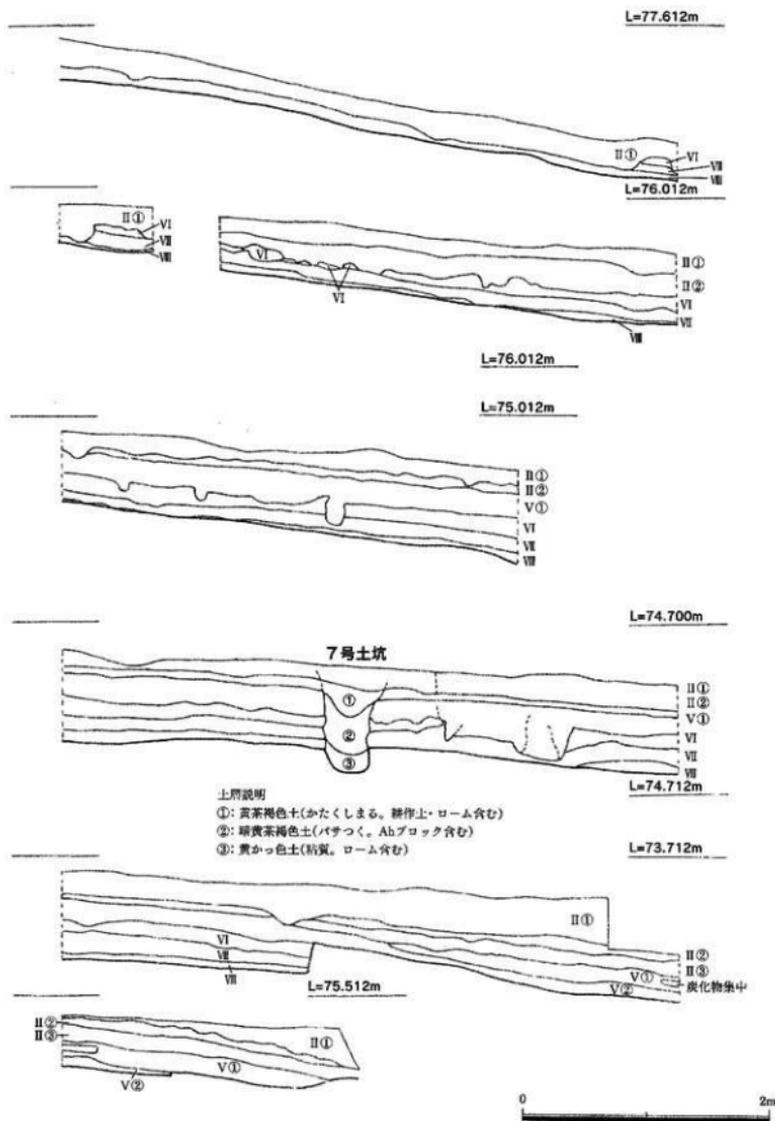
1区は、地形と植栽状況を考慮し、便宜上3区分して調査を行なった。比較的平坦な畑地であるA区、その南側にある栗林のB区、A区の東側で杉林であるC区の3調査区である。A区との比高差は約5mである。A区では、耕作土を除去すると道路側でX層が検出され、重機の爪跡が確認された。地形は南側に向かって緩やかに傾斜しており、南西側と北東側にアカホヤ層が残存していた。VII層が露出している部分を中心にトレンチ調査を行なったが数点の遺物が出土するにとどまった。X層・XI層からの出土遺物もなかった。A区の北東側ではVII層の露出が見られ、焼けた礫がかなり密集した状態で検出された。アカホヤ層を除去して遺構検出を行なったところ、集石遺構を2基検出した。また、各層が露出している中で弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴住居跡を6軒検出した。



6. 土層写真(1-C区中央部:南西から)



7. 土層図(1-A区西壁:S=1/40)



土層説明

- ①: 黄茶褐色土(かたくしめる。耕作上・ローム含む)
- ②: 暗黄茶褐色土(バサつく。Abブロック含む)
- ③: 黄かっ色土(粘質。ローム含む)

8. 土層図(1-C区中央部: S=1/40)

遺構名	頁	長軸	短軸	深さ	出土遺物	備 考
1号集石遺構	16	1.23	0.45	0.26	なし	一部削平、段状の掘り込み
2号集石遺構	16	(1.73)	0.7	0.12	なし	敷石を有する
1号竪穴住居跡	39	4.08	3.82	0.3	土器・石器	集中、浅い柱穴1
2号竪穴住居跡	41	4.38	4.76	0.32	土器・石器・鉄器	集中、段状盛土、楕帯溝
3号竪穴住居跡	43	3.64	3.44	0.2	土器・管玉	南側に土坑あり
4号竪穴住居跡	44	8.92	7.39	0.69	土器・石器・ガラス小玉・炭	張り出し・入り口状施設
5号竪穴住居跡	48	3.02	2.72	0.16	土器	柱穴不明
6号竪穴住居跡	49	3.66	3.22	0.66	土器・石器・鉄器	
7号竪穴住居跡	52	(4.6)	(3.88)	(0.88)	土器・鉄器	床面のみの検出、柱穴不明
8号竪穴住居跡	54	4.1	2.76	0.52	土器・石器	中央部分攪乱
9号竪穴住居跡	56	3.12	2.96	0.16	土器・石器	柱穴不明
10号竪穴住居跡	58	3.22	3.34	0.42	土器・石器・鉄器	柱穴不明、炭・焼土集中部
1号土坑	63	2.68	0.78	0.32	なし	不定形、焼土が厚く堆積
2号土坑	64	1.52	0.43	0.74	なし	小 pit 4
3号土坑	64		0.69	0.16	なし	一部削平
4号土坑	65	0.8	0.53	0.27	なし	柱穴による攪乱
5号土坑	65	3.08	0.92	1.72	なし	小 pit 3
6号土坑	19	1.96	0.86	0.29	土器	一部攪乱、縄文時代晚期
7号土坑	66	1.74	0.47	0.99	土器(555)	小 pit 4
8号土坑	67		0.98	0.36	加工製品(574・575)	柱穴の両側に加工石製品、一部削平
9号土坑	20	1.64	0.45	0.92	土器	小 pit 4、縄文時代晚期
1号不明遺構	68	0.36	0.26	0.84	土器・石器	柱穴を埋めている
1号建物	69	0.58	0.28	-	台石(346)	硬化面(床?)、粘土塊

() は検出部分の計測値 単位はm

9.1区検出遺構一覧表

遺構名	C14年代(yrBP±1σ)	1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲	炭化材
1号竪穴住居跡	925 ± 20	1,046AD(43.0%)1,094AD	1,037AD(43%)1,160AD	
2号竪穴住居跡	1,785 ± 20	216AD(50.1%)259AD	208AD(54.4%)261AD	ツバキ科ツバキ属
3号竪穴住居跡	1,785 ± 20	259AD(36.5%)297AD	255AD(95.4%)385AD	
4号竪穴住居跡	3,085 ± 20	256AD(45.9%)305AD	244AD(90.0%)357AD	
6号竪穴住居跡	1,770 ± 20	285AD(37.7%)323AD	213AD(94.6%)341AD	
1号土坑	1,850 ± 20	129AD(46.4%)177AD	121AD(90.1%)235AD	
2号土坑	950 ± 20	1,089AD(37.5%)1,122AD	1,066AD(67.7%)1,155AD	ブナ科コナラ属アカガシ亜属

10.自然化学分析一覧表



11.1区間遺構配置図(S=1/500)

B区では、栗の植林のためⅧ層まで削平されていた。3軒の竪穴住居跡を検出したが、木根による攪乱の影響をかなり受けていた。南側斜面は傾斜がきつく、アカホヤ層の堆積も良好ではない。表土中より、各時代の遺物が出土している。

C区でも、杉の植林のため東側半分はX1層まで削平されていた。西側ではかろうじてⅥ層の削平を免れており、Ⅶ層から縄文時代早期の遺物が出土している。しかし、A区で見られるような焼け石の集中的な出土は見られず、遺物の出土量も多くはない。

また、中央から南側に向かってⅥ層の風化土壌が発達している。Ⅴ層上面で縄文時代晩期の土坑を2基検出し、粗製深鉢土器を始め多くの遺物が出土した。さらには、時期は不明であるが、溝状遺構、土坑、柱穴、建物遺構、不明遺構、焼土集中部を検出した。溝状遺構には各時代の遺物が混在しており、不明遺構には古墳時代と縄文時代の遺物が一緒に出土している。建物遺構はⅤ層を掘り下げる途中で柱穴列と硬化面の一部を検出したが、上面で竪穴住居跡特有の掘り込み面は確認していない。砂岩製の台石と粘土塊を検出しているが柱穴列及び硬化面との関連は不明である。

遺構と遺物

1区では、縄文時代早期の集石遺構2基、縄文時代晩期の土坑2基、弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住居跡10軒を検出した。また、時期は不明であるが、溝状遺構、土坑、柱穴、焼土集中部をアカホヤ層上面で検出した。

遺物では、旧石器時代の石核や剥片、縄文時代早期及び後期・晩期の石器・土器が出土した。弥生時代後期～古墳時代前期では、壺・甕・高杯・打製石包丁・管玉・鉄鏃・須恵器等が出土している。また、中・近世では陶磁器が、時期は特定できないが土錘・石錘等も出土している。



12.1区空中写真

旧石器時代

主にⅦ層上面から出土しているが、量的には多くない。一部トレンチを掘り下げ白斑ローム下位まで掘り下げたが、遺物・遺物の検出はなかった。一部包含層を除けば、縄文時代晩期の遺物を多く含むⅦ層からの出土や竪穴住居跡内からの出土例も見られる。

使用痕剥片(1・3～5・12)、加工を有する剥片(2)、スクレイパー(6～8・13)、礫器(9)、石核(10・11)が出土している。石材にはホルンフェルス(4・9・13)と流紋岩(それ以外)を利用している。礫器と石核以外の剥片素材の石器では、縦長剥片素材の利用は少なく(3・4)、打面調整も3と12を除いて見られない。また、受熱石器と思われるもの(4)や若干のローリングを受けているもの(12)がある。

縄文時代早期

アカホヤ層の堆積は良好であるが、検出した遺構は集石遺構の2基のみにとどまった。1-A区で一部焼礫の集中が見られたが、遺物の出土量は多くない。他地区では、焼けた砂岩礫やチャート製の剥片など若干見られる程度である。

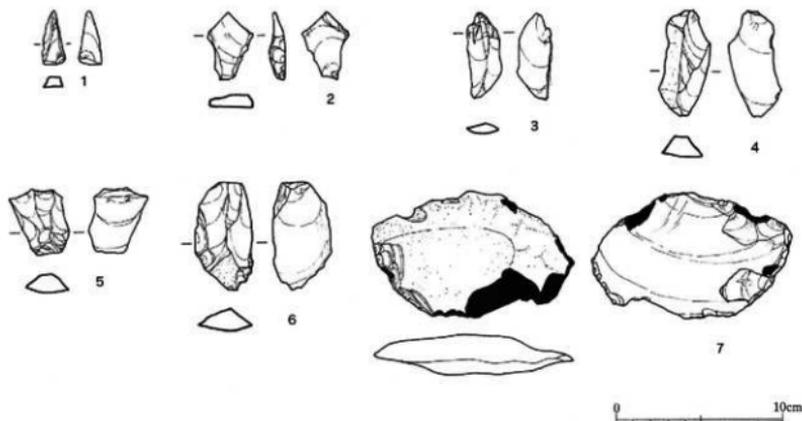
集石遺構からの出土遺物はない。

1号集石遺構は、砂岩の礫が比較的まとまって検出され、掘り込みもしっかりしている。浅い段がつき二段掘り状になっている。敷石が見られる。

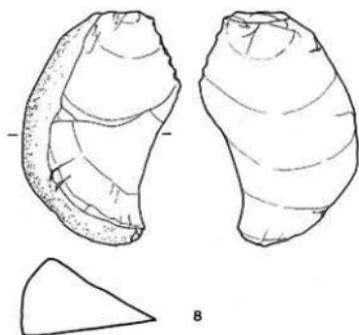
2号集石遺構は、礫は散漫に広がり掘り込みも浅い。一部削平を受けている。

出土遺物では、石鏃(14～18)、尖頭状石器(19)、スクレイパー(20)、礫器(21)、敲打器(22)、楕円押型文土器(23)、貝殻押し文円筒土器(24～27)が出土している。石鏃では剥片の剥離面を残したまま周縁を粗く加工したもの(16)や鉾形鏃(17・18)が出土している。

また、黒曜石製の尖頭状石器は出土例が少なく貴重である。

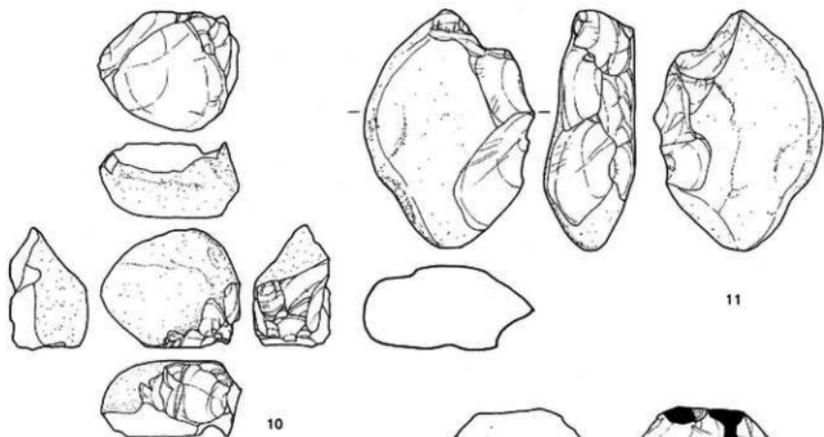


13.旧石器時代出土遺物実測図①(S=1/3)



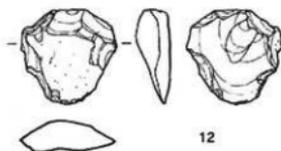
8

9

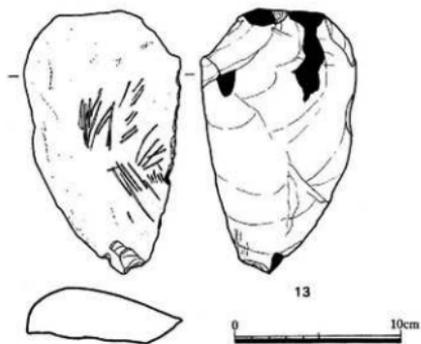


10

11



12



13

0 10cm

14. 旧石器時代出土遺物実測図②(S=1/3)

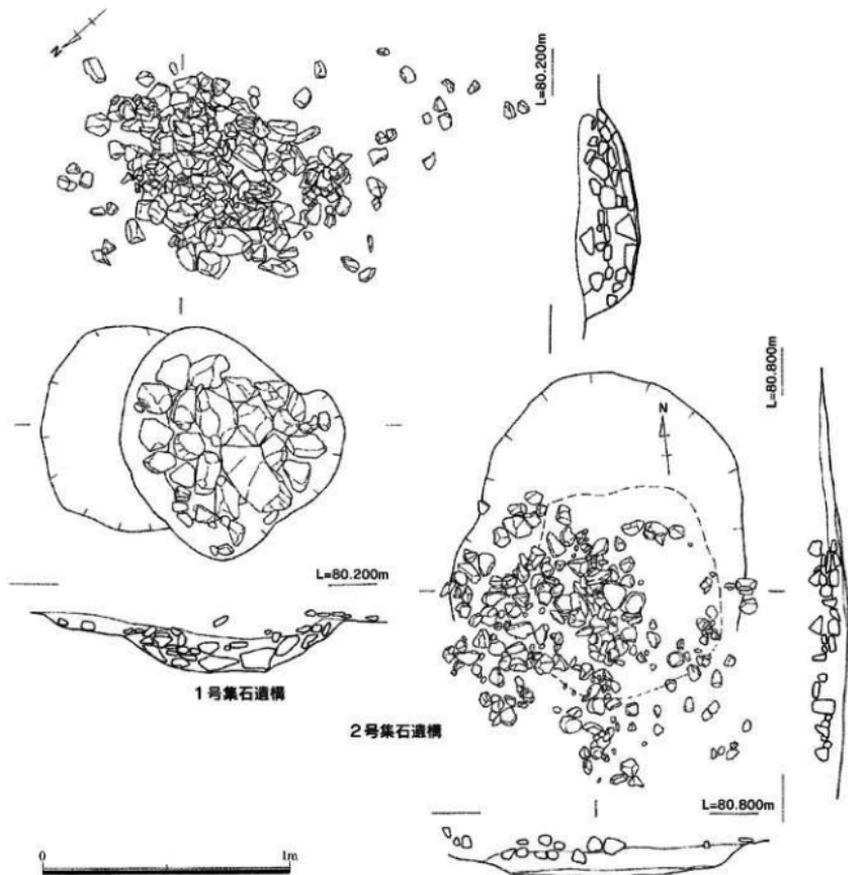
縄文時代前期・縄文時代後期

北方地域では、この時期の遺構は検出されていない。遺物も縄文時代晩期の遺物中に混入して出土している状況である。

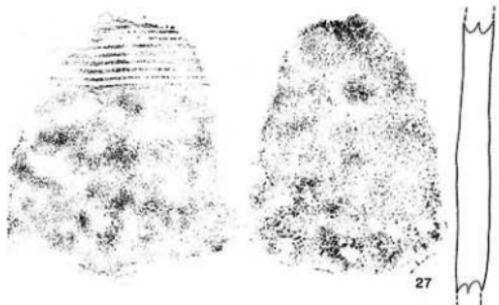
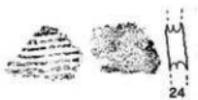
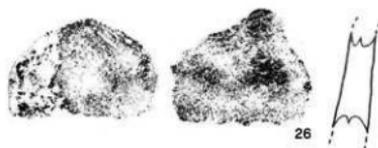
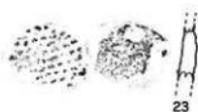
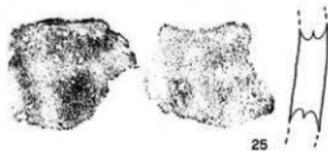
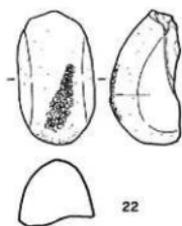
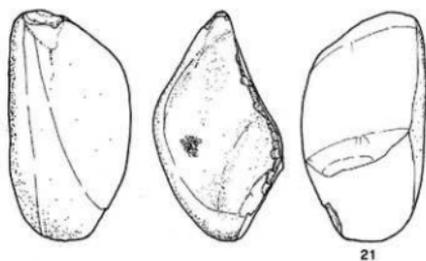
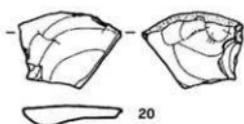
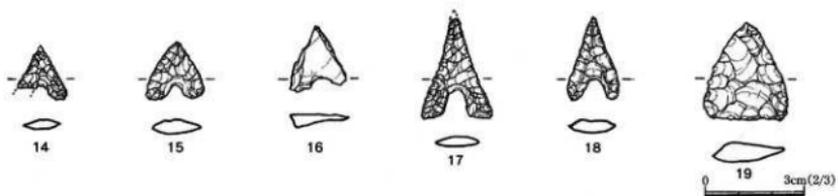
縄文時代前期の遺物としては、貝殻条痕土器（28）、轟B式土器と思われる貝殻条痕文にミミズバレ状の突帯を貼り付ける土器（29・32）が出土している。

縄文時代中期の遺物は出土していない。

縄文時代後期の遺物としては、西平系の磨消縄文土器（30～31・33～34）、口縁部がやや内湾し沈線施文や貝殻ミガキによる調整が施される南九州系土器（35・37～40）が出土している。



15.縄文時代早期集石遺構実測図(S=1/20)



16. 縄文時代早期出土遺物実測図(S=2/3、1/3)

縄文時代晩期

今回の調査において縄文時代晩期の遺構としては、C区で土坑2基を検出した。遺物では、アカホヤ層の風化土壌と思われるV層から数多くの粗製深鉢土器出土しているが、精製浅鉢土器は少ない。

石器では、石鏃、石匙、使用痕剥片、スクレイパー、石錐、加工を有する石器、礫器、石斧（磨製、局部磨製、扁平打製）、石鎌、磨石、敲石、台石等が出土している。

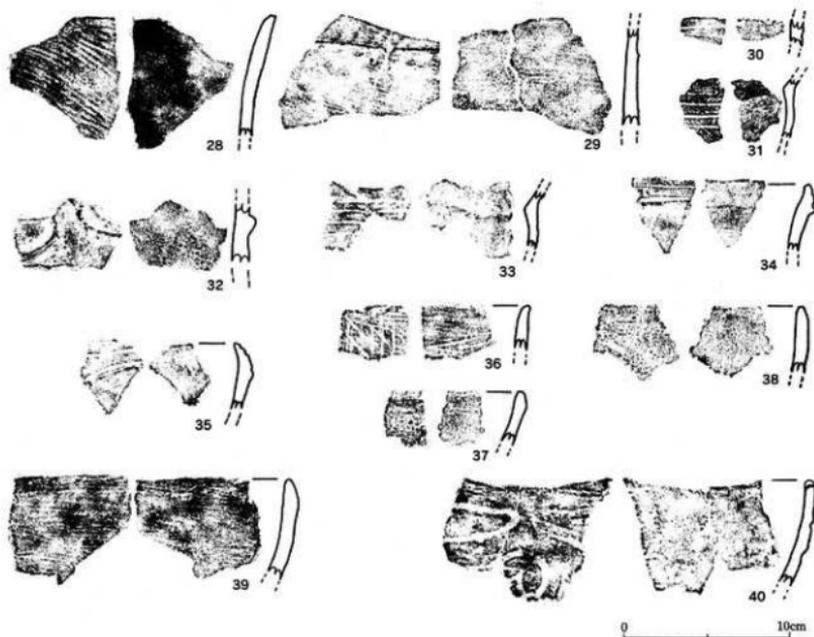
6号土坑は長軸1.96m、短軸0.86mの長楕円形を呈し、検出面から床面まで0.29mを測る。一部攪乱を受けている。出土遺物には粗製深鉢土器（41～46）及び精製浅鉢土器（47・48）がある。床面は平坦でなく、硬化面は見られない。

9号土坑は1.64m、短軸0.45mの四隅が丸い長方形を呈し、検出面から床面まで0.92mを測る。底面には逆茂木痕と思われる小柱穴が4個掘られている。この内、中央の2個は並列する。出土遺物には粗製深鉢土器（49・50・54）及び精製浅鉢土器（51～53）がある。落とし穴と思われる。底面に小柱穴が3～4個掘られている同様の土坑が他に3基検出されたが、明確に当該期の遺構ととらえることができないと判断して別項で取り扱うこととする。

粗製深鉢土器は大まかに次のように分類した。大半はC区のV層からの出土であり、各分類が明確なレベル差を表すものではない。

I類…裏面にはまれに沈線が見られるが、外面に突帯等の文様が見られないもの（55～90）

II類…I類の外面にミミズバレ状の低い突帯がつくもの（91～126）



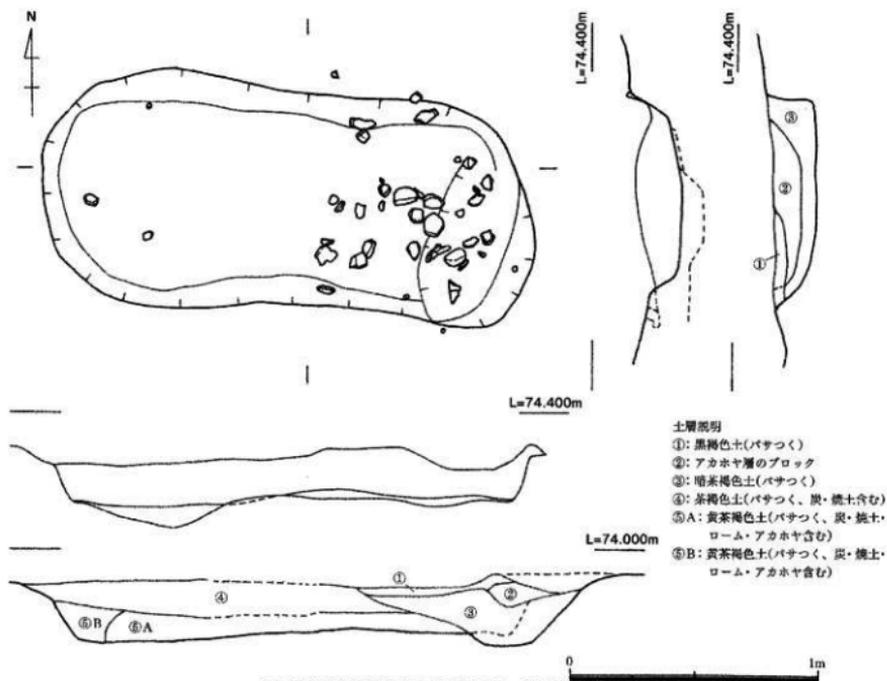
17.縄文時代前期～後期出土遺物実測図(S=1/3)

Ⅲ類…口唇もしくは口唇下部に沈線を施すもの(127~147) 沈線下部が盛り上がり突帯状になったものも含むが、突帯の途中を凹文状にするものも見受けられる。(141~147)

Ⅳ類…口縁部外面の下部を肥厚させて口縁帯を形成するものである。断面が三角形・四角形状・台形状・半円形になるものなどさまざまなバリエーションが見られる。突帯の厚みもさまざまである。(148~214)

Ⅴ類…底部。(215~229) 上げ底あるいは高台的な底部が平底よりも出土例が多い。

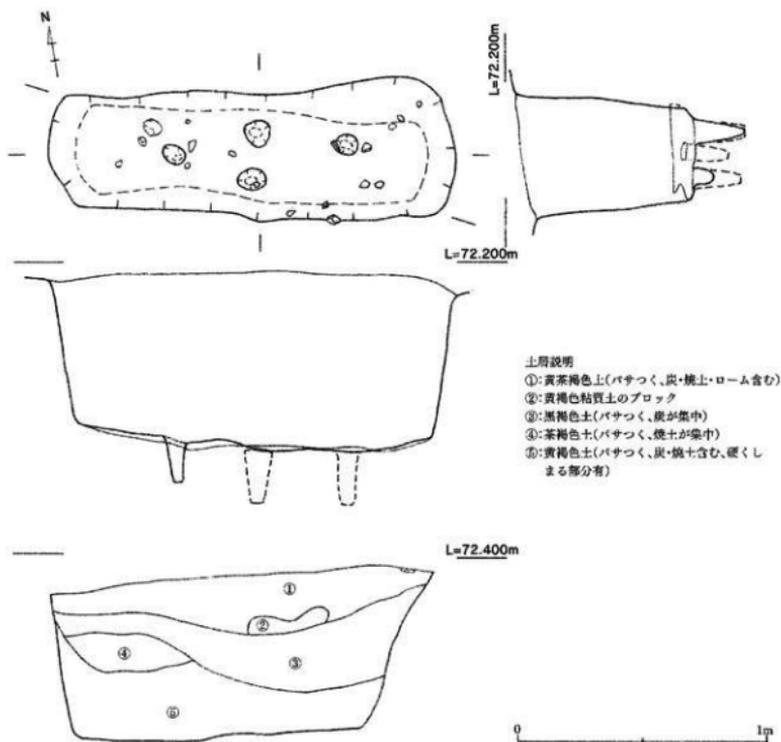
精製浅鉢土器は、粗製深鉢土器に比べて出土量が少ない。また、底部では1点(265)が確認できたのみである。内外面ともに丁寧に研磨されている。文様は沈線を内面もしくは外面の口唇下部に1本程度施すものがほとんどで、まれに複数本(230~233) 施文するものもあるが、施文されないものも多く見受けられる。



18. 縄文時代晩期6号土坑実測図(S=1/20)

比較的小破片が多い。また、鉢（263）や椀（264）も僅かながら出土している。

ここでは、出土した口縁部と頸部・底部をできるだけ取り上げた。237～239は比較的大型の破片で、口縁端部外側直下に明瞭な沈線をもち、同じく内側には不明瞭な沈線がある。比較的最長い口頸部が外側に反って肩部で強く稜をなし、胴部が浅い形態である。241と245は短い口頸部に丸くおさまられた口縁部の組み合わせである。241は245に比べ内側部分が先鋭化している。口縁



19.縄文時代晩期9号土坑実測図(S=1/20)

部のみでの出土であるが、口縁部の下位はゆるい稜をなして浅鉢状を呈する形態になると思われる。
250は、口縁部に見られるヒレ状突起の一部と思われる。

石器

石器では、V層中から石鏃、石匙、使用痕剥片、スクレイパー、石錐、加工を有する石器、礫器、石斧（磨製、局部磨製、扁平打製）、石鎌、磨石、敲石、台石等が出土している。土器と違って明確な時期決定が難しい。

266～274は石鏃である。石材のほとんどがチャート製であるが、まれに姫島産黒曜石の利用が認められる。(267・268)

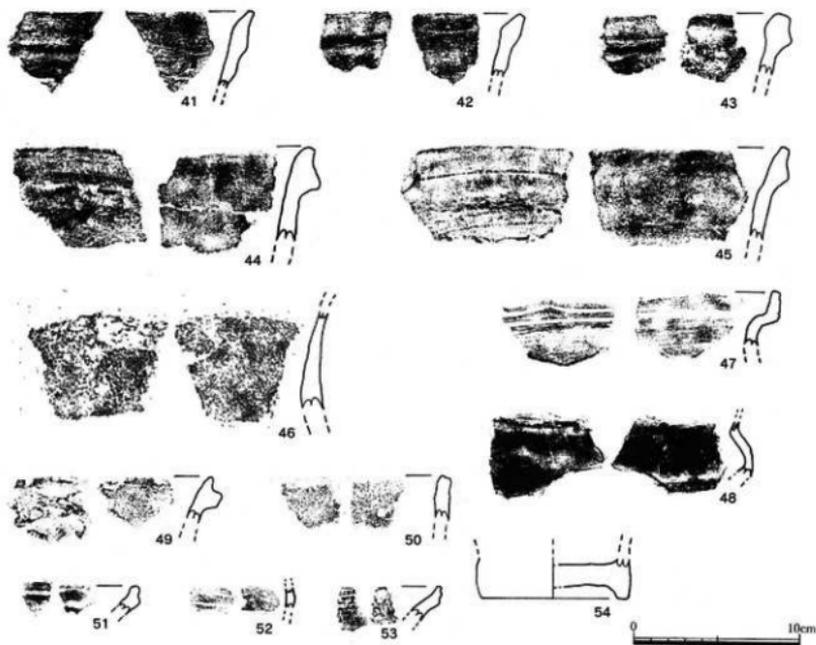
275は黒曜石を使用した使用痕剥片であるが、黒曜石の産地については不明である。

276はチャート製の石匙である。ツمامミ部の加工は粗い。

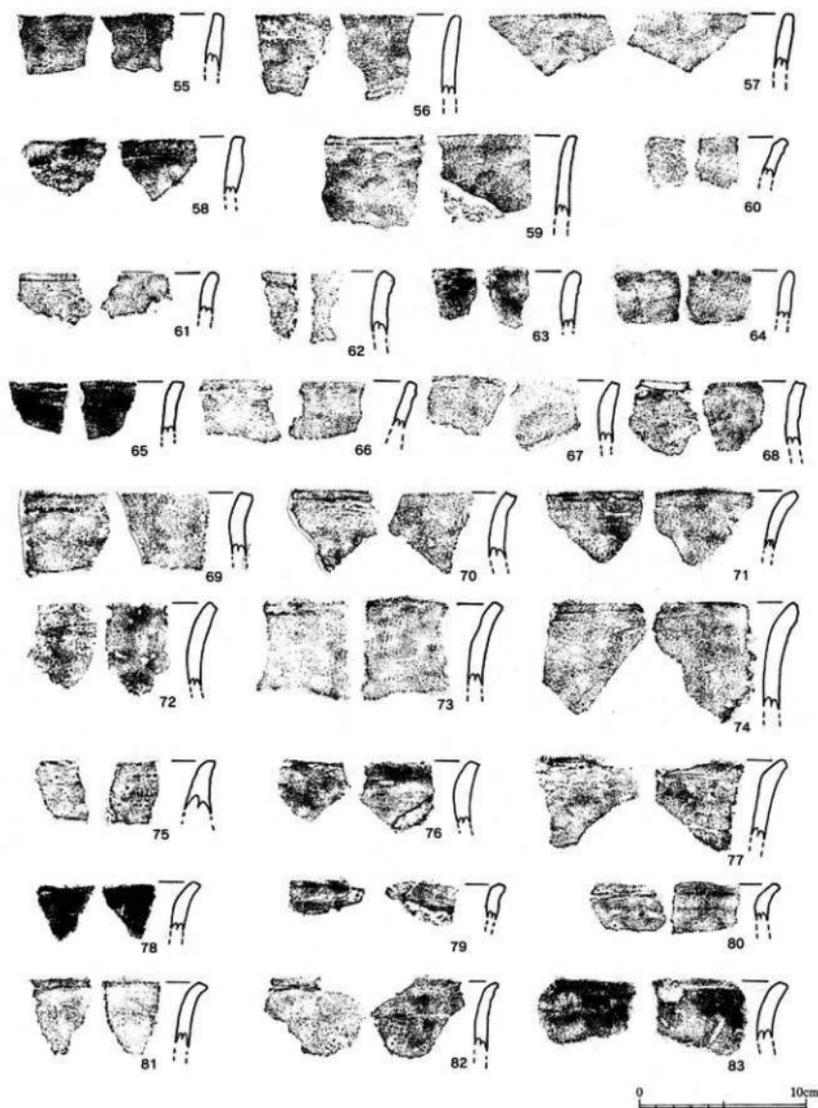
277はチャート製の石錐である。先端部が欠損している。

278・279・284は使用痕剥片である。279の片面は丁寧に研磨されており、あるいは磨製石器の欠損品を転用したものとも考えられる。

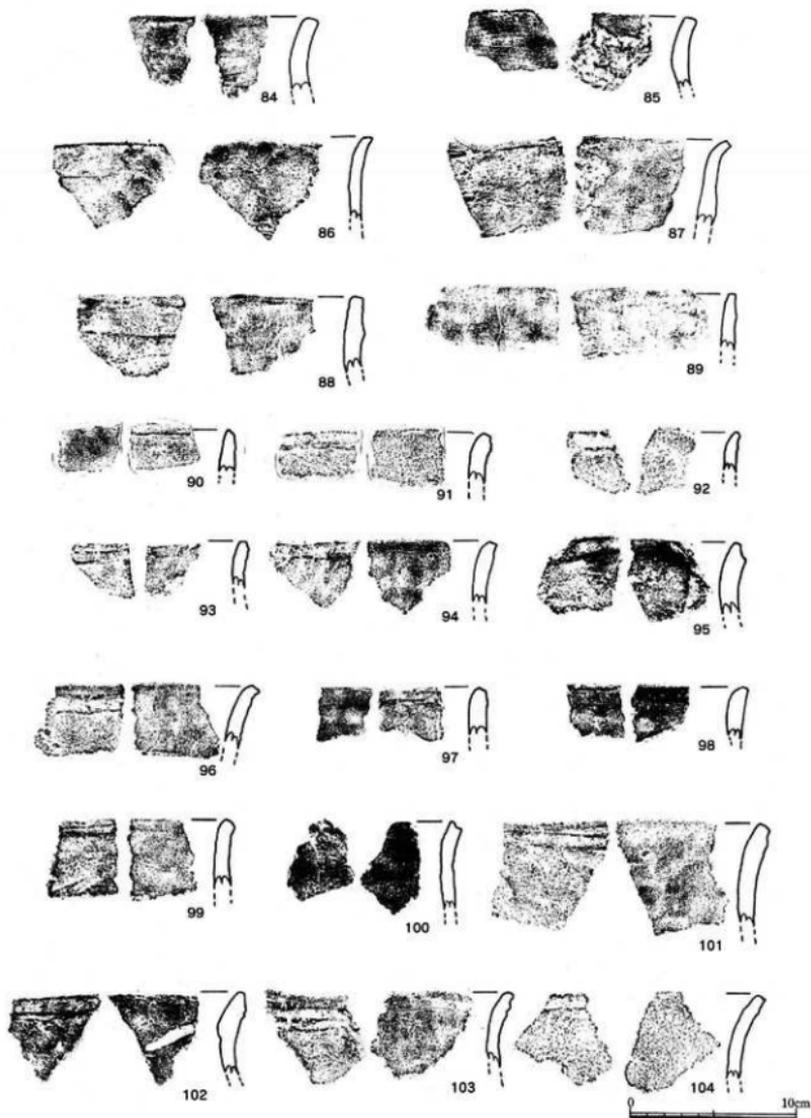
280～283・285はスクレイパーである。282には鋸歯状の加工が見られる。283には



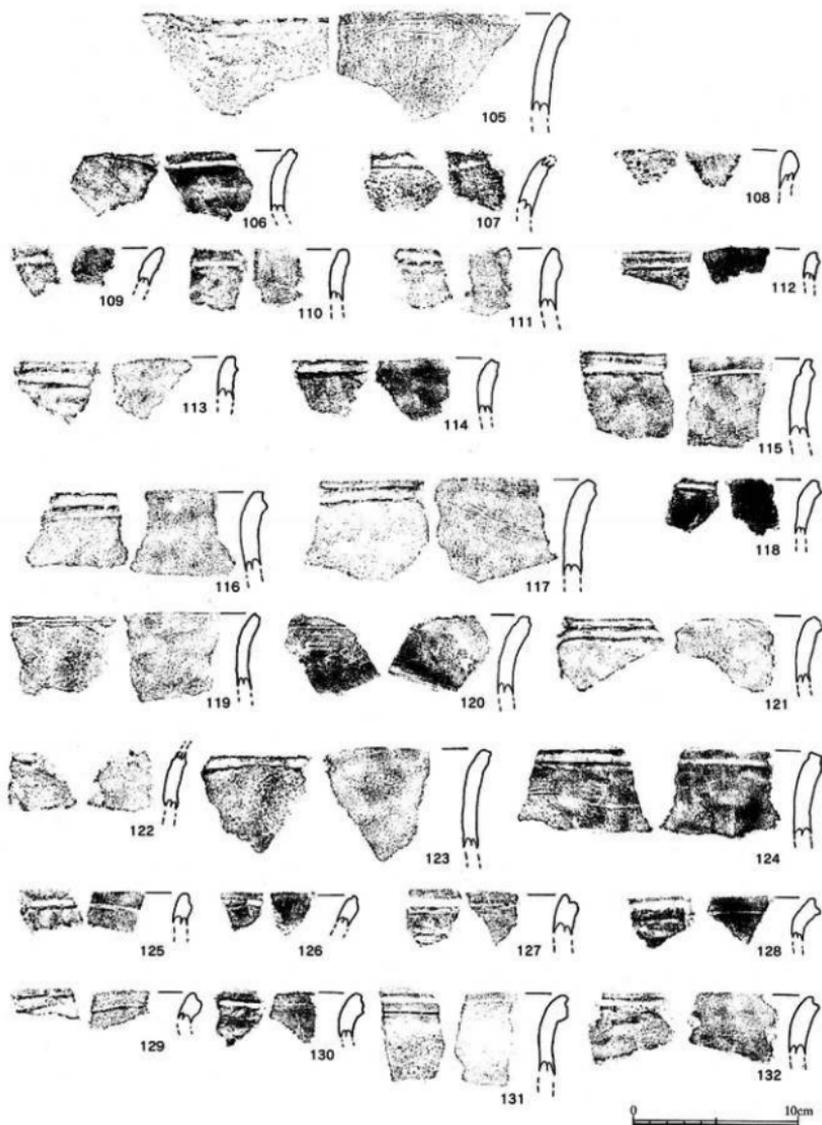
20. 縄文時代晩期土坑内出土遺物実測図(S=1/3)



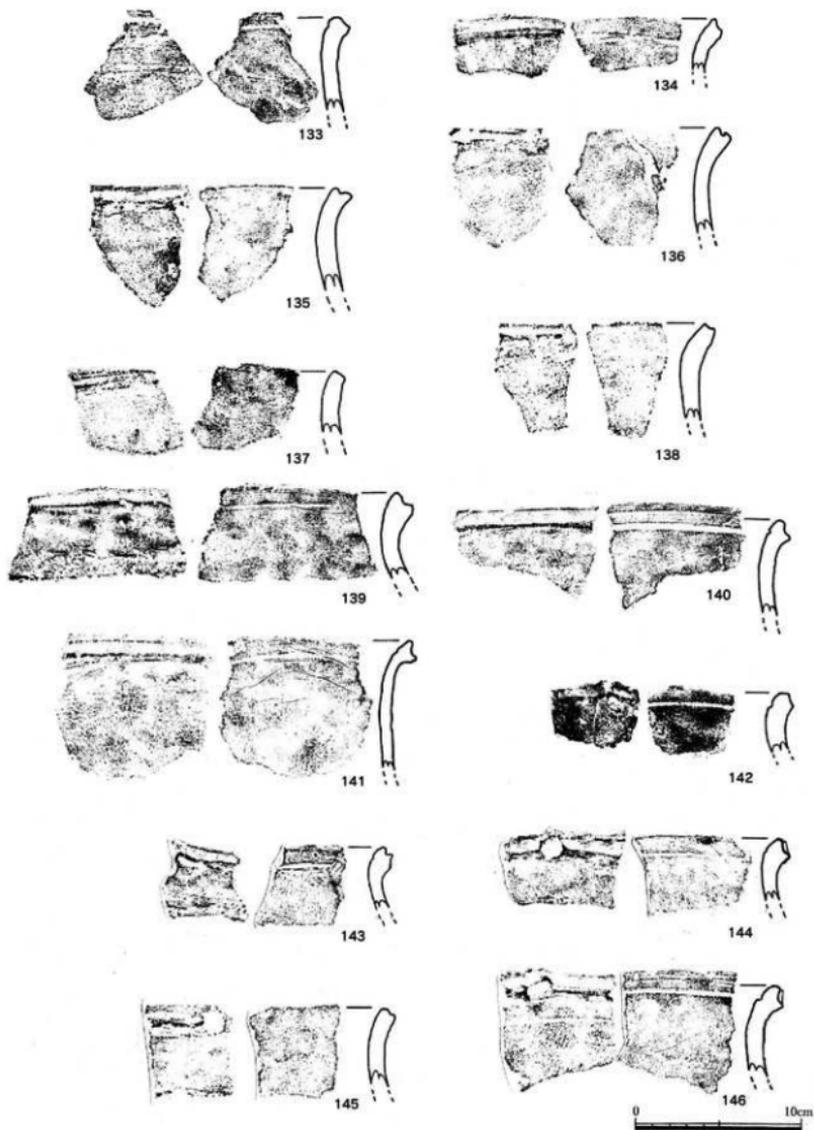
21.縄文時代出土遺物(土器)実測図①(S=1/3)



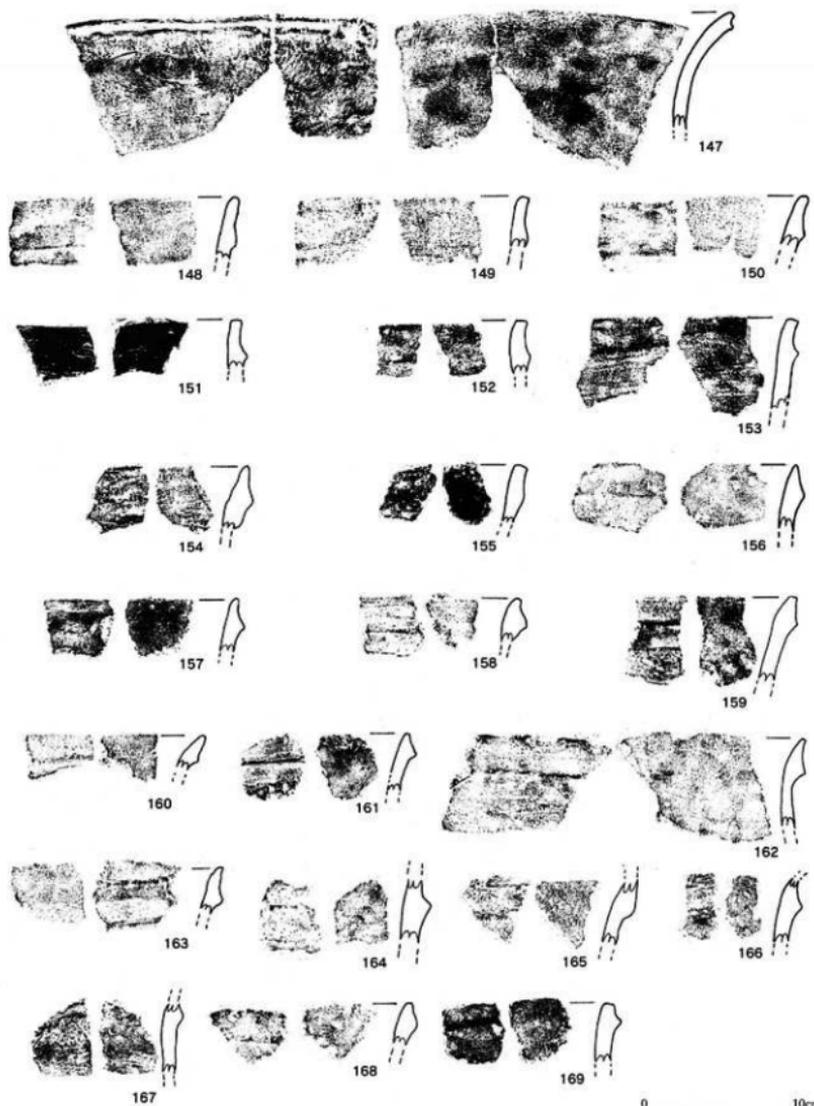
22.縄文時代出土遺物(土器)実測図②(S=1/3)



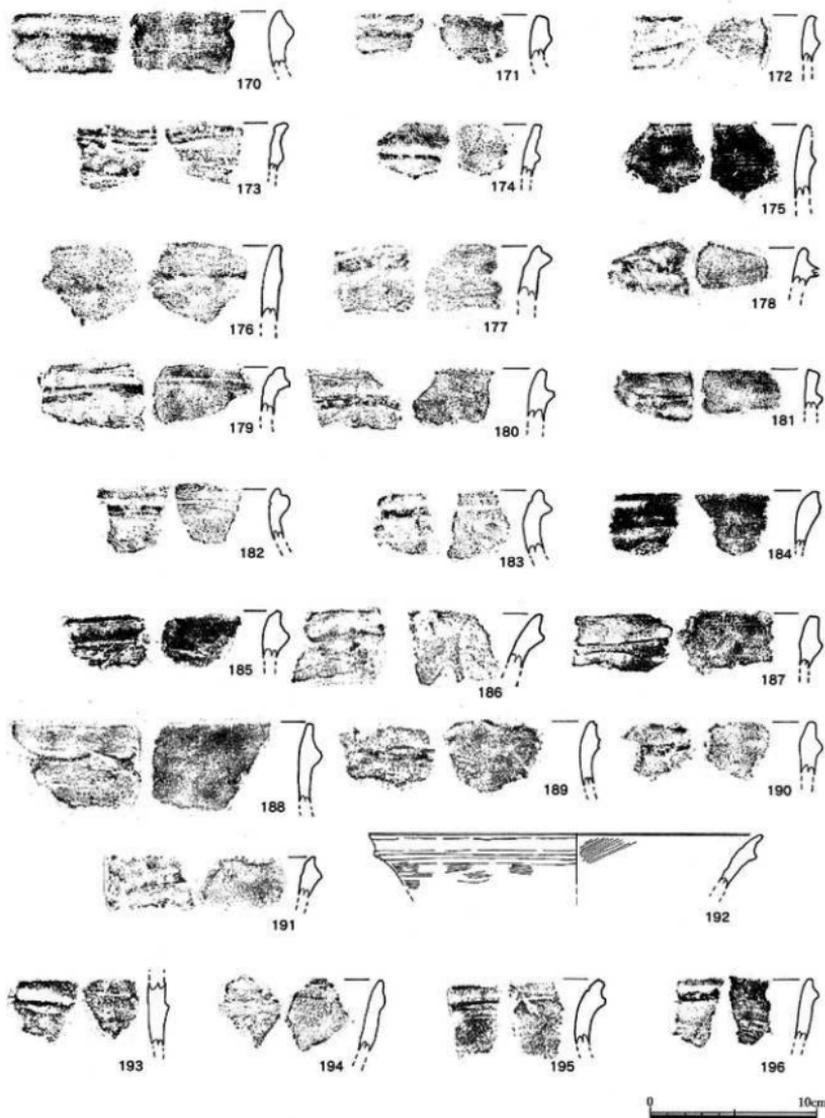
23. 縄文時代出土遺物(土器)実測図③(S=1/3)



24. 縄文時代出土遺物(土器)実測図④(S=1/3)



25. 縄文時代出土遺物(土器)実測図⑤(S=1/3)



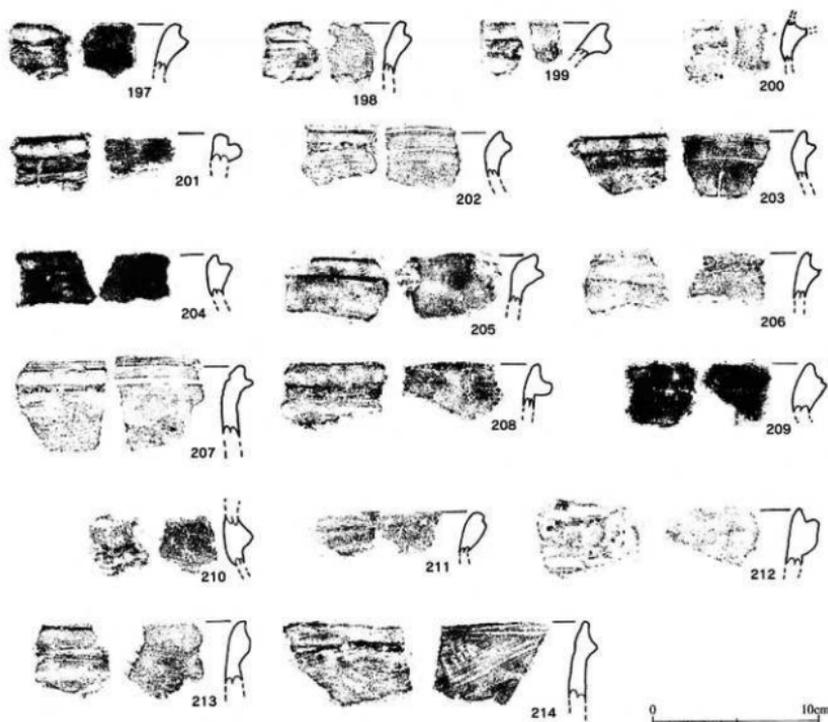
26.縄文時代出土遺物(土器)寅淵園⑥(S=1/3)

弧部に微細な刃部整形加工が見られる。その他の石器の加工は粗い。

286～287は加工を有する剥片である。細長い礫の片面に丁寧な加工が施される。もう片面は自然面で下部を欠損している。石斧等の未製品とも考えられる。287の側縁には丁寧な加工が施されている。片面には自然面が残る。何らかの石器の未製品か、石器の欠損品もしくは再利用品ではないかと考えられる。

288～291は礫器である。288・289・291には側縁には粗い加工が施され、微細な使用痕も認められる。290には敲打痕が残る。

292～308は石斧、309～314は扁平打製石斧である。294・296～297は一部に磨痕が残る局部磨製石斧である。298～301には敲打痕や研磨痕が見られる。302には側面に丁寧な研磨痕が残る。303には全面に粗い剥離痕が施され、一部研磨が見られる。304は片面に剥離痕が、半面には敲打痕と研磨痕が見られる。305は欠損品であるが、片面に丁寧な敲打調整が



27.縄文時代出土遺物(土器)実測図⑦(S=1/3)

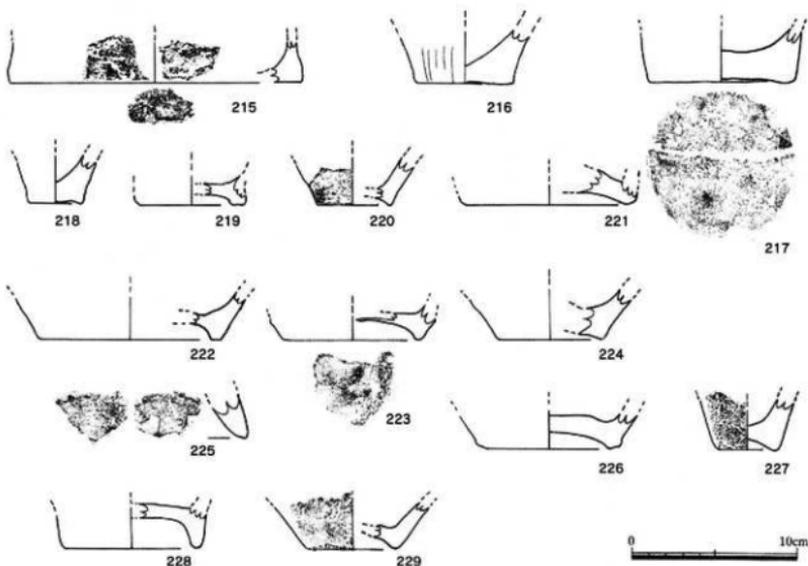
施される。306には側面に柄の装着との関連を窺わせる大きな剥離痕がある。刃部には微細な剥離痕が残る。307の基部には丁寧な研磨が施されている。308は刃部を欠損しているが、全面に丁寧な敲打調整が施される。一部磨痕も認められる。

扁平打製石斧では、有肩タイプものは出土せず、やや撥型のもの(309・310)、上・下端幅のあまり変わらない短冊形のもの(311~313)、やや異形を呈するもの(314)がある。短冊形のものには、片面に自然面の未加工を残すものがある。314は撥型の欠損部を加工しなおして再利用したものと思われる。315も同様に短冊形様の両端の欠損部を加工して再利用した石器と思われる。

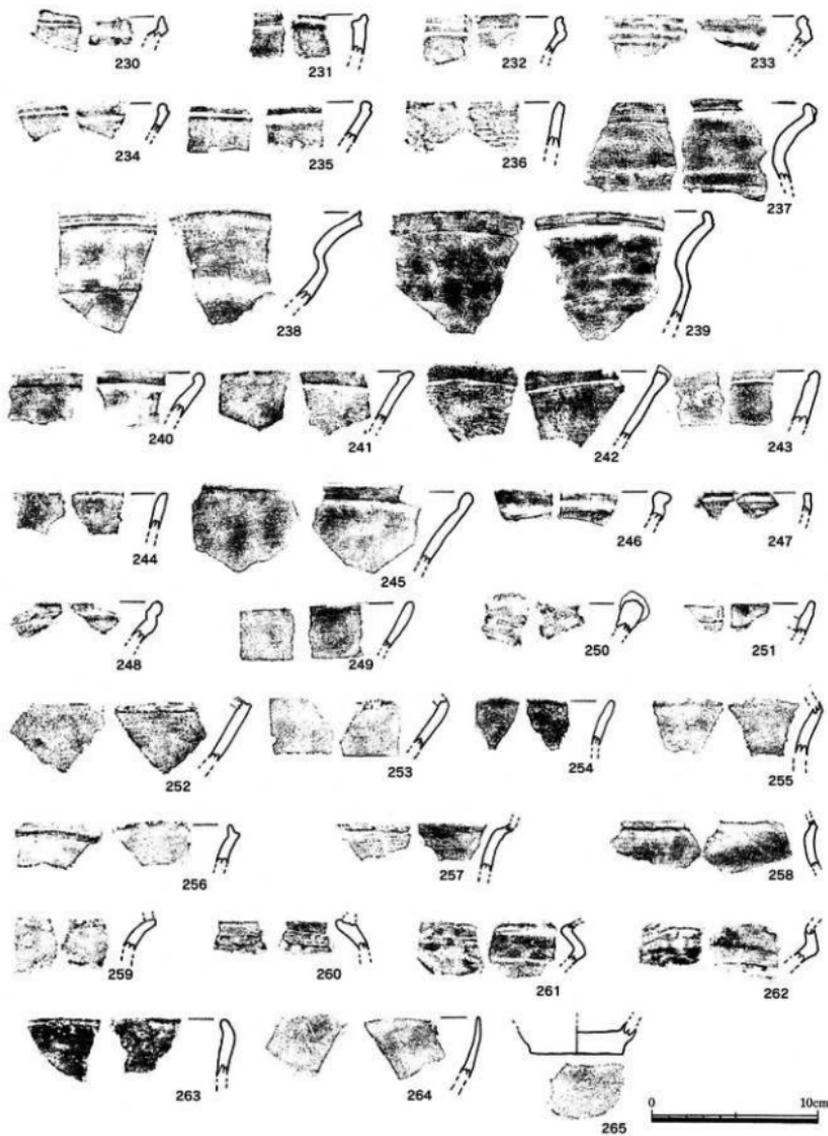
316は石鎌と思われる石器である。片面に自然面が残り、刃部には細かい加工が、背部には粗い加工が施される。317~324は砂岩製の剥片の一部に加工を施した石器である。刃部として使用したと思われる部分には使用痕と思われる刃こぼれが認められる。片面に自然面を残す石器が多い。

今回の調査では、磨石、叩石等の敲打器の出土例も多い。(325~346)山間部での植物性蛋白の取得を目的とした生活の一端を垣間見るようで興味深い。

325は小型の自然礫を磨ったものである。326・327は自然面を残しながらも細かい剥離で形を整えたものである。326は両端に敲打痕が残る。327は一端と側面の一部に敲打痕が見られるが敲打痕や磨痕は見られない。328と329は棒状の礫の端部に敲打痕が認められる。330の一端には打撃による剥離が見られる。331と332は半損礫を利用し、自然面側の一端に打痕が残

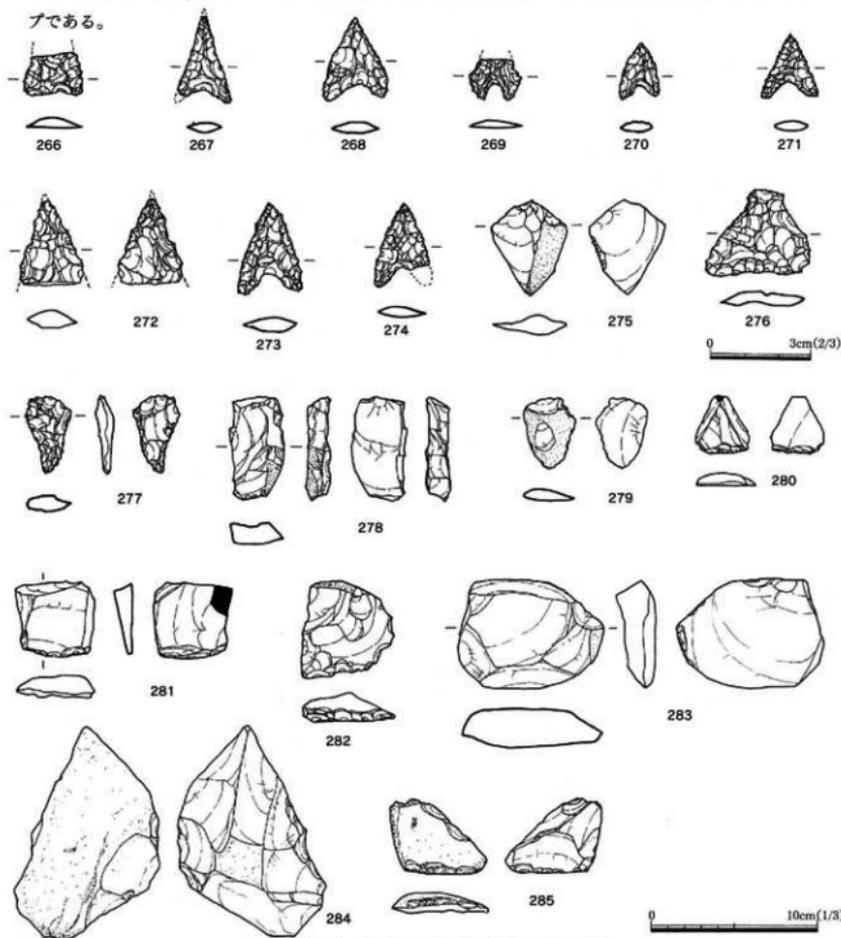


28.縄文時代出土遺物(石器)実測図⑥(S=1/3)



29. 縄文時代出土遺物(土器)実測図⑨(S=1/3)

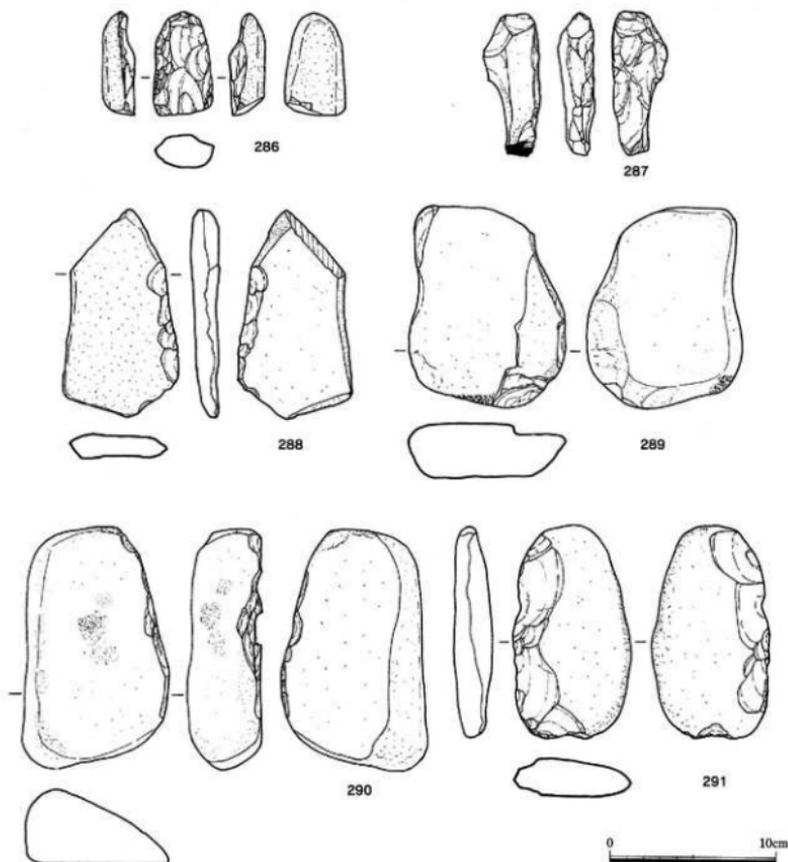
る。331は受熱のためか赤変して、もろくなっている。使用痕は顕著に残る。333は使用時の衝撃のためか1/3を欠損している。端部だけでなく側面の縁部分にも使用痕が見られる。334は洋ナシ型の礫を使用した叩き石で、端部には顕著な剥離痕が見られる。反対側の端部と側面には敲打痕がある。受熱による風化が顕著である。335には両面に磨痕が、側面に敲打痕が見られる。336には磨痕はなく敲打痕が側面にみられる。337には端部と側縁には丁寧な敲打痕が残るが、両面は自然面のままである。338は側縁の一部にのみ敲打痕が見られる。339と340には礫の両端と側縁部に敲打痕が残る。341には片面と両端部に敲打痕が残る。342は336のタイプが分割礫となったものである。343・344は両面を丁寧に磨き、側面にはあまり敲打痕が見られないタイプである。



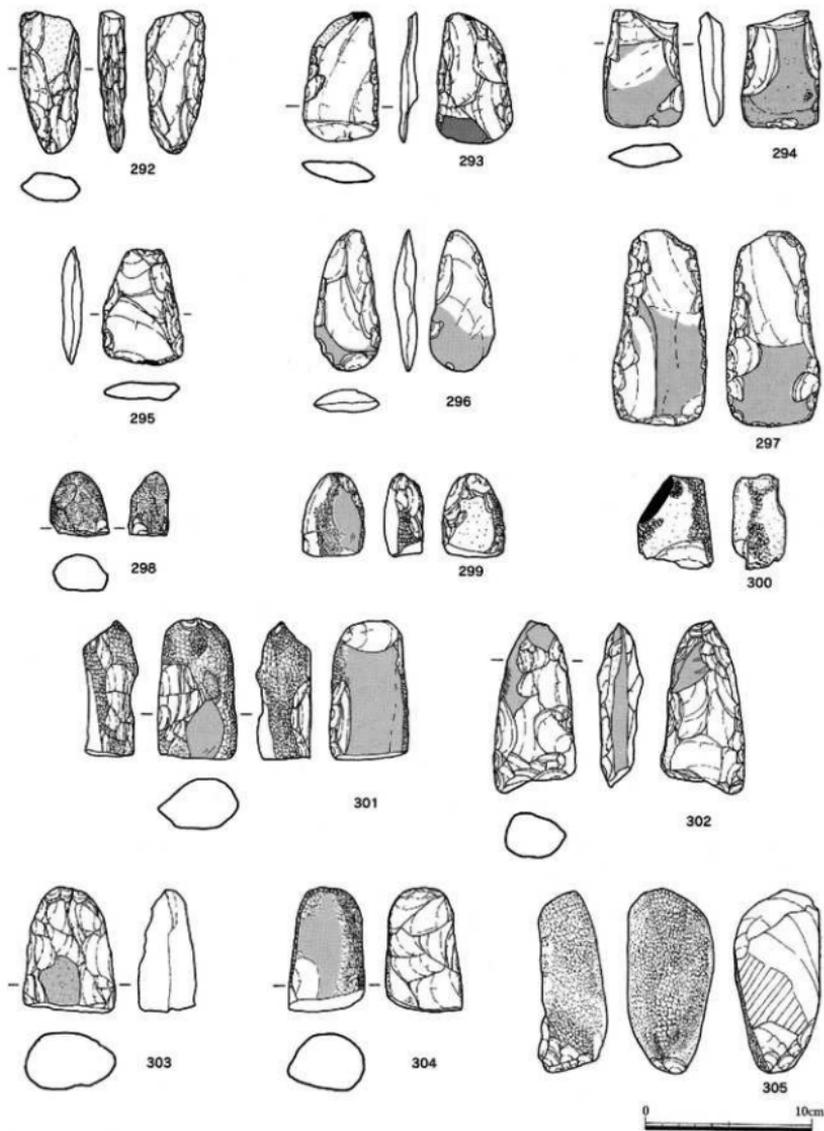
30.縄文時代出土遺物(石器)実測図⑩(S=1/3, 2/3)

344は半分が欠損しているが、割り面の縁にも利用の後が見られる。345は両面を丁寧に磨き側面全周に敲打痕が残るタイプである。346は、1-C区のV層中より出土した砂岩製の台石である。顕著な敲打痕・磨痕はみられない。

石材は、石燧や剥片石器ではまれに姫島産等の黒曜石が利用されているが、ほとんどがチャートや頁岩、安山岩、ホルンフェルス、緑色岩等五ヶ瀬川の転礫が利用されている。石斧では凝灰岩、砂岩、ホルンフェルスが利用されているが、扁平打製石斧ではほとんど砂岩を利用している。この砂岩の剥片を利用した石器も多いが、多くの石器には片面に自然面を残している。敲打器には砂岩が多用され、凝灰岩やホルンフェルス、花崗斑岩も利用されている。



31. 縄文時代出土遺物(石器)実測図⑩(S=1/3)

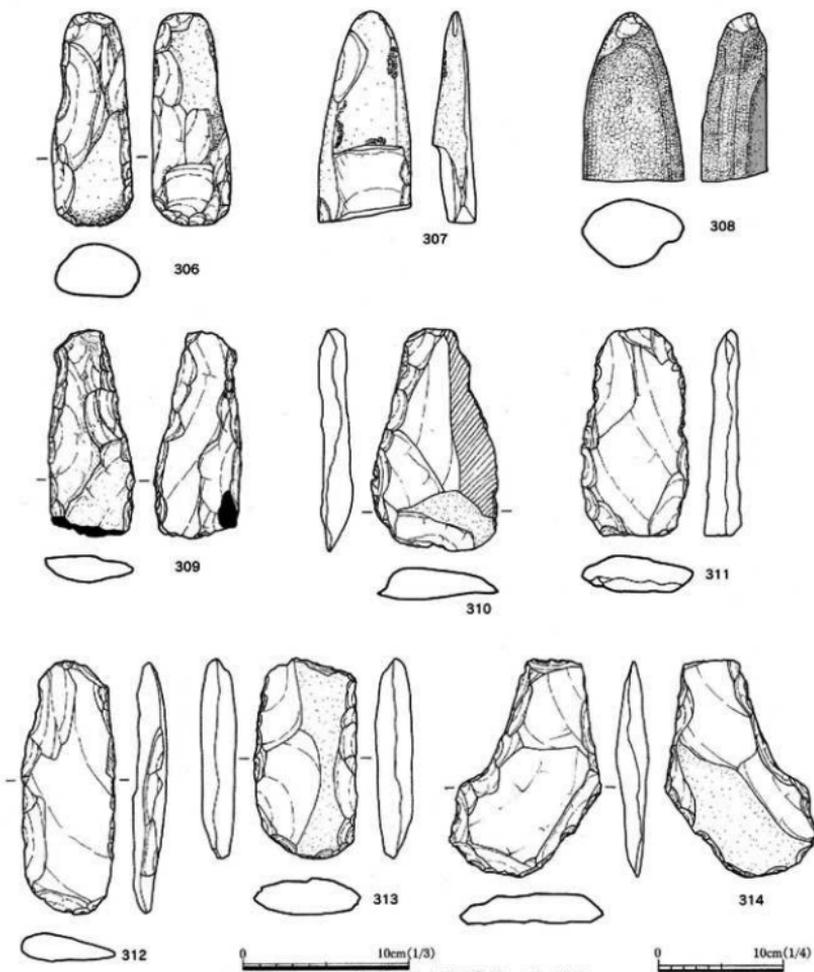


32. 縄文時代出土遺物(石器)実測図②(S=1/3)

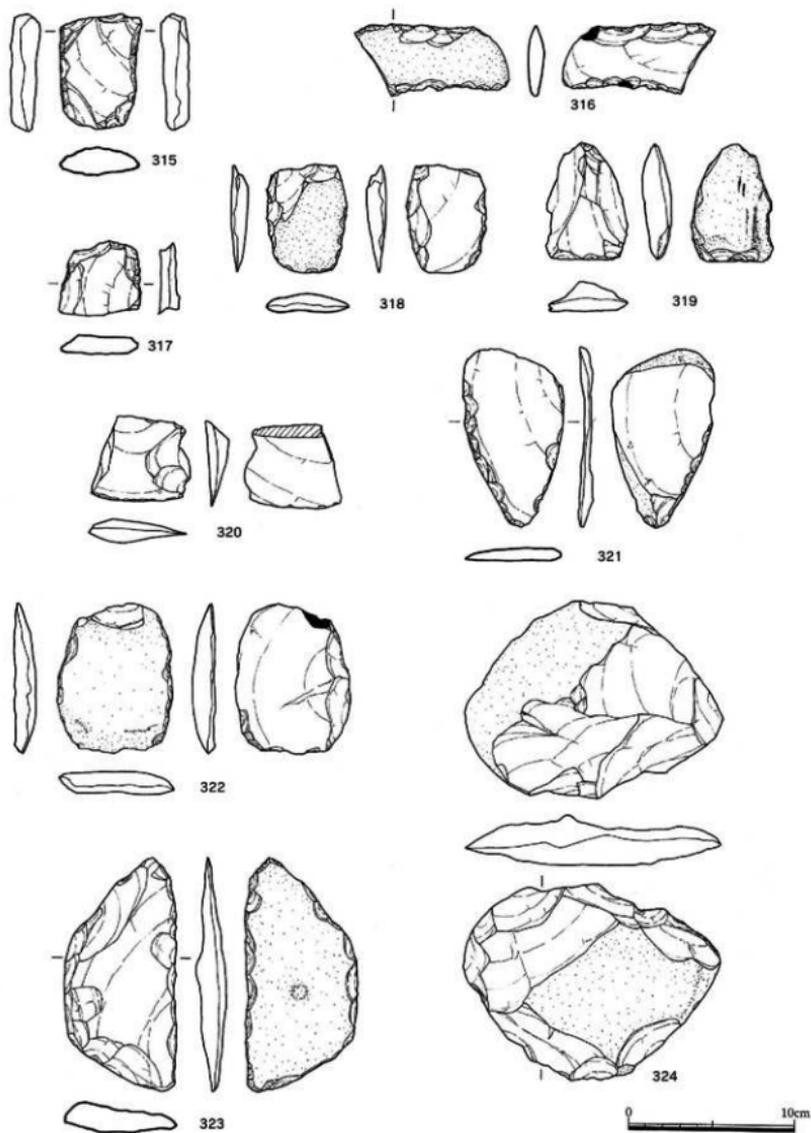
弥生・古墳時代

この時期の遺構としては竪穴住居跡が10軒確認された。1-A区で6軒、B区で3軒、C区で1軒となっている。竪穴住居跡内から出土した遺物から時期としてはほぼ古墳時代前期に営まれたものと考えられる。竪穴住居跡間には重複関係は認められなかった。

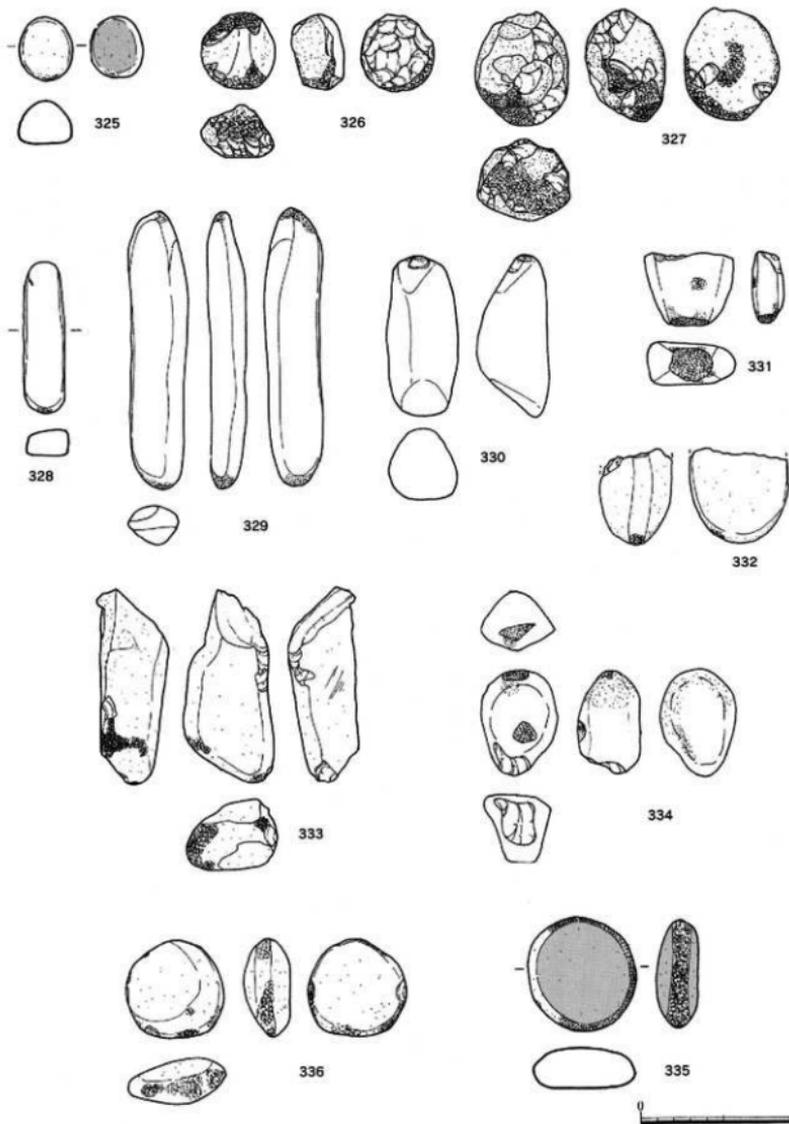
その他の遺構としては、土坑や柱穴も検出されたが、当該期の遺物が主体的にでないことやC区では中・近世の遺物も同レベル・同一層中から出土しているため弥生・古墳時代のものと特定することができない。



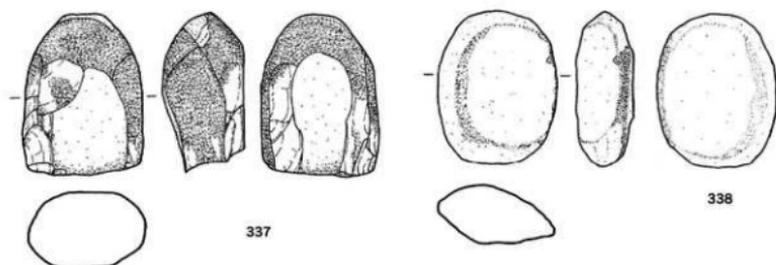
33. 縄文時代出土遺物(石器)実測図③(S=1/3, 1/4)



34. 縄文時代出土遺物(石器)実測図④(S=1/3)

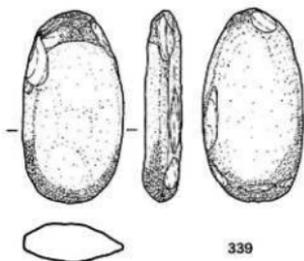


35. 縄文時代出土遺物(石器)実測図⑮(S=1/3)

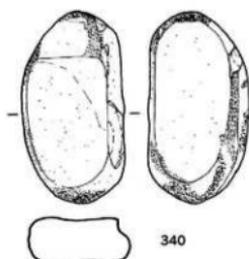


337

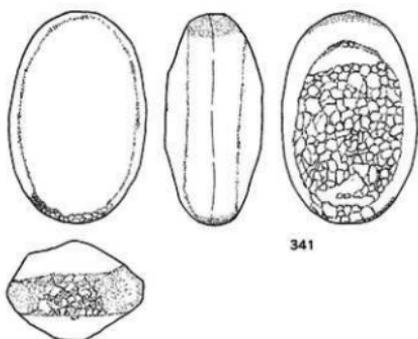
338



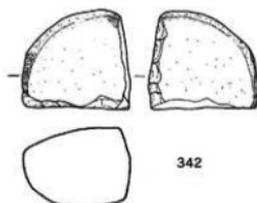
339



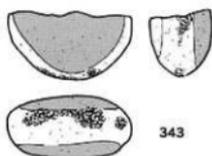
340



341



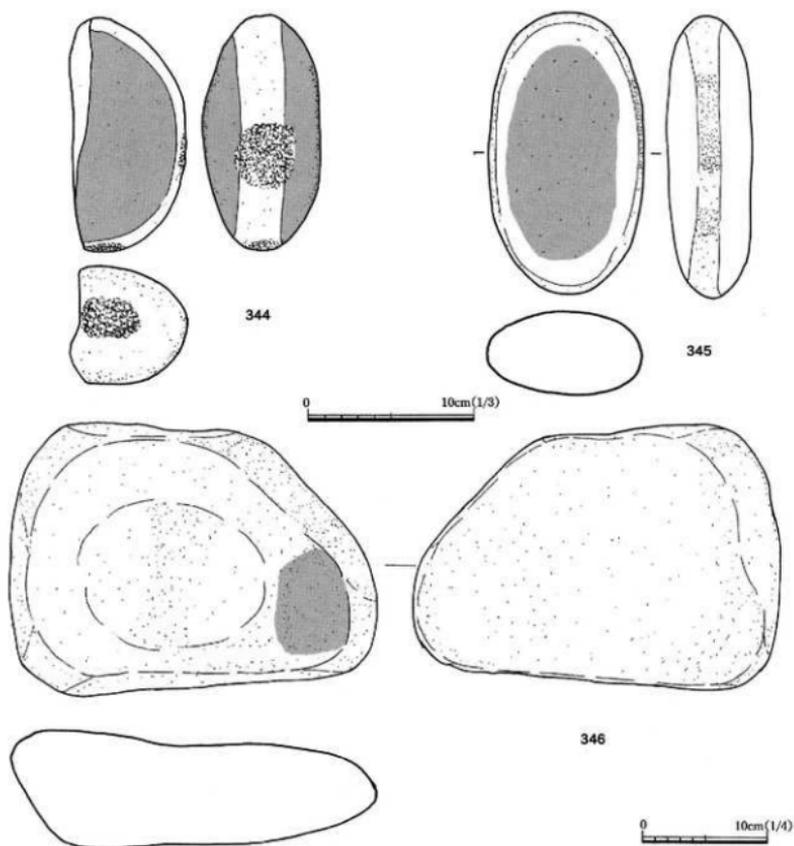
342



343



36.縄文時代出土遺物(石器)実測図⑩(S=1/3)



37.縄文時代出土遺物(石器)実測図⑦(S=1/3, 1/4)

また、遺物のほとんどがC区のV層中から出土し、A区・B区では竪穴住居跡以外からはほとんど出土していない。弥生時代後期から古墳時代の遺物については、分離することが困難なものが多いので別項でまとめて述べる。遺物のほとんどは土器で、須恵器も若干出土している。

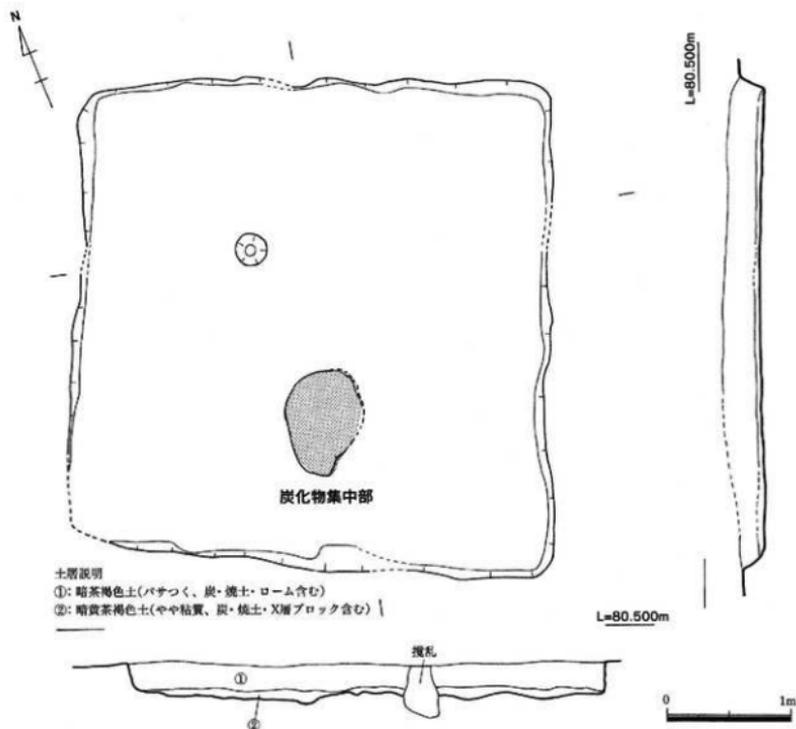
C区では、V層を掘り下げる段階で床面と思われる硬化面と柱穴を検出したが、覆土は確認できなかった。同レベルで台石(346)が出土しているが、焼土の集中部は確認できていない。また、南東部分の硬化面は削平により不明である。出土遺物も縄文時代晩期の遺物との混在が見られ明確に当該期の遺構と判断できなかったため、別項で建物遺構として取り扱っている。

1号竪穴住居跡

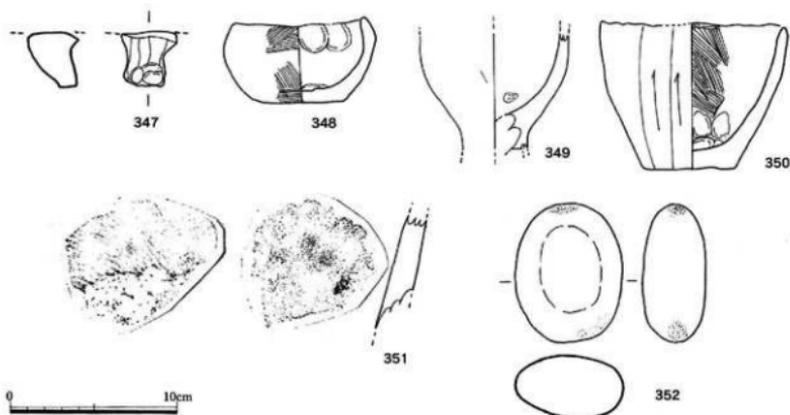
平面形は隅丸方形でピットを1つと床面直上で炭化物集中部を検出した。長軸は4.08m、短軸は3.82mを測り、検出面から床面までは0.3mである。床面はほぼ平坦で、出土遺物には高杯の脚との接合部を埋める部品(347)、椀(348)、壺(349・351)、鉢(350)、砂岩製の磨石(352)、不明鉄器(353)の基部がある。遺物量は少なく、覆土には耕作土が混じる。炭化物の分析を行なった結果、1,037AD~1,160ADの値がでている。木根等による攪乱の影響も考えられる。

2号竪穴住居跡

平面形は細長い台形上を呈す。ピットは確認できなかった。中央部分が床面よりやや盛り上がり、南側にやや寄ったところに焼土と炭化物の集中部が見られる。長軸は4.76m、短軸は上底部分3.



38. 1号竪穴住居跡実測図(S=1/40)



39.1号竪穴住居跡出土遺物実測図(S=1/3)

7.6 m、下底部分4.38 mを測り、検出面から床面までは0.32 mである。貼床が認められる。床面はほぼ平坦であるが、床面上部にX層が露出しているためか凸凹した部分をローム層で塞いでいる状況である。出土遺物には甕(354・355)、砂岩製の砥石(356・357)、頁岩製の不明石器(358)、錐状鉄器(353)、不明鉄器(360・361)がある。358は側面に磨痕があり砥石としての機能も考えられる。錐状鉄器は勾玉などの穿孔に使われた可能性が高い。

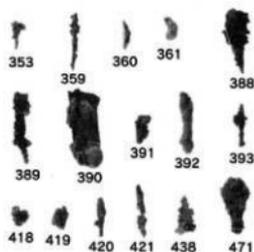
炭化物の分析を行なった結果、208 AD～261 ADの値がでている。また、炭化材は分析の結果、ツバキ科ツバキ属と同定されている。用途は不明である。

3号竪穴住居跡

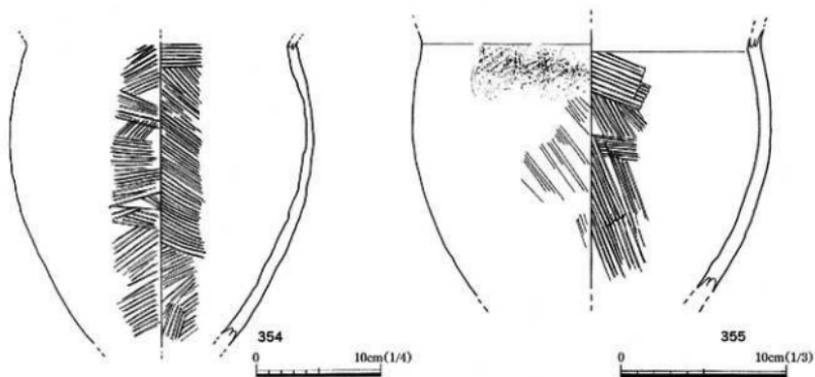
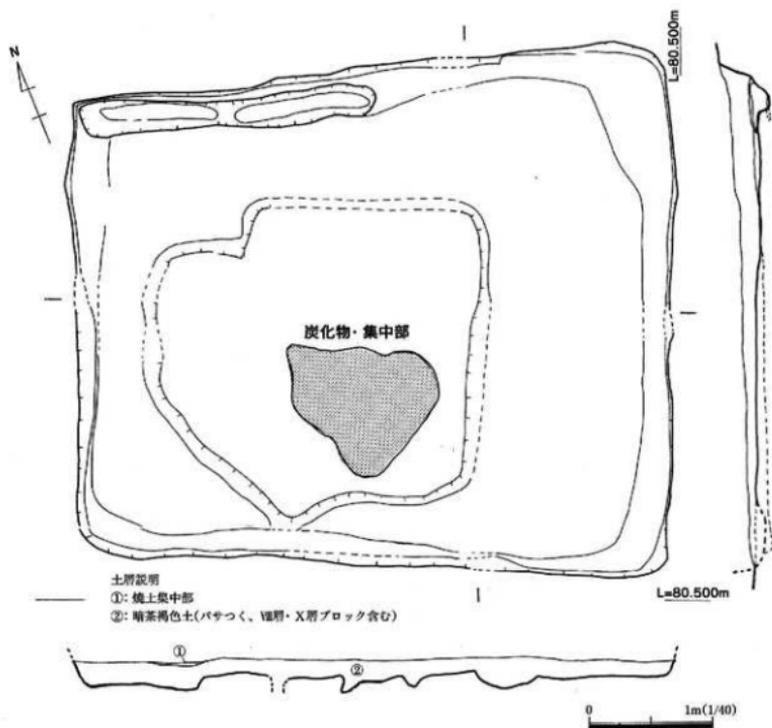
平面形は隅丸方形で中央部に炭化物や焼土の集中部が散在する。ピットは検出されず、南側の隅に土坑が掘られ壺底部(362・363)が出土している。長軸は3.64 m、短軸は3.44 mを測り、検出面から床面までは北東側の斜面上部で0.2 mである。南西側の斜面下部では覆土の状態からか



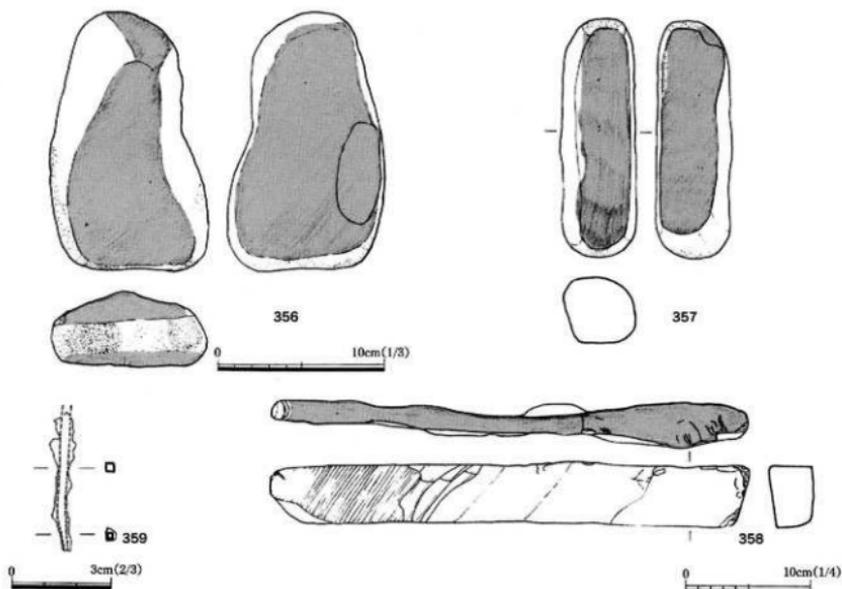
40.出土遺物写真(玉類)



41.出土遺物写真(鉄器類)



42.2号竪穴住居跡及出土遺物実測図①(S=1/3、1/4、1/40)



43.2号竪穴住居跡出土遺物実測図②(S=1/3, 2/3, 1/4)

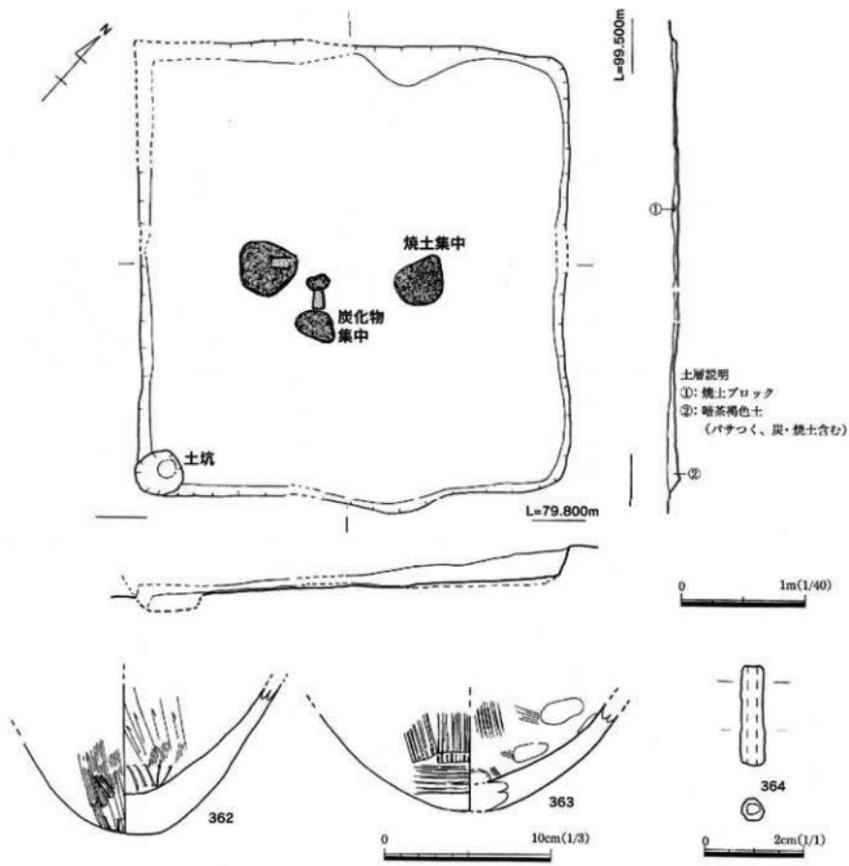
ろうじて床面の立ち上がりを確認した。床面はほぼ平坦で、出土遺物には、東側の壁際で凝灰岩製の管玉が出土している程度である。炭化物の分析を行なった結果、244 AD～357 ADの値がでている。

4号住居跡

8.92m×7.93mの長方形を呈し、検出面から床面までは0.69mを測る。床面は平坦で、貼床が見られる。主柱穴は4本で、中央に1ヶ所、南東と北西の柱穴の横にさらに1つつ柱穴が掘られる。当遺跡で検出した他の竪穴住居跡の柱穴と比べると、規模も関係すると思われるが、数も多くしっかりとしている。

中央の柱穴の北側にはかなり広範囲に焼土及び炭化物の集中が見られたが、5cm程度の堆積層が床面上に見られのみで土坑状の掘り込みはなかった。中央の柱穴の南側にはやや楕円形を呈する浅い土坑を検出したが、焼土や炭化物は検出されず、土坑の南側にほぼ同規模の焼土の集中が見られた。北側の焼土の集中部と同様に土坑状の掘り込みは見られなかった。北側の焼土集中部より出土した炭化物の分析を行なった結果、244 AD～357 ADの値がでている。

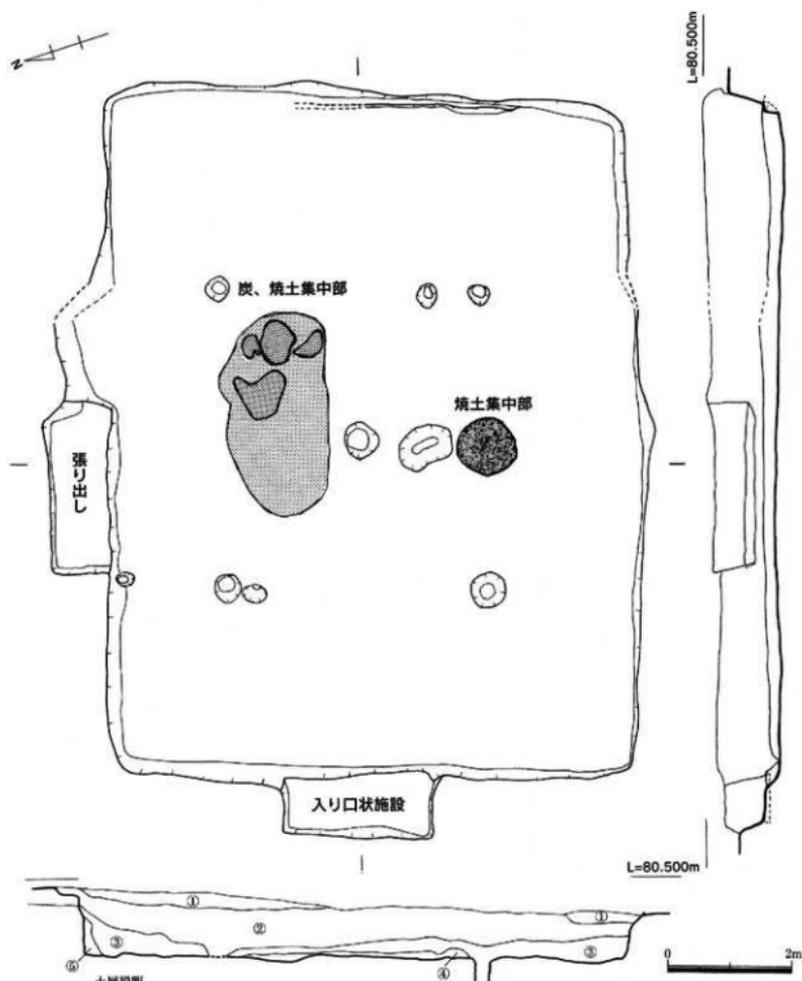
北側の壁際で小ピットが確認された。近くには棚状の張り出しが確認され、何らかの関連も伺われる。棚状の張り出し部からは土器片が若干出土したのみである。



44. 3号竪穴住居跡及出土遺物実測図①(S=1/1, 1/3, 1/40)

西側の張り出しの規模は、北側の張り出しとほぼ同規模であるが、床面に近い位置で段が形成されるため、入り口状施設と推察される。床面は平坦で北側の張り出し状遺構に比べかなり硬くしまっている。東側の壁際には、入り口状施設と同レベルで狭い段を検出したが、中央から北側部分は確認できなかった。入り口状施設との関連については不明である。

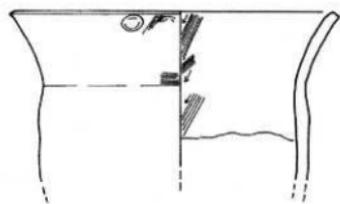
出土遺物には、甕(365・366)、壺(367~369・371)、緑色岩の石核(370)、砂岩製の敲打器(372)、砂岩製の叩石(373・374)、頁岩製の砥石(375・376)、凝灰岩製の磨石(377)、鉄分が附着した砂岩製の敲打器(378)、砂岩製の磨石(379・380)、荒削した砂岩礫の角部分に敲打痕を施す石器(381~383)、細長い砂岩礫の八面をすり面とと



土層説明

- ①: 明茶褐色土(バサつく、炭・焼土含む)
- ②: 暗茶褐色土(バサつく、炭・焼土含む)
- ③: 黄茶褐色土(やや粘質、炭・焼土含む)
- ④: 明黒褐色土(粘質、炭・焼土含む)
- ⑤: 暗黄茶褐色土(やや粘質、炭・焼土・福層ブロック含む)

45.4号竪穴住居跡実測図(S=1/80)



365



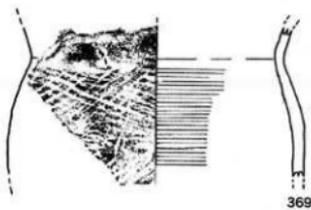
366



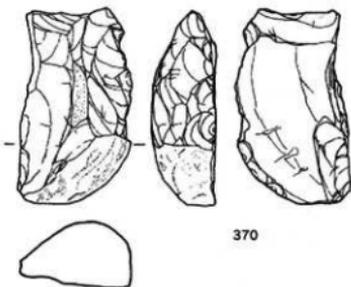
367



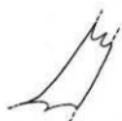
368



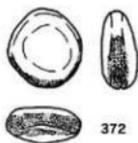
369



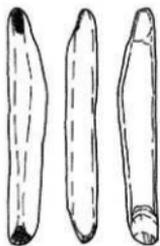
370



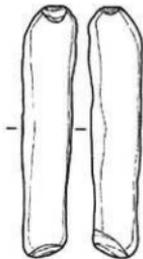
371



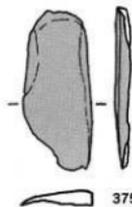
372



373



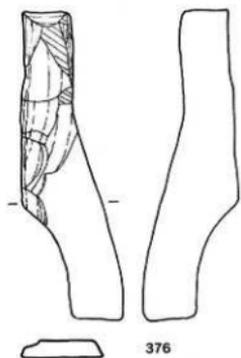
374



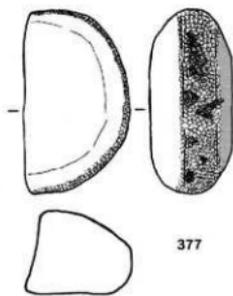
375



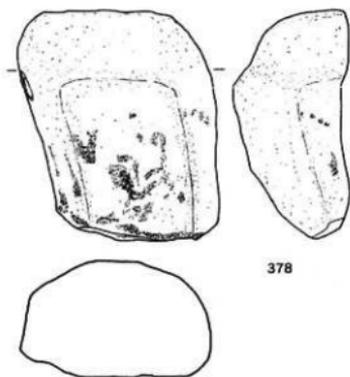
46.4号竖穴住居跡出土遺物実測図①(S=1/3)



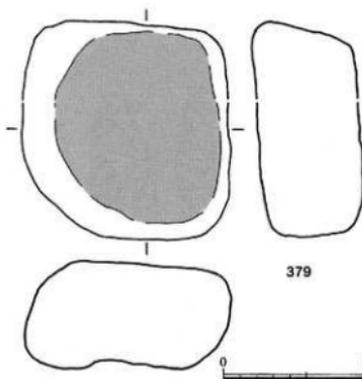
376



377

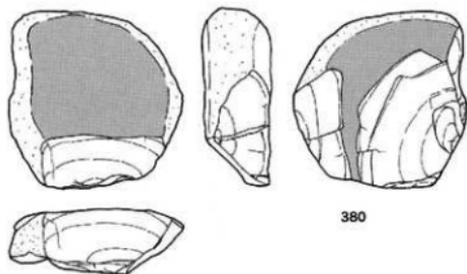


378



379

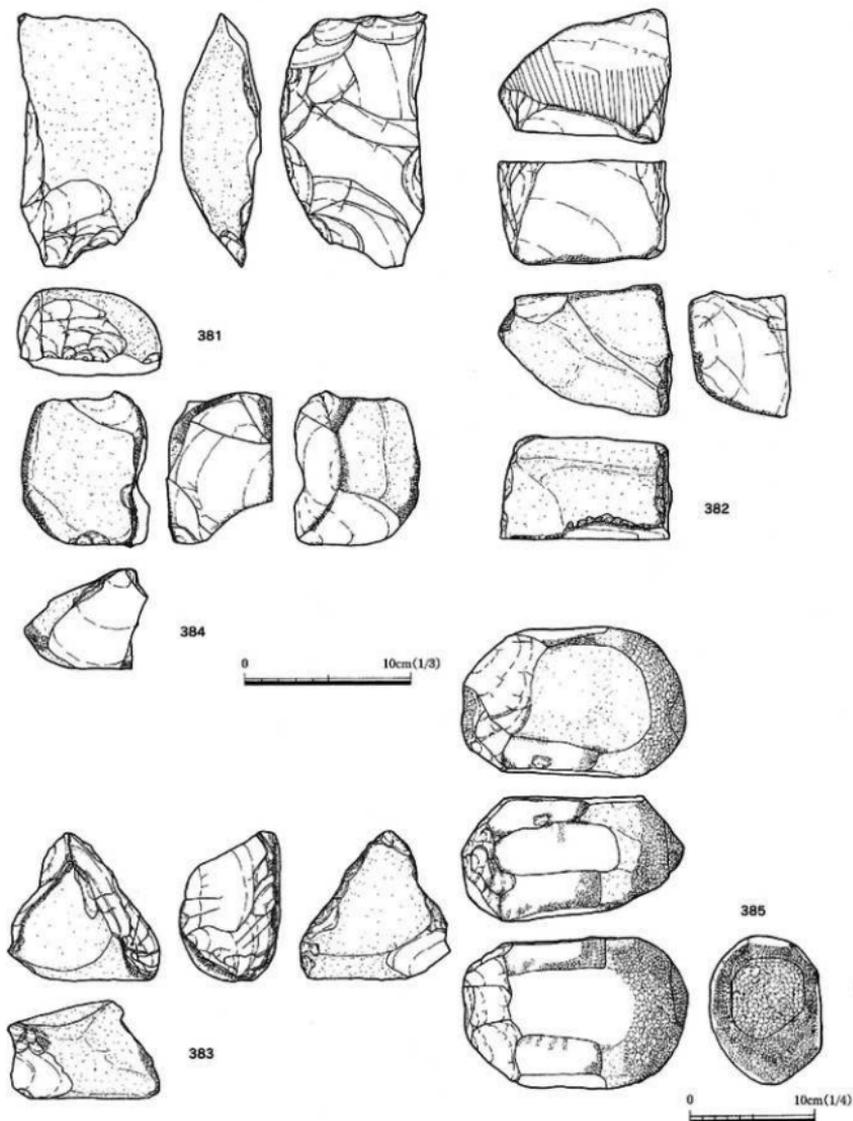
0 10cm(1/3)



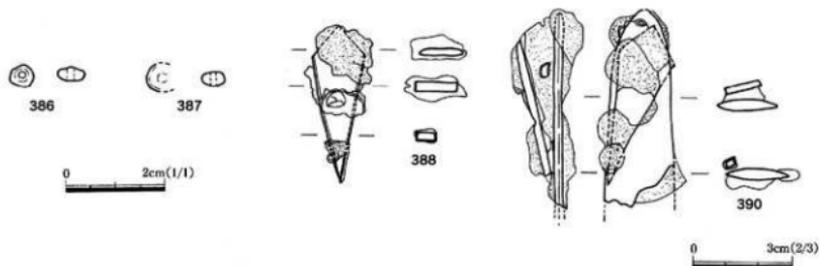
380

0 10cm(1/4)

47.4号竖穴住居跡出土遺物実測図②(S=1/3、1/4)



48.4号壁穴住居跡出土遺物実測図③(S=1/3、1/4)

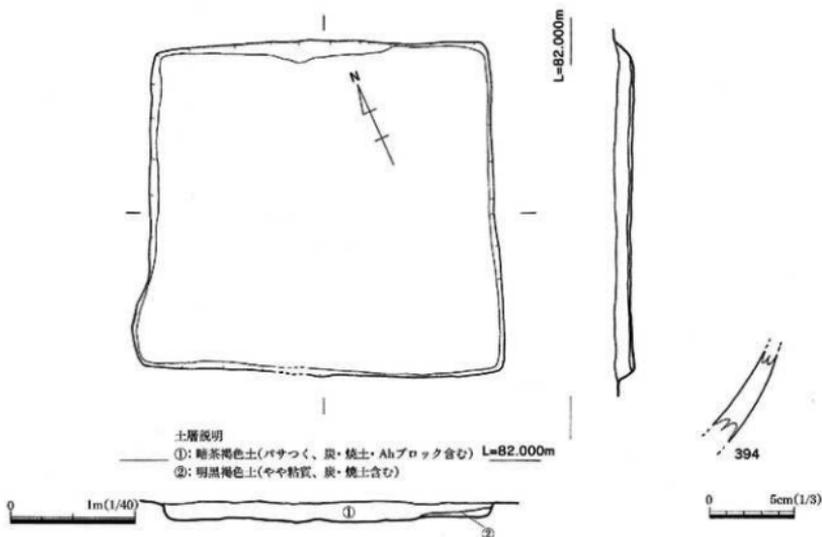


49.4号竪穴住居跡出土遺物実測図④(S=1/1, 2/3)

して使用し一端には丁寧な敲打痕が見られる石器(385)、ガラス小玉(386・387)、主頭鉄(388)、刀子(389)、短剣の先端部分に鉄鍍がくっついたもの(390)、柳葉鍍(392)、不明鉄器(391・393)がある。焼土やしっかりした柱穴、棚状遺構あるいは鉄器や石器等の出土遺物から工房的施設を髣髴とさせる。

5号竪穴住居跡

平面形は方形でピット・焼土集中部等は検出していない。長軸は3.02m、短軸は2.72mを測り、検出面から床面までは0.16mである。床面はほぼ平坦で、出土遺物は少なく、壺(394)等が



土層説明
 ①: 暗赤褐色土(バサつく、炭・焼土・Ahブロック含む) L=82.000m
 ②: 明黄褐色土(やや粘質、炭・焼土含む)

50.5号竪穴住居跡及出土遺物実測図(S=1/3, 1/40)

若干出土しているのみである。床面はⅦ層で縄文時代早期の遺物や焼けた礫が散在するためか貼床は見られない。

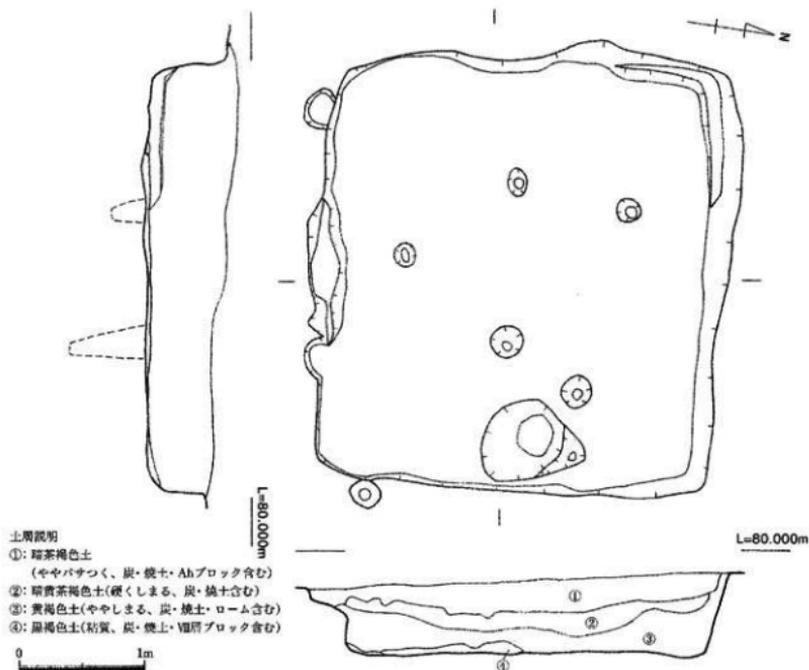
6号竪穴住居跡

平面形は隅丸方形で内部にピットを5つと外面に2つのピットを検出した。長軸は3.66m、短軸は3.22mの比較的小ぶりながら、検出面から床面までは0.66mを測る。床面はほぼ平坦で、貼床が見られる。

また、南側の壁中央の上位と北西隅下位に狭い段が見られる。東側の壁際には炭化物及び焼土の集中部を検出した。土坑状に浅くくぼむ。

出土遺物では他の竪穴住居跡に比べ量・質ともに土器類が充実し、甕(395~396、398~399、398~400)壺(394・397・401~405・407~411)、鉢(406)、高杯(412・413)、椀(414)等が出土している。その他、頁岩製礫石(415・416)や砂岩礫(417)、錐状鉄器(421)や不明鉄器(418~420)が出土している。高杯の脚の一部が7号住居跡の高杯の脚(437)と接合している。

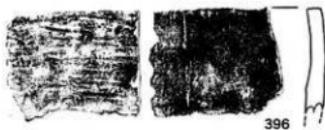
炭化物の分析を行なった結果、213AD~341ADの値がでている。



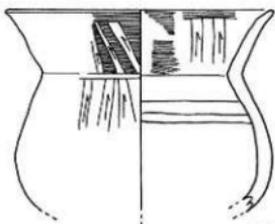
51.6号竪穴住居跡実測図(S=1/40)



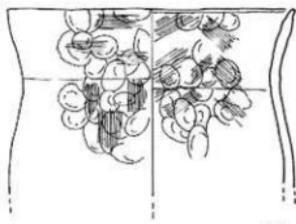
395



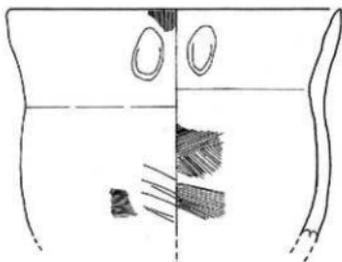
396



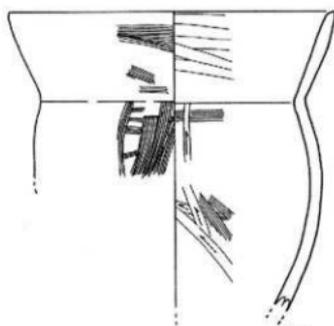
397



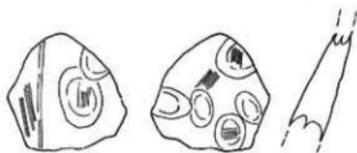
398



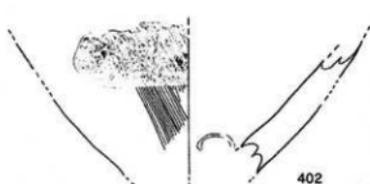
399



400



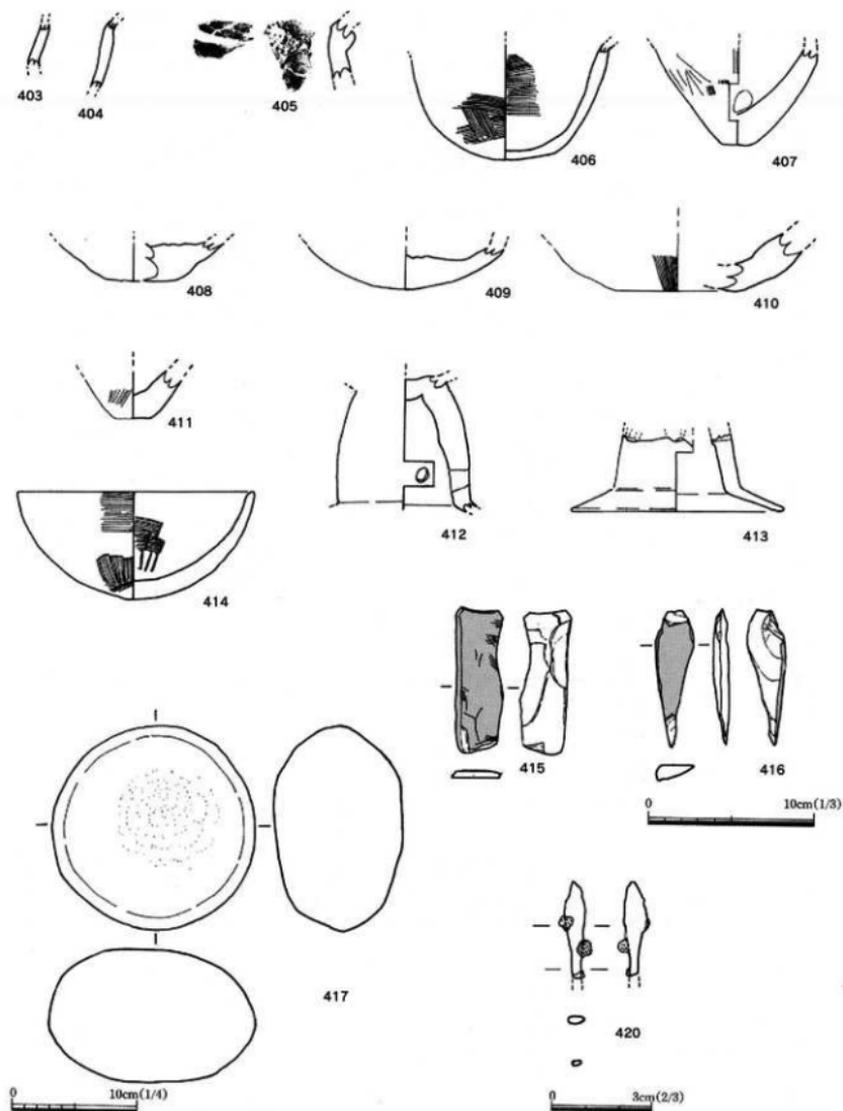
401



402



52.6号竖穴住居跡出土物実測図①(S=1/3)

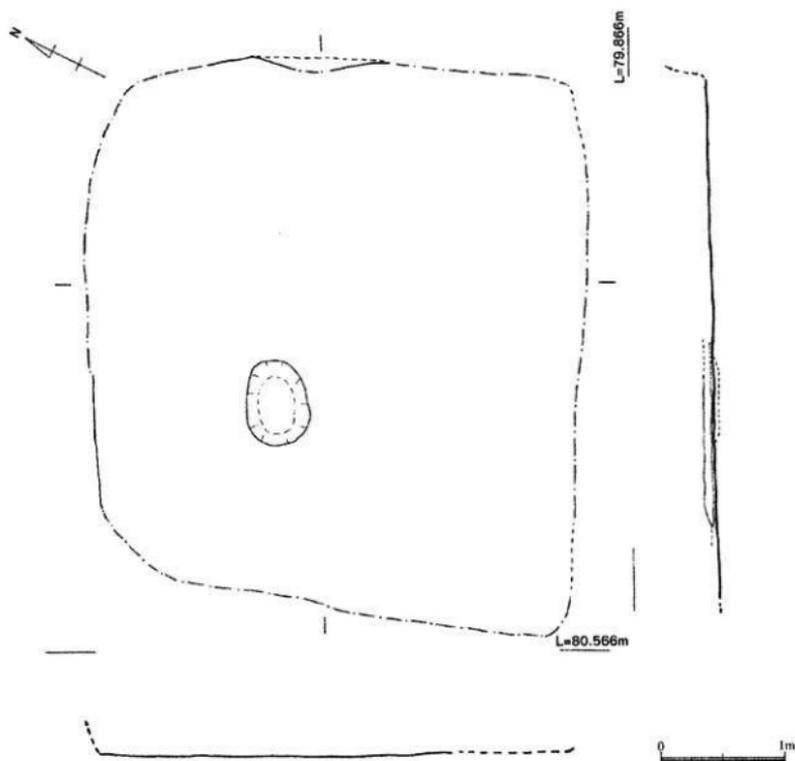


53. 6号整穴住居跡出土遺物実測図②(S=1/3、2/3、1/4)

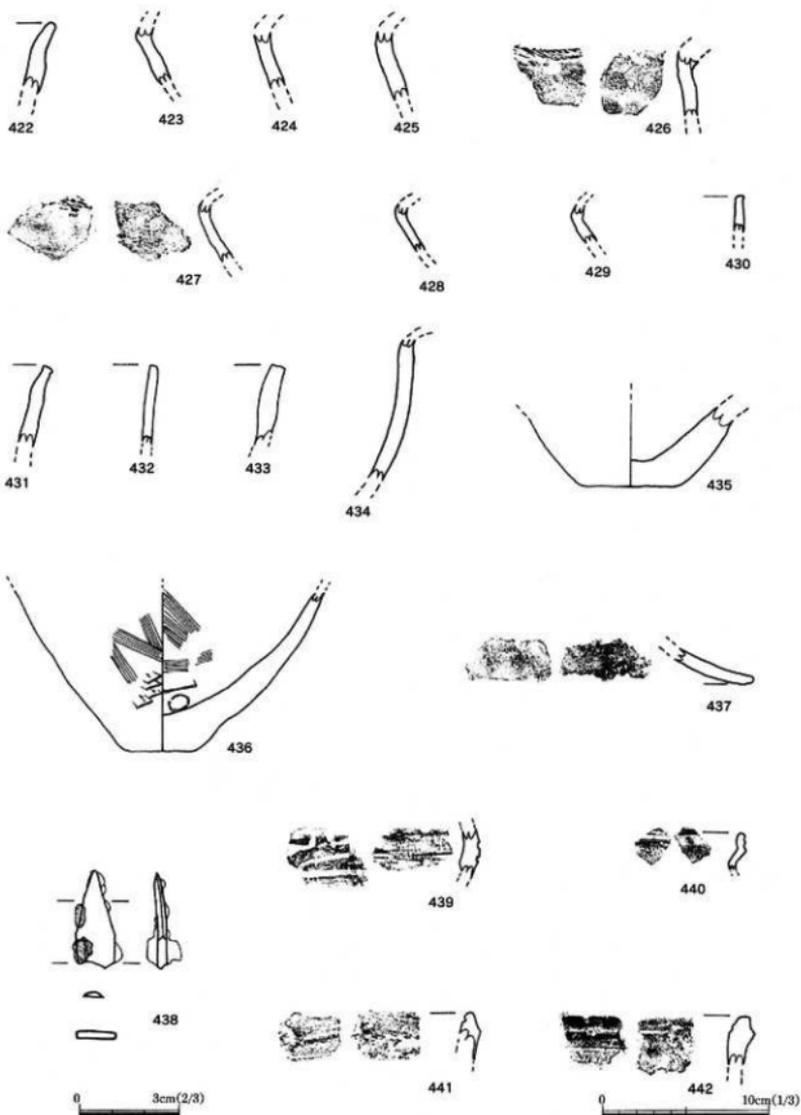
7号竪穴住居跡

7号～9号竪穴住居跡が検出されたB区は、調査前は栗林となっていた。表土直下にはVI層が検出されている。栗の植栽時に地形を大きく変更したものと思われる。このためか、伐開後に表土を重機で除去した残土中より結晶片岩製の勾玉が採集されている。

7号竪穴住居跡の正確な平面形は攪乱のため不明であるが、隅丸方形になるものと思われる。柱穴は不明であるが、中央やや西側で楕円形の浅い土坑を検出した。長軸は床面での計測になるが4.6m、短軸で3.88mを測る。検出面から床面までは0.08mを測るがほとんどは床面での検出である。床面はほぼ平坦で、貼床が見られる。出土遺物では壺(422～429、435～436)、甕(430～434)、高杯(437…6号住居跡の高杯の脚と接合する。)、ヤリガンナ(438)が出土している。この他、縄文時代晩期の精製浅鉢土器(439・440)及び粗製深鉢土器(441・442)が出土している。



54. 7号竪穴住居跡実測図(S=1/40)

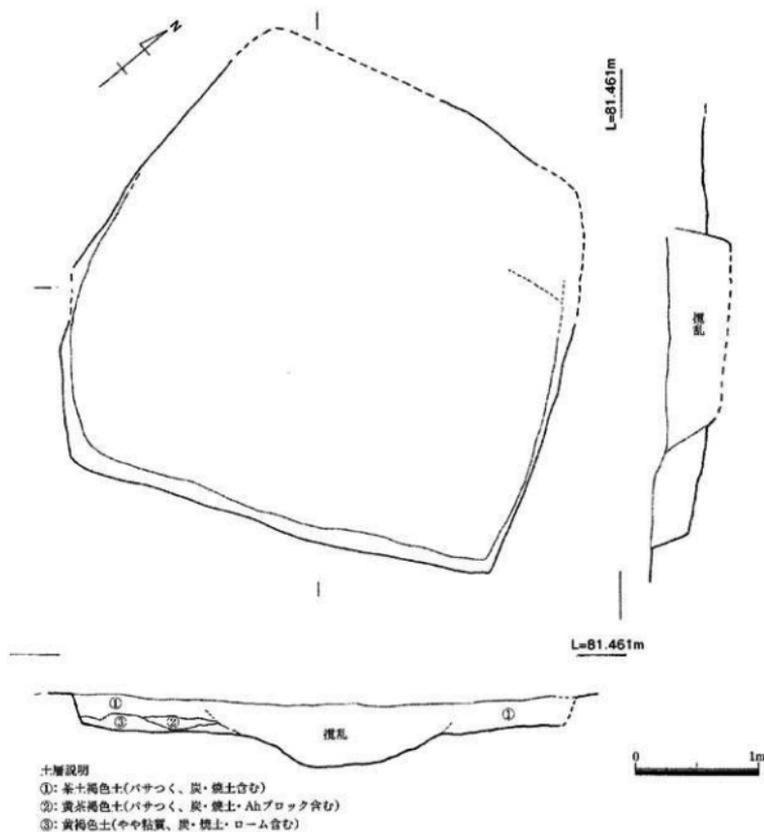


55.7号竖穴住居跡出土遺物実測図(S=1/3、2/3)

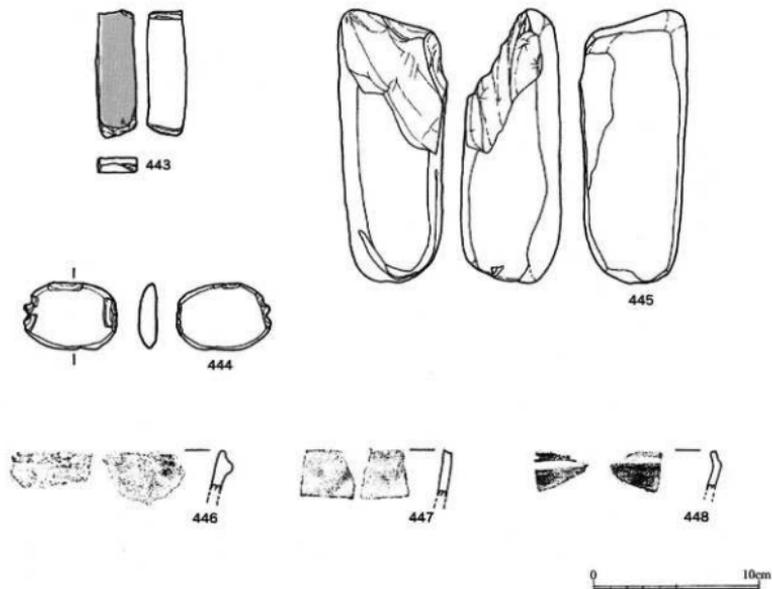
8号竪穴住居跡

8号竪穴住居跡も正確な平面形は攪乱のため不明であるが、隅丸方形になるものと思われる。柱穴・土坑等は検出されなかった。中央部分が栗の根及び堆肥孔により大きく攪乱を受けている。長軸は4.1m、短軸は床面での計測になるが2.76mを測る。検出面から床面までは0.32mを測るが北側は攪乱のため床面での検出である。

床面はほぼ平坦で、貼床が見られる。出土遺物に土器はなく、頁岩製の砥石(443)、砂岩製の石錘(444)と砥石(445)が出土している。その他、縄文時代晩期の粗製深鉢土器(446)及び精製浅鉢土器(447・448)が出土している。



56.8号竪穴住居跡実測図(S=1/40)



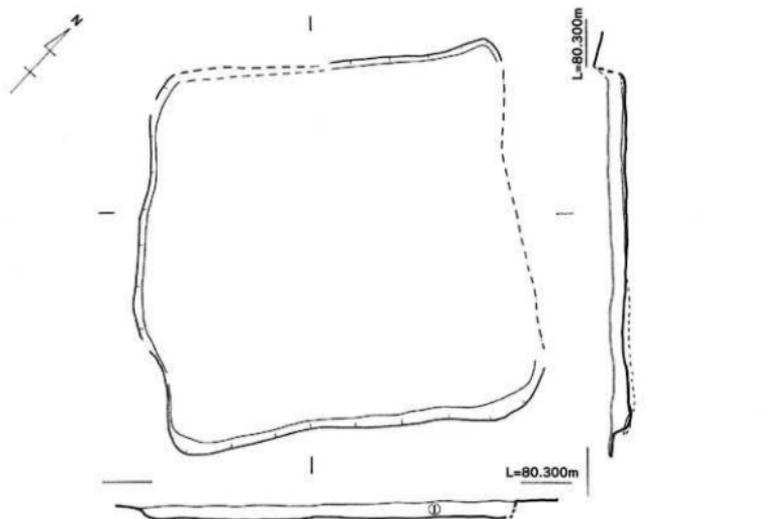
57.8号竪穴住居跡出土遺物実測図(S=1/3)

9号竪穴住居跡

平面形は隅丸方形になるものと思われる。柱穴・土坑等は検出されなかった。一部攪乱により床面のみの検出となっている。長軸は3.12m、短軸は2.96mを測る。検出面から床面までは0.16mを測る。床面はほぼ平坦で、貼床が見られる。出土遺物には甕(449~453)、高杯(454)、一部に若干の敲打痕が確認される砂岩製の小礫(457・458)、頁岩製のヘラ状石器(459)、細長い砂岩製の板状礫の一端に打痕が認められる石器(460)、扁平な砂岩礫の一端を打ち欠いて先鋭化させた礫器(461)、一部に磨痕が見られる礫岩製の不明石器(462)、花崗斑岩製の台石の残欠(463)が出土している。その他、縄文時代晩期の精製浅鉢土器(455・456)が出土している。460と462は受熱のため赤変している。463には明確な研磨は確認できない。

10号竪穴住居跡

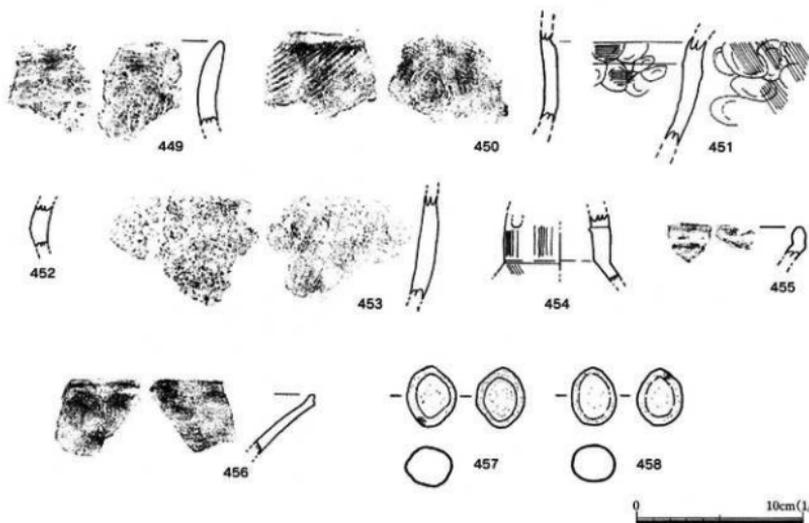
平面形は一部隅丸方形を呈す。柱穴は検出されなかった。南東隅にやや楕円形の浅い土坑を検出した。炭・焼土が集中する。中央部にも炭・焼土の集中部が見られるが掘りこみはなく、浅く堆積する程度である。長軸は3.34m、短軸は3.22mを測る。検出面から床面までは0.42mを測るが、



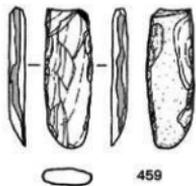
土層説明

①: 黄茶褐色土(バサつく、炭・焼土・瓦層ブロック・ローム含む)

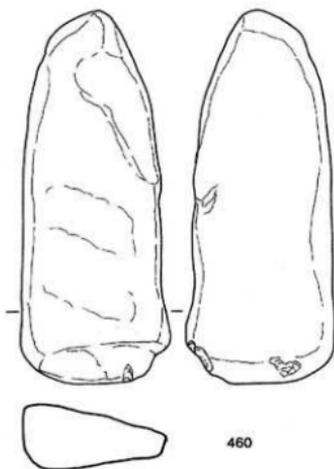
0 1m(1/40)



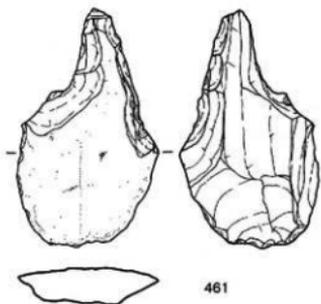
58.9号竪穴住居跡及出土遺物実測図①(S=1/3、1/40)



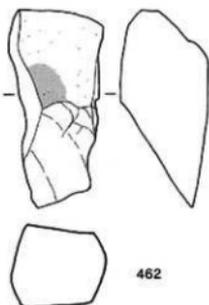
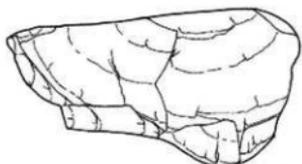
459



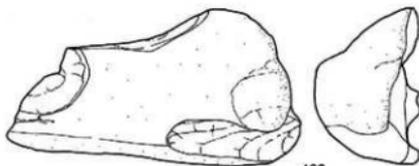
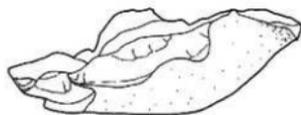
460



461



462



463



59.9号竪穴住居跡出土遺物実測図②(S=1/3、1/4)

土層断面では0.8mである。これは、覆土ではまわりとの色の差が明確でなく、トレンチと周りを掘り下げて、ようやく竪穴住居跡と判断したためである。調査前、周辺は杉林であった。それ以前は段々畑があったが、荒れていたところに杉の植林をしたとのことである。杉の根の影響も考えられる。

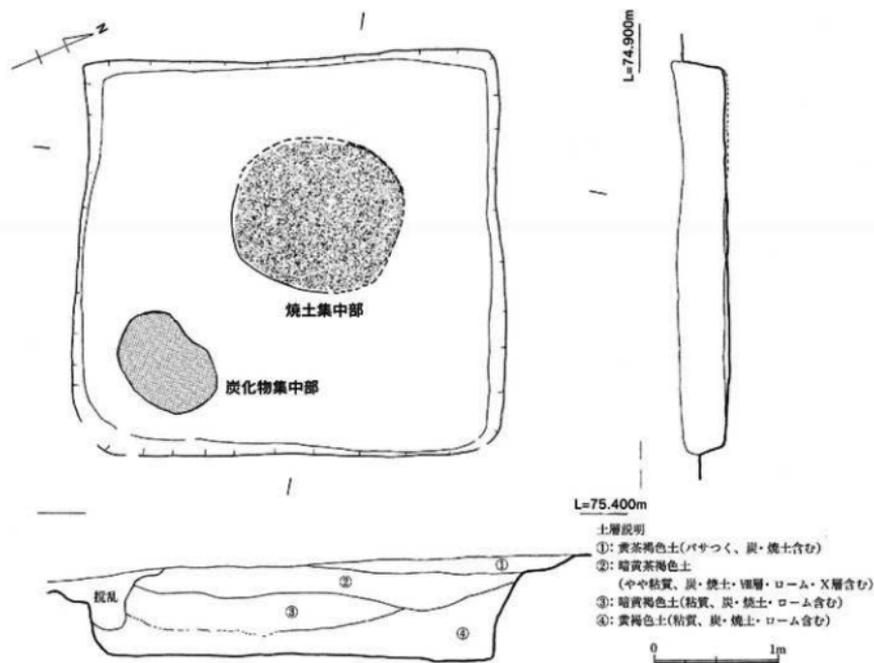
床面はほぼ平坦で、明確な貼床はみられない。床面がⅧ層のローム層のためと思われる。

出土遺物には甕(464~467)、壺(468)、高杯(469)、圭頭織(471)、砂岩製磨石(472)が出土している。

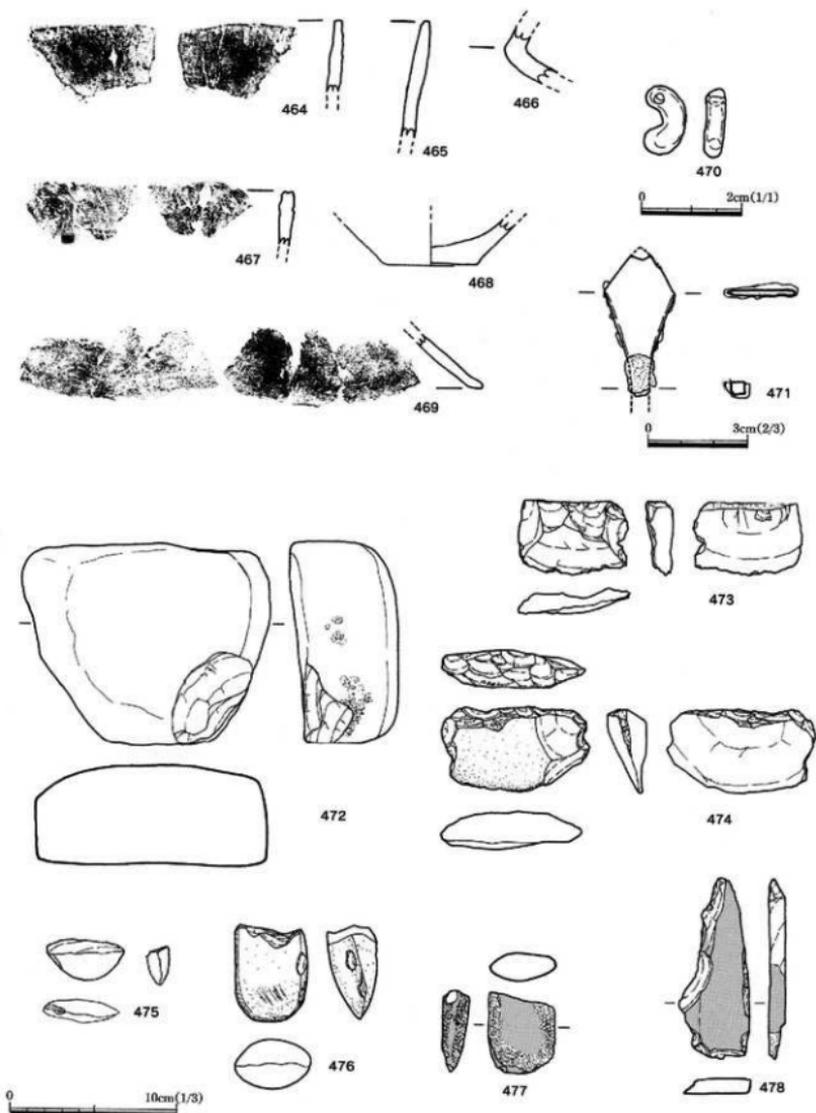
遺構外出土遺物

弥生・古墳時代の遺物のほとんどは、前述したようにC区V層中から出土している。C区では、明確な竪穴住居跡の検出例が1軒であるが、北側の台地上には良好な集落跡が予想されるため、周辺の開発には今後十分注意する必要がある。

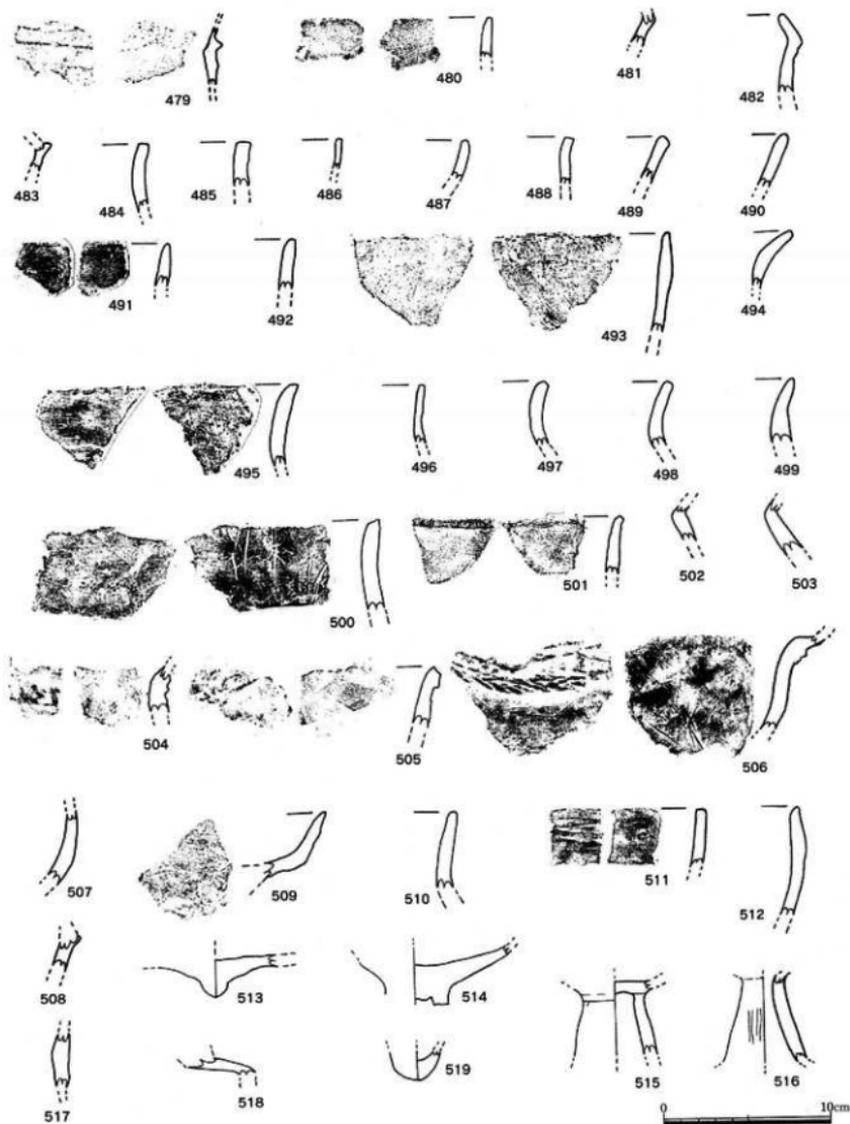
473は使用痕剥片である。刃部の使用痕より穂筒具としての使用したものと想像される。474は打製の石包丁である。北方地区では磨製の石包丁の出土例は少なく、裸の両端に扶りを有する打製の事例が多い。背部には丁寧な加工が施されている。使用頻度が高かったことを示す摩滅痕も見られる。475~477は小型の磨製石斧である。いずれも基部は欠損し、先端部のみ出土である。



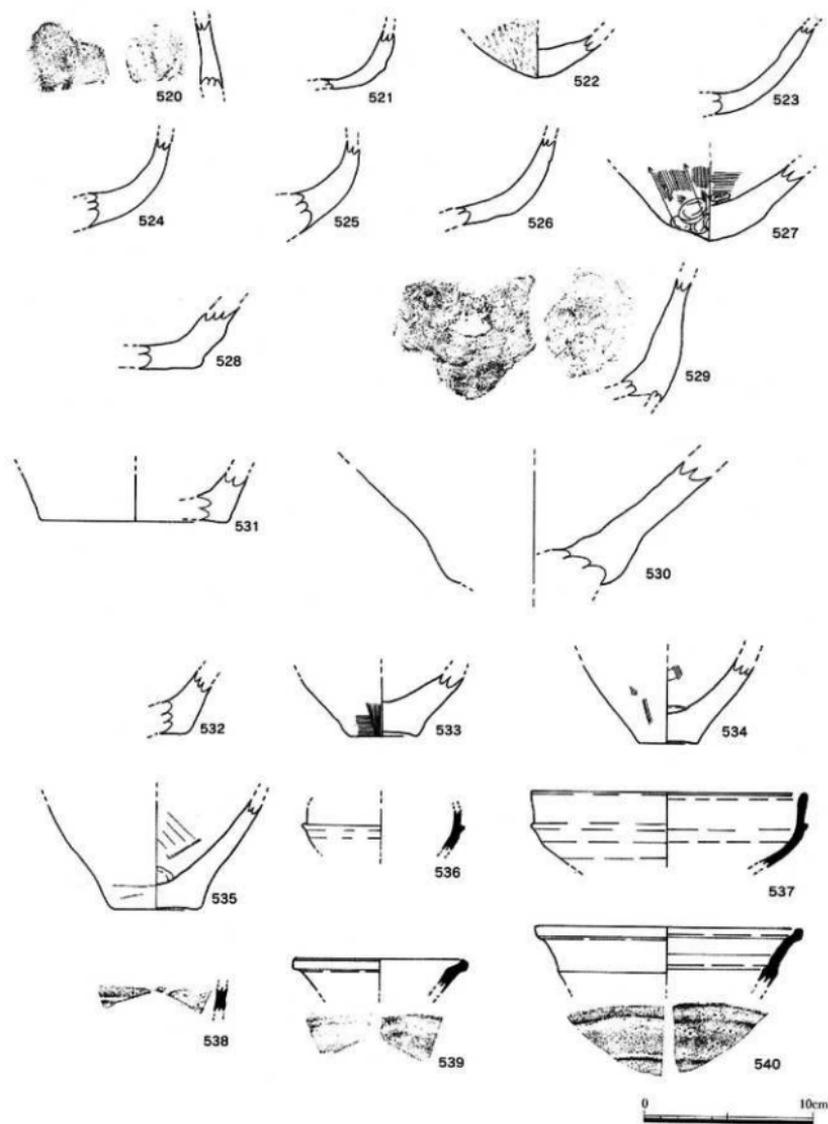
60.10号竪穴住居跡実測図(S=1/40)



61.10号竖穴住居跡出土遺物実測図(S=1/1、1/3、2/3)



62.弥生・古墳時代出土遺物実測図①(S=1/3)



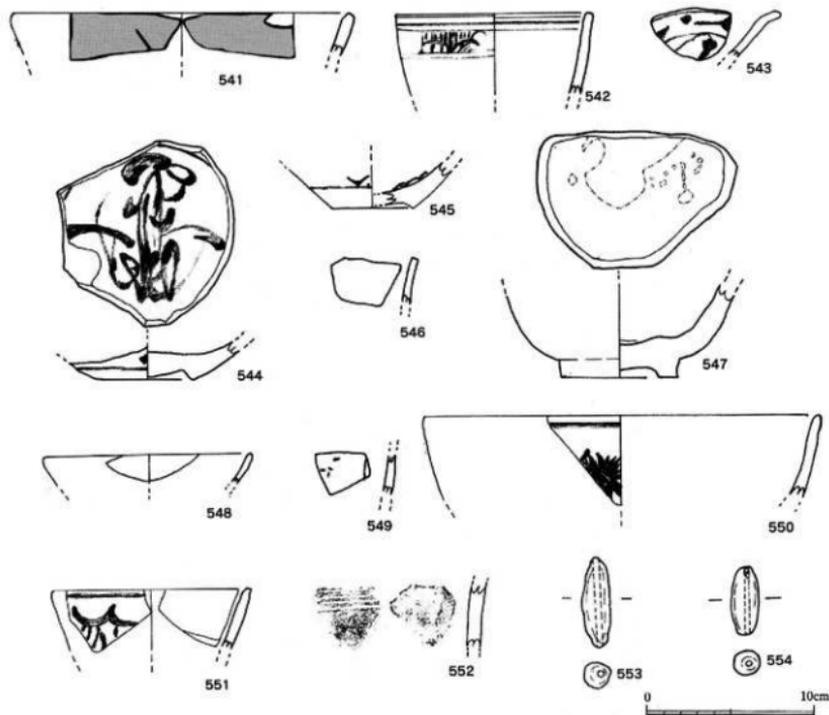
63. 弥生・古墳時代出土遺物実測図②(S=1/3)

478は、頁岩製の砥石である。一部欠損している。側面にも磨り面が見られる。

当該期の出土土器の多くは、一部を除き胴部の小片である。ここでは、口縁部や貼付突帯の付いた頸部や底部といった部位を可能な限り取り上げている。479～509、521～530は壺である。479には断面三角形の突帯が見られる。481から483は二重口縁壺で、482には櫛描波状文が見られ安国寺系の遺物として注目される。早日渡遺跡では、竪穴住居跡内からの出土例もあり、笠下周辺での当該期の竪穴住居跡がこれから検出される可能性も高い。486と487は小型丸底壺の口縁部である。また、頸部にひも状貼付突帯が見られる壺(504～506)や山陰系の壺口縁部(500)の出土もあり幅広い交流の跡が伺われる。

壺の多さに比べ甕(510・511、531～535)は出土量が少ない。511は口縁部の断面形が角張っており、弥生時代後期の所産と考えられる。その他に鉢(512)や高杯(513～518・520)、手づくね土器(519)等も出土している。

須恵器の出土例は少ないが、杯(536～537)や甕(538～540)が出土している。谷を挟んだ東側の岩土北平遺跡では塚があったと伝えられているが、関連については不明である。



64.中・近世出土遺物実測図(S=1/3)

中・近世

この時期の遺構としては検出していないが、埋土中及びC区のV層中から陶磁器や備前系播り鉢片、土錘(553~554)が出土している。

541は龍泉窯の青磁碗である。表面にはわずかに蓮弁の一部が確認できる。542は景德鎮の蓮子碗である。543~545は草花文の皿である。543は口縁部に端反りが見られるが焼成はよくなく、釉薬が半透明となっている。544は漳州窯のものと思われる。

546は肥前焼の白磁で八角の小杯と思われる。547は古唐津の碗である。548は肥前系(嬉野か?)の皿と思われる。549は胴部の小破片なので特定は難しいが、肥前系の碗と思われる。550と551は肥前系の草花文碗である。552は備前系の播り鉢片と思われる。すり目が確認できるが、数は不明である。

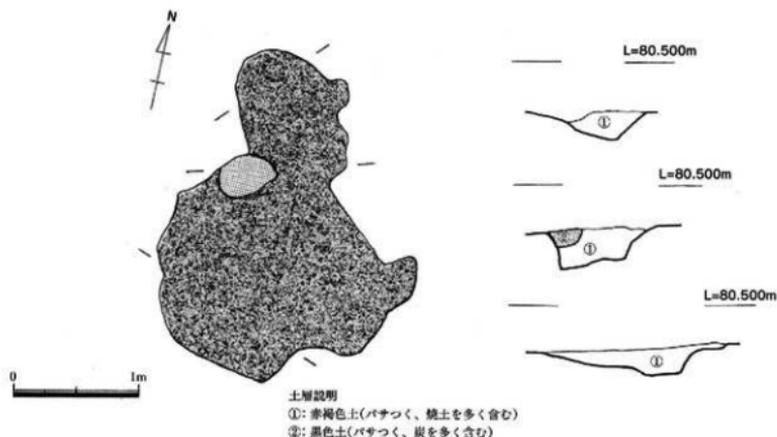
15世紀代~19世紀までの幅広い時代の舶載品及び国産(主に肥前系)遺物が出土している。

その他の遺構

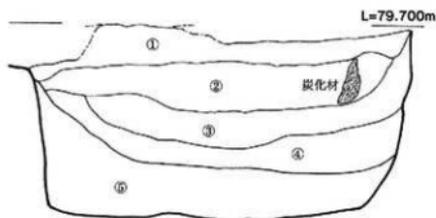
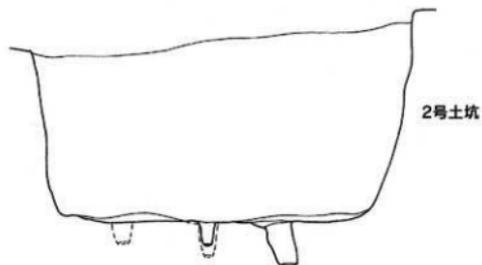
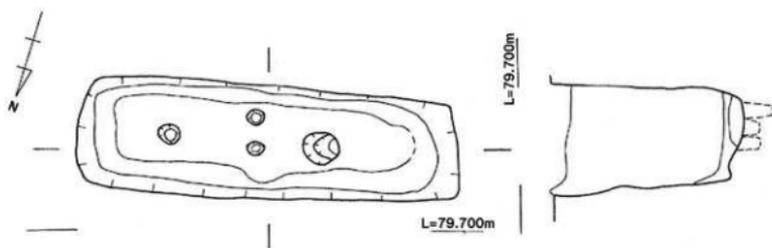
1号土坑は不定形で明確な掘り込みは無く、焼土が厚く堆積する。アカホヤ層上面で検出した。床面は平坦でなく、かなり凹凸が見られる。一部炭化物の集中が見られる。長軸は2.68m、短軸は0.78mを測る。検出面から最深部までは0.32mを測る。炭化物の分析を行なった結果、121AD~235ADの値がでていいる。

2号土坑は長方形で、底部に4つの小ピットを有する。内中央の小ピットは並列する。アカホヤ層上面で検出した。床面は平坦である。長軸は1.52m、短軸は0.43mを測る。検出面から最深部までは0.78mを測る。炭化物の分析を行なった結果、1066AD~1155ADの値がでていいる。上面でブナ科ナラ属アカガシ亜属の炭化材を検出した。

3号土坑はやや歪な楕円形で、底部中央がややくぼんでいる。V層で検出した。埋土中には炭・

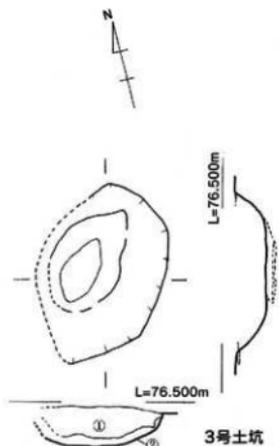


65.1号土坑実測図(S=1/40)



土層説明

- ①: 黄茶褐色土(バサつく、炭・焼土・ローム含む)
- ②: 赤褐色土(バサつく、炭・焼土含む)
- ③: 黒褐色土(バサつく、炭・焼土含む)
- ④: 黄褐色土(やや粘質、炭・焼土含む)
- ⑤: 暗茶褐色土(バサつく、炭・焼土・ローム含む)

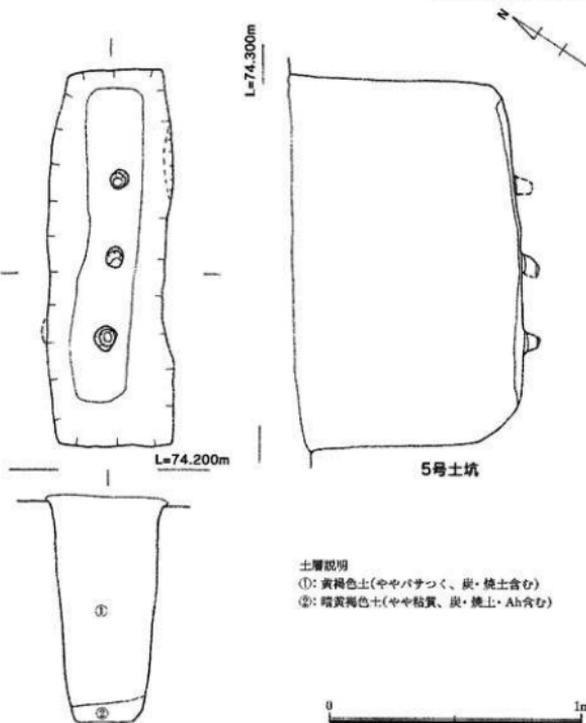
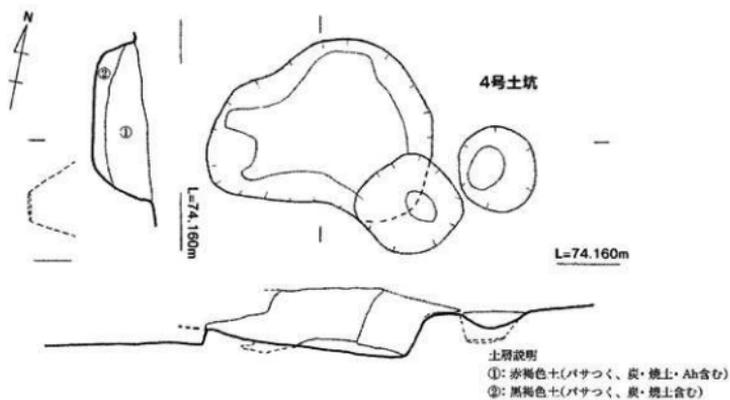


土層説明

- ①: 黄茶褐色土(バサつく、炭・焼土・ローム含む)
- ②: 黒色土(バサつく、炭・焼土・Ah含む)



66.2号・3号土坑実測図(S=1/20)



67.4号・5号土坑実測図(S=1/20)

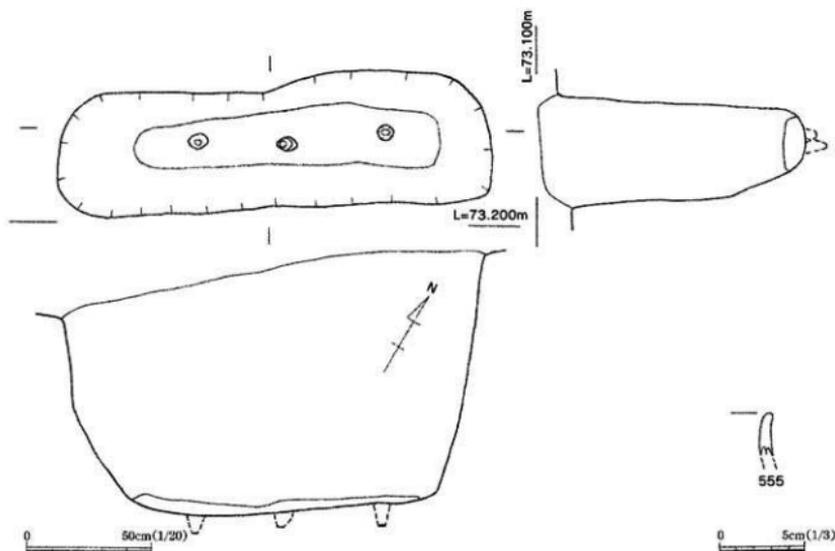
焼土を含んでいる。長軸は0.75m、短軸は削平されており計測不能である。検出面から最深部までは0.16mを測る。出土遺物はない。

4号土坑は検出面、底面ともに不定形で、底部はやや東側に傾斜している。V層で検出した。一部柱穴により攪乱されている。埋土中には炭・焼土を含んでいる。長軸は0.8m、短軸は0.53mを測る。検出面から最深部までは0.27mである。出土遺物はない。

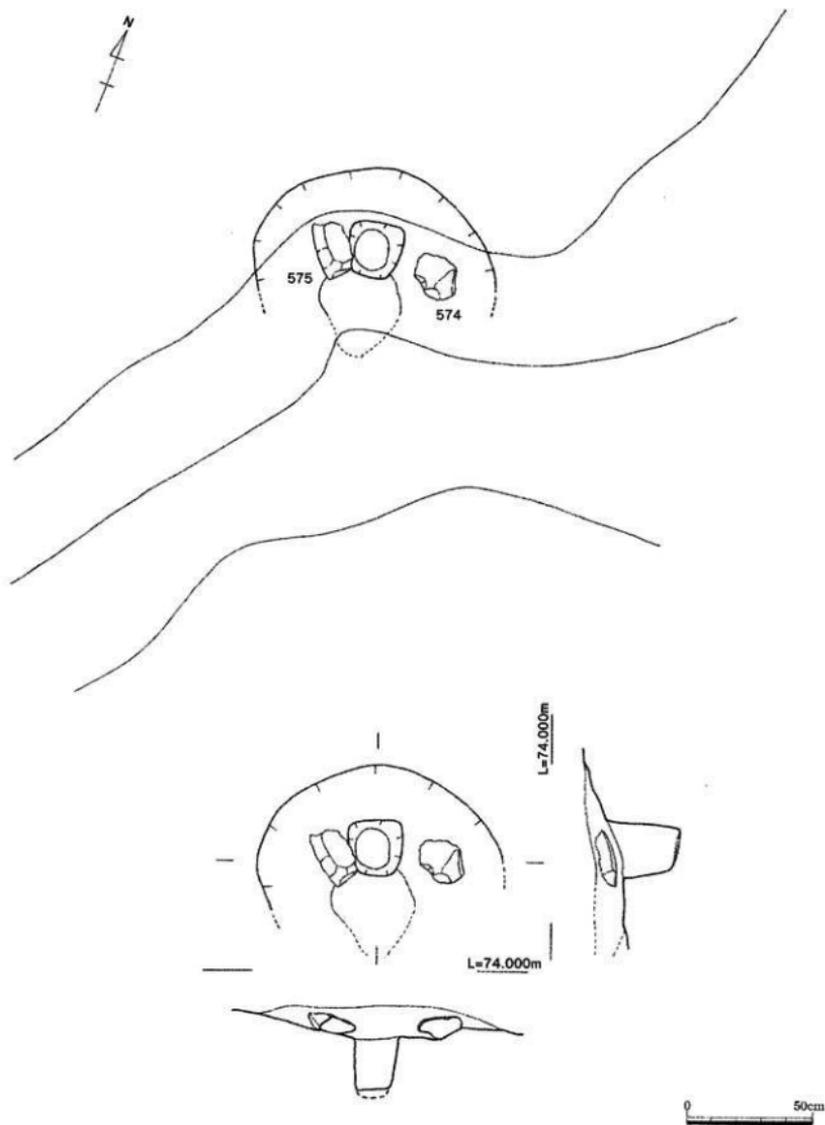
5号土坑は長方形で、底部に3つの小ピットを有する。V層で検出した。床面はほぼ平坦である。長軸は1.54m、短軸は0.92mを測る。検出面から最深部までは0.92mを測る。出土遺物はない。

7号土坑は長方形で、両端は丸くなっている。底部に3つの小ピットを有する。V層で検出した。床面は平坦である。長軸は1.74m、短軸は0.47mを測る。検出面から最深部までは0.99mを測る。壺の口縁部(555)が1点出土している。

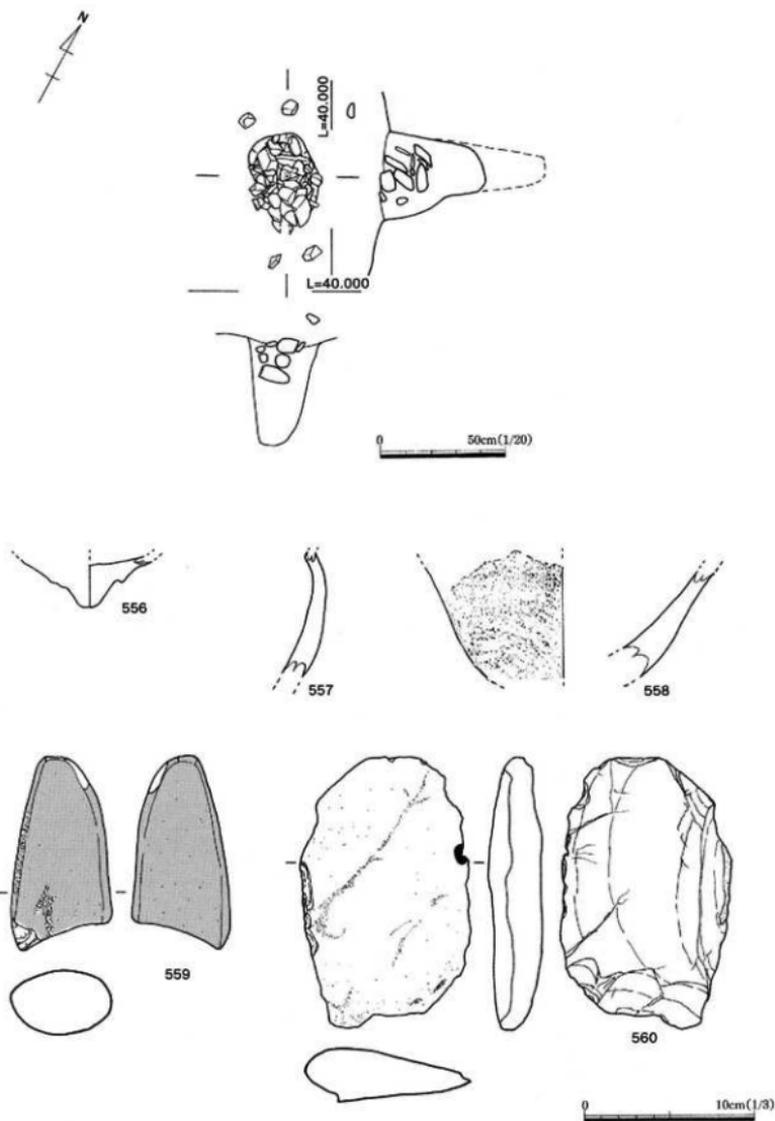
8号土坑は円形で、南側半分は削平されている。中央部にピットを有し、両側に凝灰岩製の加工礫(574・575)を配置する。V層で検出した。床面は平坦である。直径はほぼ1mである。検出面から柱穴最深部までは0.36mを測る。8号土坑周辺は等高線が緩くなり、傾斜面を削りだして平端部を作り出している。574は半月形で工具痕が顕著に見られ、熱変によりもろくなっている。575は方形に削りだしているが半分が折れている。何らかの再利用品を窺わせる。



68. 7号土坑実測図及出土遺物実測図(S=1/3, 1/20)



69.8号土坑实测图(S=1/20)



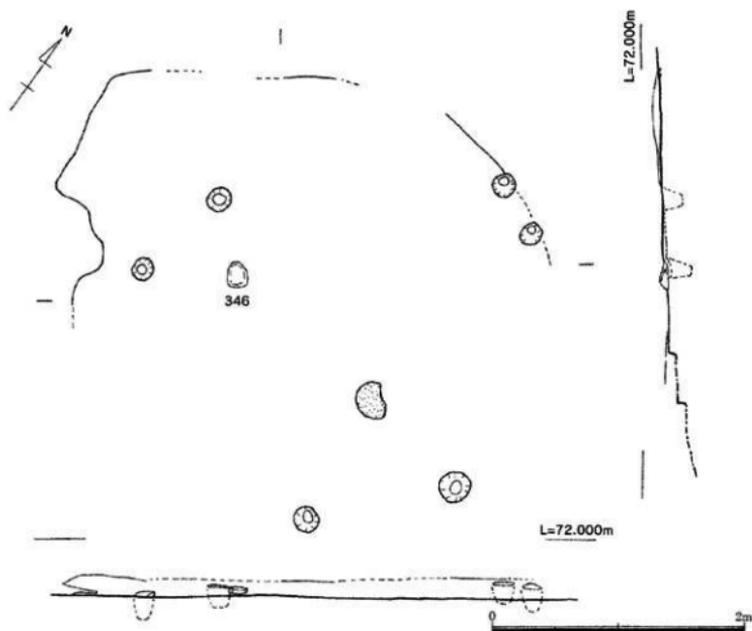
70. 1号不明遺構実測図及出土遺物実測図(S=1/3、1/20)

1号不明遺構はC区北側の道路法面下位で検出した。表土除去後すぐにVII層が検出され、土器や焼け石等が柱穴を埋める様に寄せられていた。柱穴は長軸0.36m、短軸0.26m、深さは0.68mを測る。出土遺物には高杯(556)、壺(557・558)、砂岩製磨製石斧(559)、砂岩製礫器(560)がある。廃棄的な用途も考えられるが詳細は不明である。

1号建物は、C区南側の平坦部が谷側へ落ち込むところで検出した。V層を掘り下げる段階で床面と思われる硬化面と柱穴を検出したが、覆土は確認できなかった。同レベルで台石(346)が出土しているが、焼土の集中部は確認できていない。また、南東部分の硬化面は削平のためか不明である。出土遺物も縄文時代晩期と弥生・古墳時代の遺物が混在して見られ明確な時期決定ができなかった。硬化面が途切れたところで、厚さ10cmほどの粘土の塊が検出されたが、柱を支えるためか他の用途か判断はできない。検出した柱穴は硬化面の範囲内と思われるものを図示している。

C区ではこの他にも若干の柱穴を検出しているが、建物に復元できるまでには至っていない。また、柱穴と落とし穴との関連についても不明である。柱穴の明確な確認はアカホヤ層上面で行なっているが、V層を掘り下げる段階で検出したものも多い。現場での埋土の比較検討などは調査期間の問題もありできなかった。今後遺構測量図と土層断面図を比較検討しても、時期決定にはなお多くの困難が伴うことを痛感している。

A区とC区では、溝状遺構が検出された。検出面は、A区ではVI層上面、C区ではA区との境の斜面と東側でVI層上面、西側ではV層上面である。いずれの覆土もIV層の黒色土ではなく、III層である。



71.1号建物実測図(S=1/40)

出土遺物も陶磁器、弥生土器、須恵器、縄文土器が混在しており、明確な時期決定はできない。

A区では調査区の東側斜面をほぼ南北にある程度の間隔で掘られており、区画溝的な用途が考えられる。A区とB区の東側斜面とC区との間に掘られた幾筋もの溝状遺構は、区画溝だけの用途とは考え難い。底面には、常時水が流れていたことを示す砂状粒子の痕跡を認められなかった。

また、C区東側の斜めに掘られた溝も小さな尾根の側面を縫うように掘られているが、途中で途切れる。若干の段差を考えると排水の用途も考えられる。

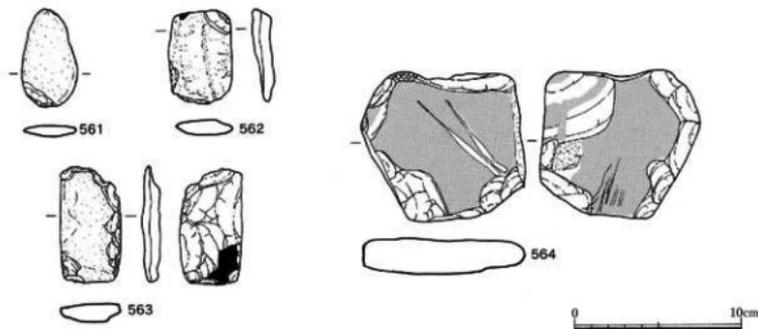
以上のことから、梅雨時期などA区とB区から流れ出る多量の雨水を処理する排水のための溝が掘られたと思われる。幾筋もの溝は、多量の雨水が流れて損傷した溝を補修しながら繰り返し掘られた結果とも想像される。



72.C区溝状遺構検出状況(北より)



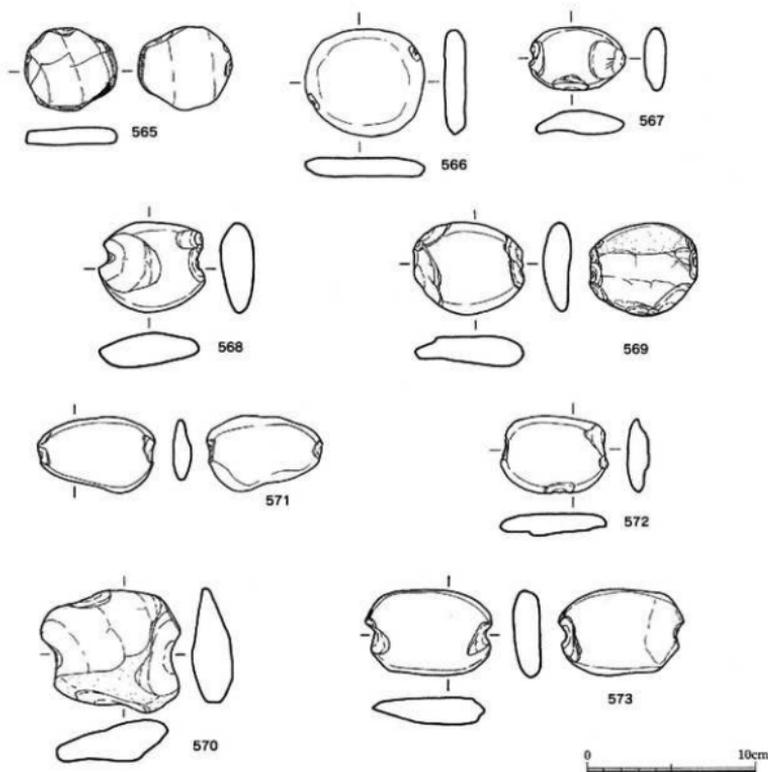
73.C区溝状遺構検出状況(北より)



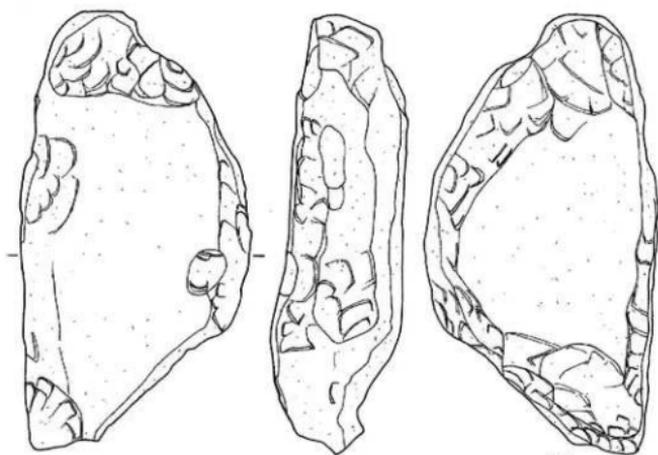
74.その他の出土遺物実測図①(S=1/3)

その他の出土遺物

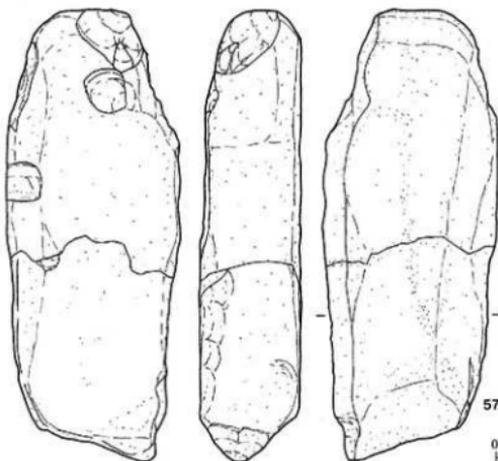
ここでは、明確に時期を判断できない遺物を取り上げるが、そのほとんどは石錘である。縄文時代晩期の所産とも考えるが、弥生～古墳時代の遺物としても多く使用されていることが確認されていることから時期不明とした。565は円盤状の砂岩礫の円周に加工を施す石器である。若干の磨痕を有することから土器の内面ミガキや革製品のなめしなどいろいろな用途に使用された可能性がある。566は砂岩製の円礫の両端を浅く打ち欠いた石器である。細いひも状のものを巻きつけたと思われるが、抉りが浅く結ぶ行為には直結しない石器である。567～573は打欠石錘である。基本は細長い礫の両端を打ち欠いているが(568・571・573)、3方向(569・572)、4方向(570)打ち欠くものも見られる。網に設置する場所による使い分けが想像される。



75. その他の出土遺物実測図②(S=1/3)



574



575



76. その他の出土遺物実測図③(S=1/4)

番号	出土地点	層	器種(石材)・部位	文様・顔色・色調等(外)	文様・顔色・色調等(内)	長さ cm (器高)	幅幅 cm (口・器径)	底厚 cm (胎土)	重量 g (備考)
1	C区一併		使用痕有り 瓦葺器	打痕有 不定形の狭長片状切		3.2	1.4	0.6	3.10
2	C区	5	底上層に10枚の瓦葺器	打痕無 両面縁に加工有		4.1	2.8	0.9	8.44
3	C区一併		使用痕有り 瓦葺器	打痕無 両面縁有		5.2	2.0	0.8	6.25
4	C区	5	底上層に10枚の瓦葺器	打痕有 突縁有		6.3	2.7	1.3	21.20
5	C区一併		使用痕有り 瓦葺器	打痕有の内部使用痕有		4.0	3.0	1.1	15.94
6	C区	5	スライパノ 底葺器	自然色 打痕有		8.4	3.4	1.7	33.0
7	B区一併		スライパノ 底葺器	自然色 打痕有 底面有		7.6	1.2	1.5	231.91
8	A区	7	スライパノ 底葺器	自然色 打痕有		14.0	9.5	4.5	488.8
9	C区一併		瓦葺器	先施の底に黄緑地に黒色地に加工有		12.0	5.9	3.4	434
10	A区	8	石鉢 底葺器	自然色 刺刺面有 打痕無等 打痕無縁		8.3	7.3	4.3	309.45
11	住居9		石鉢 底葺器	交互黄緑を付いた 打痕無等		14.5	10.2	5.2	899.9
12	B区	4	使用痕有り 底葺器	着十のワラジと附縁が見られる 打痕無等		5.6	5.7	1.9	64.4
13	B区	3	スライパノ 底葺器	黄白色の底面 刺刺が見られる		15.8	9.3	3.0	310.81
14	A区	7	石鉢 チョート	先施前、刺刺欠縁		1.6	1.5	0.3	0.45
15	A区	7	石鉢 チョート	縁が削れ、刺刺無		1.7	1.8	0.4	0.68
16	A区	7	石鉢 チョート	刺刺無、一徹縁の加工は僅か		1.9	1.6	0.4	0.61
17	C区	7	石鉢 チョート	縁方縁 瓦葺器欠縁 刺刺無縁状		3.0	2.1	0.4	1.39
18	A区	7	石鉢 チョート	縁方縁		2.5	1.5	0.4	0.90
19	AK	7	瓦葺器有蓋 蓋面石	瓦葺器の底に手磨か加工有		3.0	2.6	1.1	1.60
20	C区	7	スライパノ 瓦葺器	自然色打痕有、二方角各所縁状で作り出す		4.6	6.2	1.7	44.52
21	A区	7	陶器 縁面石	刺刺無等 割れ面と打痕が顕著に残る		13.3	7.4	4.3	196.07
22	A区	7	陶器 縁面石	黄白色の底面 刺刺に打痕有		8.2	4.5	1.2	182
23	A区	7	陶鉢 胴部	指押しの凹面状 におい黄緑	ナダ におい黄緑				1cm以下の砂粒含む
24	CK	7	陶鉢 胴部	其底面引出(縦方向) におい黄緑	ナダ におい黄緑				1cm以下の砂粒含む
25	A区	7	陶鉢 胴部	ナダ におい黄緑	ナダ 刺刺				1cm以下の砂粒含む
26	AK	7	陶鉢 胴部	ナダ におい黄緑	ナダ におい黄緑				1cm以下の砂粒含む
27	一併	7	陶鉢 胴部	指押しの凹(縦方向) におい黄緑	ナダ 指押さへ におい黄緑				1cm以下の砂粒含む
28	C区	5	陶鉢 口縁部	刺刺の凹縁面有 ナダ 底ナダ	刺刺の凹縁面有ナダで底ナダ				1cm以下の砂粒含む
29	C区	5	陶鉢 胴部	刺刺の凹縁面有、底ナダの凹縁面有	ナダ 刺刺ナダ				1cm以下の砂粒含む
30	C区	5	陶鉢 胴部	刺刺 凹縁面 におい黄緑	ナダ におい黄緑				1cm以下の砂粒含む
31	C区	5	陶鉢 胴部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	ナダ 刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
32	C区	5	陶鉢 胴部	刺刺 凹縁面 ナダ 列点文 刺刺	ナダ 刺刺ナダ				1cm以下の砂粒含む
33	C区	5	陶鉢 胴部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	ナダ 刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
34	C区	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	ナダ 刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
35	CK	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	ナダ 刺刺				1cm以下の砂粒含む
36	C区	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
37	CK	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
38	C区	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
39	C区	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
40	A区	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
41	土坑6	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
42	土坑6	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
43	土坑6	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
44	土坑6	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
45	土坑6	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
46	土坑6	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
47	土坑6	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
48	土坑6	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
49	土坑9	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
50	土坑9	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
51	土坑9	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
52	土坑9	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
53	土坑9	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
54	土坑6	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
55	C区	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
56	C区	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
57	C区	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
58	C区	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
59	C区	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
60	C区	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
61	CK	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
62	C区	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
63	CK	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
64	CK	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
65	CK	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
66	CK	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
67	CK	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
68	C区	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
69	C区	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
70	C区	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
71	CK	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
72	CK	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む
73	CK	5	陶鉢 口縁部	刺刺 凹縁面 列点文 刺刺	刺刺 刺刺				1cm以下の砂粒含む

77.出土遺物観察表①

番号	出土地点	層	器種(石材)・部位	文様・調整・色調等(外)	文様・調整・色調等(内)	最長 cm (線長)	最幅 cm (口・底径)	最厚 cm (土土)	重量 g (焼成)
223	C区	5	陶鉢 底部	ナブ にぶい黄	ナブ 拍摺み入 焼	8.4	1.7	1.7	1.7
224	C区	5	陶鉢 底部	ナブ 焼	ナブ 拍摺	6.4	0.4	1.7	1.7
225	C区	5	陶鉢 底部	ナブ 焼	ナブ 拍摺	6.4	0.4	1.7	1.7
226	C区	5	陶鉢 底部	ナブ 焼	ナブ 拍摺	7.4	0.4	1.7	1.7
227	C区	5	陶鉢 底部	ナブ 焼 スス付着	ナブ 拍摺み入 にぶい黄	3.4	1.7	1.7	1.7
228	C区	5	陶鉢 底部	ナブ 焼	ナブ にぶい黄	8.2	1.7	1.7	1.7
229	C区	5	陶鉢 底部	ナブ にぶい黄	ナブ 焼	5.6	1.7	1.7	1.7
230	C区	5	陶鉢 底部	ミガキ 洗練 にぶい黄	ミガキ 焼			1.7	1.7
231	C区	5	陶鉢 口縁部	ミガキ 洗練 焼	ミガキ 焼			1.7	1.7
232	C区	5	陶鉢 口縁部	ミガキ 洗練 にぶい黄	ミガキ 焼			1.7	1.7
233	C区	5	陶鉢 口縁部	ミガキ 洗練 にぶい黄	ミガキ 焼			1.7	1.7
234	C区	5	陶鉢 口縁部	ミガキ 洗練 にぶい黄	ミガキ 焼			1.7	1.7
235	C区	5	陶鉢 口縁部	ミガキ 洗練 にぶい黄	ミガキ 焼			1.7	1.7
236	C区	5	陶鉢 口縁部	ミガキ 洗練 にぶい黄	ミガキ 焼			1.7	1.7
237	C区	5	陶鉢 口縁部	ミガキ 洗練 にぶい黄	ミガキ 焼			1.7	1.7
238	C区	5	陶鉢 口縁部	ミガキ 洗練 にぶい黄	ミガキ 焼			1.7	1.7
239	C区	5	陶鉢 口縁部	ミガキ 洗練 にぶい黄	ミガキ 焼			1.7	1.7
240	C区	5	陶鉢 口縁部	ミガキ 洗練 にぶい黄	ミガキ 焼			1.7	1.7
241	C区	5	陶鉢 口縁部	ミガキ 洗練 にぶい黄	ミガキ 焼			1.7	1.7
242	C区	5	陶鉢 口縁部	ミガキ 洗練 にぶい黄	ミガキ 焼			1.7	1.7
243	C区一併	5	陶鉢 口縁部	ミガキ 洗練 にぶい黄	ミガキ 焼			1.7	1.7
244	C区	5	陶鉢 口縁部	ミガキ 洗練 にぶい黄	ミガキ 焼			1.7	1.7
245	C区	5	陶鉢 口縁部	ミガキ 洗練 にぶい黄	ミガキ 焼			1.7	1.7
246	C区	5	陶鉢 口縁部	ミガキ 洗練 にぶい黄	ミガキ 焼			1.7	1.7
247	C区	5	陶鉢 口縁部	ミガキ 洗練 にぶい黄	ミガキ 焼			1.7	1.7
248	C区	5	陶鉢 口縁部	ミガキ 洗練 にぶい黄	ミガキ 焼			1.7	1.7
249	C区	5	陶鉢 口縁部	ミガキ 洗練 にぶい黄	ミガキ 焼			1.7	1.7
250	C区	5	陶鉢 口縁部	ミガキ 洗練 にぶい黄	ミガキ 焼			1.7	1.7
251	C区	5	陶鉢 口縁部	ミガキ 洗練 にぶい黄	ミガキ 焼			1.7	1.7
252	C区	5	陶鉢 口縁部	ミガキ 洗練 にぶい黄	ミガキ 焼			1.7	1.7
253	C区	5	陶鉢 口縁部	ミガキ 洗練 にぶい黄	ミガキ 焼			1.7	1.7
254	C区	5	陶鉢 口縁部	ミガキ 洗練 にぶい黄	ミガキ 焼			1.7	1.7
255	C区	5	陶鉢 口縁部	ミガキ 洗練 にぶい黄	ミガキ 焼			1.7	1.7
256	C区	5	陶鉢 口縁部	ミガキ 洗練 にぶい黄	ミガキ 焼			1.7	1.7
257	C区	5	陶鉢 口縁部	ミガキ 洗練 にぶい黄	ミガキ 焼			1.7	1.7
258	C区	5	陶鉢 口縁部	ミガキ 洗練 にぶい黄	ミガキ 焼			1.7	1.7
259	C区	5	陶鉢 口縁部	ミガキ 洗練 にぶい黄	ミガキ 焼			1.7	1.7
260	C区	5	陶鉢 口縁部	ミガキ 洗練 にぶい黄	ミガキ 焼			1.7	1.7
261	C区一併	5	陶鉢 口縁部	ミガキ 洗練 にぶい黄	ミガキ 焼			1.7	1.7
262	C区	5	陶鉢 口縁部	ミガキ 洗練 にぶい黄	ミガキ 焼			1.7	1.7
263	C区	5	陶鉢 口縁部	ミガキ 洗練 にぶい黄	ミガキ 焼			1.7	1.7
264	C区	5	陶鉢 口縁部	ミガキ 洗練 にぶい黄	ミガキ 焼			1.7	1.7
265	C区	5	陶鉢 口縁部	ミガキ 洗練 にぶい黄	ミガキ 焼			1.7	1.7
266	C区	5	石鏡 チョート	先施削文		1.4	1.7	0.3	1.10
267	C区	5	石鏡 磨面心	磨面心 削文		2.6	1.7	0.3	0.70
268	C区	5	石鏡 磨面石	磨面石 削文		2.5	2.0	0.3	1.22
269	C区	5	石鏡 チョート	先施削文		1.3	1.6	0.2	0.42
270	C区	5	石鏡 チョート	先施削文		1.7	1.6	0.3	0.47
271	C区一併	5	石鏡 チョート	先施削文		1.9	1.7	0.3	0.55
272	C区	5	石鏡 チョート	先施削文		2.7	2.0	0.3	2.59
273	C区	5	石鏡 チョート	先施削文		2.7	2.0	0.3	1.59
274	C区	5	石鏡 チョート	先施削文		2.6	1.6	0.3	1.80
275	C区	5	石鏡 チョート	先施削文		2.9	2.5	0.6	2.70
276	C区	5	石鏡 チョート	先施削文		3.1	2.9	0.5	3.53
277	C区一併	5	石鏡 チョート	先施削文		4.7	2.8	1.0	9.36
278	C区	5	石鏡 チョート	先施削文		6.2	3.3	1.1	38.22
279	C区	5	石鏡 チョート	先施削文		4.2	3.1	0.7	7.67
280	C区	5	石鏡 チョート	先施削文		3.4	3.2	0.8	7.86
281	C区一併	5	石鏡 チョート	先施削文		1.5	4.7	1.3	31.29
282	C区	5	石鏡 チョート	先施削文		5.9	5.6	1.7	35.59
283	C区	5	石鏡 チョート	先施削文		6.5	8.6	2.4	283.89
284	C区	5	石鏡 チョート	先施削文		8.0	12.0	2.7	269.67
285	C区	5	石鏡 チョート	先施削文		4.4	6.0	1.3	35.59
286	C区	5	石鏡 チョート	先施削文		6.1	3.5	0.3	68.00
287	C区	5	石鏡 チョート	先施削文		6.6	3.3	1.9	66.97
288	C区	5	石鏡 チョート	先施削文		12.6	7.6	1.8	171.43
289	C区	5	石鏡 チョート	先施削文		11.8	9.4	3.2	658.00
290	C区	5	石鏡 チョート	先施削文		14.2	8.7	4.4	637.00
291	C区	5	石鏡 チョート	先施削文		12.8	7.2	2.3	297.70
292	C区一併	5	石鏡 チョート	先施削文		8.1	3.3	1.6	62.80
293	C区	5	石鏡 磨面心	磨面心 削文		7.7	4.3	1.0	57.50
294	C区	5	石鏡 磨面石	磨面石 削文		6.3	4.7	1.4	68.40
295	C区一併	5	石鏡 磨面心	磨面心 削文		7.0	4.8	1.1	45.11
296	C区	5	石鏡 磨面石	磨面石 削文		8.5	4.0	1.2	49.00
297	C区	5	石鏡 チョート	先施削文		11.8	5.6	1.8	136.87
298	C区	5	石鏡 磨面石	磨面石 削文		3.9	3.5	2.1	45.00

80. 出土遺物観察表④

番号	出土地点	層	器種(石材)・形状	文様・装束・色調等(外)	文様・装束・色調等(内)	長さ cm (最大)	幅 cm (口・高さ)	数量 cm (土量)	重量 g (換算)
299	Ⅱ区	5	石葺 砂葺	器底の赤縁を 片面に保留 片面に自然面		5.0	3.8	2.2	63.15
300	Ⅱ区	5	石葺 シェルブ	器底に上欠		5.7	4.4	3.2	106.05
301	Ⅱ区	5	石葺 砂葺	両側欠 片面に保留 片面に打撃形		8.2	4.7	3.0	200.00
302	Ⅱ区	5	石葺 砂葺	底に黒着 欠落残		9.5	5.8	2.2	160.00
303	Ⅱ区	5	石葺 砂葺	器打調整 手曲欠損 黒着残		7.3	5.6	3.5	199.84
304	Ⅱ区	5	片面打撃石葺	片面に打撃痕		6.3	4.4	3.4	141.00
305	Ⅱ区 Ⅰ	5	石葺 砂葺	欠損 器底面を 敲打金丁で叩き壊す		11.1	5.0	3.5	305.44
306	Ⅱ区	5	石葺 砂葺	器底に黒着 全体に叩き加工		12.8	4.9	3.3	288.90
307	Ⅱ区	5	石葺 砂葺	両面研削 黒着残		12.6	5.8	2.4	226.00
308	Ⅱ区	5	石葺 砂葺	器打調整 黒着残		8.5	5.6	4.0	336.40
309	Ⅱ区 Ⅰ	5	片面打撃石葺	砂葺 片面に自然面		12.3	6.1	1.6	137.97
310	Ⅱ区	5	片面打撃石葺	砂葺 片面に自然面		13.6	7.0	1.9	216.05
311	Ⅱ区	5	片面打撃石葺	砂葺 片面に自然面		12.7	6.5	2.1	184.22
312	Ⅱ区 Ⅰ	5	片面打撃石葺	砂葺 片面に自然面		15.2	5.8	1.8	192.00
313	Ⅱ区	5	片面打撃石葺	砂葺 片面に自然面		12.0	6.2	2.1	185.40
314	Ⅱ区	5	片面打撃石葺	砂葺 片面に自然面 欠損部分を再加工		6.9	4.9	2.3	97.50
315	Ⅱ区	5	片面打撃石葺	砂葺 欠損		8.9	4.9	1.7	86.40
316	Ⅱ区	5	石葺 砂葺	欠損 片面に自然面		4.3	9.3	1.0	53.98
317	Ⅱ区	5	加工を有する石葺	砂葺 欠損		4.4	4.8	1.1	33.90
318	Ⅱ区	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面		6.5	4.9	1.1	42.02
319	Ⅱ区	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面		7.0	4.9	1.8	63.83
320	Ⅱ区	5	加工を有する石葺	砂葺 器底面を 両面に保つ		5.1	3.9	1.4	35.15
321	Ⅱ区	5	加工を有する石葺	砂葺 器底面を 保つ		13.0	6.0	9.0	60.00
322	Ⅱ区	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面		9.1	7.0	1.3	116.56
323	Ⅱ区	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面		14.1	6.7	1.7	135.00
324	Ⅱ区	5	砂葺	両面に自然面		15.3	12.0	2.9	541.51
325	Ⅱ区	5	砂葺	器底の片面に黒着が残る		4.0	3.2	2.6	42.93
326	Ⅱ区	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面		4.5	4.4	3.2	84.40
327	Ⅱ区	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面		6.6	5.5	4.9	230.63
328	Ⅱ区	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面		9.2	3.5	1.6	58.94
329	Ⅱ区	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面		16.7	3.5	2.4	192.00
330	Ⅱ区	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面		9.7	4.2	5.4	280.00
331	Ⅱ区	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面		4.1	4.8	2.7	72.50
332	Ⅱ区	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面		5.7	6.0	4.3	188.84
333	Ⅱ区	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面		11.7	5.3	3.8	310.64
334	Ⅱ区	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面		6.3	4.7	4.0	147.40
335	Ⅱ区	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面		6.8	6.5	2.5	166.00
336	Ⅱ区	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面		5.9	5.7	2.7	120.00
337	Ⅱ区	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面		9.7	7.2	4.5	482.00
338	Ⅱ区	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面		9.7	7.1	3.4	338.26
339	Ⅱ区	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面		11.6	6.1	2.2	226.46
340	Ⅱ区	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面		11.8	6.3	2.7	298.92
341	Ⅱ区	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面		12.7	8.2	5.8	677.33
342	Ⅱ区 Ⅰ	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面		13.9	6.5	4.7	222.02
343	Ⅱ区	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面		3.1	7.3	3.8	158.64
344	Ⅱ区	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面		13.7	7.0	7.0	985.00
345	Ⅱ区	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面		17.0	9.4	6.0	1200.00
346	Ⅱ区	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面		29.0	22.3	8.7	1005.00
347	Ⅱ区 Ⅰ	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面					
348	Ⅱ区 Ⅰ	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面					
349	Ⅱ区 Ⅰ	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面					
350	Ⅱ区 Ⅰ	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面					
351	Ⅱ区 Ⅰ	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面					
352	Ⅱ区 Ⅰ	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面					
353	Ⅱ区 Ⅰ	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面					
354	Ⅱ区 Ⅰ	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面					
355	Ⅱ区 Ⅰ	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面					
356	Ⅱ区 Ⅰ	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面					
357	Ⅱ区 Ⅰ	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面					
358	Ⅱ区 Ⅰ	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面					
359	Ⅱ区 Ⅰ	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面					
360	Ⅱ区 Ⅰ	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面					
361	Ⅱ区 Ⅰ	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面					
362	Ⅱ区 Ⅰ	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面					
363	Ⅱ区 Ⅰ	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面					
364	Ⅱ区 Ⅰ	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面					
365	Ⅱ区 Ⅰ	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面					
366	Ⅱ区 Ⅰ	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面					
367	Ⅱ区 Ⅰ	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面					
368	Ⅱ区 Ⅰ	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面					
369	Ⅱ区 Ⅰ	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面					
370	Ⅱ区 Ⅰ	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面					
371	Ⅱ区 Ⅰ	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面					
372	Ⅱ区 Ⅰ	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面					
373	Ⅱ区 Ⅰ	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面					
374	Ⅱ区 Ⅰ	5	加工を有する石葺	砂葺 片面に自然面					

81. 出土遺物観察表⑤

番号	出土地点	層	種類(石材)・部位	文様・調整・色調等(外)	文様・調整・色調等(内)	最大 cm (幅長)	最小 cm (口・短径)	厚さ cm	重量 g (計士)	備考
375	住14		鏡石 貫首	磨面が顕著である		9.0	4.4	0.9	43.31	
376	住14		磁石 貫首	磨面があまり見られない		18.4	4.8	1.0	28.30	
377	住14		磨石 鏡石	半円穴開 片蓋は平たくならず磨面されている		13.0	8.5	3.0	600.00	
378	住14		磨打鏡 砂岩	割れ部分に磨打痕が残る		13.0	12.6	8.5	1900.00	
379	住14		磨石 砂岩	一面が丸くほぼ全面に磨面が浅る		14.5	13.9	5.4	1800.00	
380	住14		磨石 砂岩	西側に列目		13.0	12.6	5.4	1800.00	
381	住14		磨打鏡 砂岩	割れ部分に磨打痕が残る		13.2	8.3	6.2	816.12	
382	住14		磨打鏡 砂岩	割れ部分に磨打痕が残る		17.4	13.4	7.5	1900.00	
383	住14		磨打鏡 砂岩	割れ部分に磨打痕が残る		12.1	11.9	7.4	1173.79	
384	住14		磨打鏡 砂岩	割れ部分に磨打痕が残る		9.1	7.5	6.0	601.00	
385	住14		磁石 砂岩	一面が丸くほぼ全面に磨面 磨面が磨打痕有		18.1	12.1	9.0	3200.00	
386	住14		小玉 ガラス	片		0.8	0.1	0.3	0.99	
387	住14		小玉 ガラス	片 欠損		0.5	0.1	0.3	0.63	
388	住14		七瀬鏡			4.7	1.9	0.8	5.55	
389	住14		刀			3.2	1.3	0.8	3.47	
390	住14		七瀬鏡			2.2	0.9	1.6	11.58	
391	住14		不磨鏡	縦割は先端部分のみ		2.2	0.9	0.7	1.43	
392	住14		不磨鏡	基部欠損		4.6	1.1	0.3	30.90	
393	住14		不磨鏡			3.1	1.0	0.9	4.50	
394	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 欠損 スス付着	ハク ナダ 磨面と 凸凹面 スス付着			1→3mm程度の磨面含む	良	
395	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
396	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
397	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
398	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
399	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
400	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
401	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
402	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
403	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
404	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
405	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
406	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
407	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
408	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
409	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
410	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
411	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
412	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
413	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
414	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
415	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
416	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
417	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
418	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
419	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
420	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
421	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
422	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
423	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
424	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
425	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
426	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
427	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
428	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
429	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
430	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
431	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
432	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
433	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
434	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
435	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
436	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
437	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
438	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
439	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
440	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
441	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
442	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
443	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
444	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
445	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
446	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
447	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
448	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
449	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	
450	住14		直 圓一色鏡	ハク ナダ 鏡 スス付着	ナダ 凸凹面			1→3mm程度の磨面含む	良	

82. 出土土物観察表⑧

番号	出土地点	層	器種(石科)・部位	文様・顔絵・色顔等(外)	文様・顔絵・色顔等(内)	最長 cm (線長)	最幅 cm (口・底径)	最厚 cm (胎土)	重量 g
451	住居9	5	高 胴部	ハク ナダ 指押さえ にぶい黄	ナダ にぶい黄			1~2mm程度の砂粒含む	良
452	住居9	5	高 胴部	ハク ナダ 指	ナダ にぶい黄			1~2mm程度の砂粒含む	良
453	住居9	5	高 胴部	ナダ 指押さえ 横 スス付着	ナダ 指押			1~2mm程度の砂粒含む	良
454	住居9	5	高杯 胴部	ハク 蓋丸 横	ナダ 指			1~2mm程度の砂粒含む	良
456	住居9	5	浅鉢 口縁部	ミガキ 沈泥 にぶい黄緑	ミガキ にぶい黄緑			1mm以下の砂粒含む	良
458	住居9	5	浅鉢 口縁部	ミガキ 沈泥 にぶい黄緑	ミガキ にぶい黄緑			1mm以下の砂粒含む	良
457	住居9	5	小皿 縁部	若手の打痕有		3.6	2.9	2.3	30.40
458	住居9	5	小皿 縁部	若手の打痕有		5.5	2.3	2.2	30.07
459	住居9	5	へら 底心部	片曲り部(一部研磨) 両面研磨済		8.4	2.9	1.0	37.98
460	住居9	5	縁部? 砂岩	打突痕を帯びた縁部 変態		37.0	11.7	5.4	3606.00
461	住居9	5	縁部? 砂岩	片曲り部 扁平打痕心部の欠損品		14.0	8.5	2.2	251.68
462	住居9	5	底心 砂岩	片曲り部 扁平打痕 変態		11.7	5.7	5.2	402.00
463	住居9	5	底心 砂岩	片曲り部 扁平打痕 変態できない		23.9	12.7	8.5	2190.00
464	住居10	5	浅 口縁部	ナダ にぶい黄	ハク ナダ にぶい黄			1~2mm程度の砂粒含む	良
465	住居10	5	浅 口縁部	ナダ 指押さえ にぶい黄	ナダ 若手工具痕等 にぶい黄緑			1~2mm程度の砂粒含む	良
466	住居10	5	浅 胴部	ナダ にぶい黄緑	ナダ にぶい黄緑			1~2mm程度の砂粒含む	良
467	住居10	5	浅 口縁部	ナダ にぶい黄緑	ナダ にぶい黄緑			1~2mm程度の砂粒含む	良
468	住居10	5	浅 底心	ナダ 指押さえ にぶい黄緑	ナダ 指押さえ 変質層			1~2mm程度の砂粒含む	良
469	住居10	5	高杯 胴部	ナダ 明確 スス付着	ナダ にぶい黄 スス付着			1~2mm程度の砂粒含む	良
470	住居 10	5	勾玉 底心片断(?)	灰褐色		1.4		0.4	0.51
471	住居10	5	土師器	先端部欠損		4.0	2.2	0.3	5.16
472	住居10	5	縁石 砂岩	一部研打痕研磨痕を呈す		12.6	14.7	6.0	2000.00
473	住居 10	5	底心 砂岩	打突痕 打突痕	黒化が顕著 表面を洗す	4.4	6.6	1.2	49.00
474	住居 10	5	打穿石片	表面を洗す	表面を洗す	5.1	5.9	2.2	105.73
475	住居 10	5	打穿石片	表面を洗す	表面を洗す	4.2	2.3	1.5	13.00
476	住居 10	5	打穿石片	表面を洗す	表面を洗す	5.5	4.4	3.0	43.95
477	住居 10	5	打穿石片	表面を洗す	表面を洗す	4.8	4.1	1.0	44.00
478	住居 10	5	打穿石片	表面を洗す	表面を洗す	11.0	1.7	1.0	35.35
479	CF 5	5	浅 胴部	辺り研磨 田ナダ 横 スス付着	ナダ 灰黄電			1~2mm程度の砂粒含む	良
480	CF 5	5	浅 口縁部	ナダ 灰黄	ナダ 研磨済			1~2mm程度の砂粒含む	良
481	CF 5	5	浅 口縁部	ナダ にぶい黄緑	ナダ にぶい黄緑			1~2mm程度の砂粒含む	良
482	CF 5	5	浅(二重口縁) 口縁部	指押さえ状 ナダ 横	ナダ にぶい黄			1~2mm程度の砂粒含む	良
483	CF 5	5	浅(二重口縁) 胴部	ナダ にぶい黄緑	ナダ にぶい黄緑			1~2mm程度の砂粒含む	良
484	CF 5	5	浅 口縁部	ナダ にぶい黄緑 スス付着	ナダ にぶい黄緑			1~2mm程度の砂粒含む	良
485	CF 5	5	浅 口縁部	ハク ナダ 横	ナダ にぶい黄			1~2mm程度の砂粒含む	良
486	CF 5	5	小皿 底心部	口縁部	ココナダ にぶい黄			1mm以下の砂粒含む	良
487	CF 5	5	小皿 底心部	口縁部	ハク ナダ にぶい黄			1~2mm程度の砂粒含む	良
488	CF 5	5	浅 口縁部	ナダ にぶい黄	ナダ にぶい黄			1~2mm程度の砂粒含む	良
489	CF 5	5	浅 口縁部	ナダ 横	ナダ 横			1~2mm程度の砂粒含む	良
490	CF 5	5	浅 口縁部	ハク ナダ 横 スス付着	ナダ 横			1~2mm程度の砂粒含む	良
491	CF 5	5	浅 口縁部	ハク ナダ 横 スス付着	ナダ 横			1~2mm程度の砂粒含む	良
492	CF 5	5	浅 口縁部	ハク ナダ にぶい黄緑 スス付着	ナダ にぶい黄緑			1~2mm程度の砂粒含む	良
493	CF 5	5	浅 口縁部	ハク ナダ 横 スス付着	ナダ 灰黄			1~2mm程度の砂粒含む	良
494	CF 5	5	浅 口縁部	ハク ナダ 横	ハク ナダ 灰黄電			1~2mm程度の砂粒含む	良
495	CF 5	5	浅 口縁部	ハク ナダ 横 スス付着	ハク ナダ にぶい黄			1~2mm程度の砂粒含む	良
496	CF 5	5	浅 口縁部	タガキ ナダ 指押さえ にぶい黄	ナダ 指押さえ にぶい黄			1~2mm程度の砂粒含む	良
497	CF 5	5	浅 口縁部	ナダ にぶい黄	ナダ にぶい黄			1~2mm程度の砂粒含む	良
498	CF 5	5	浅 口縁部	ナダ 横	ナダ 横			1~2mm程度の砂粒含む	良
499	CF 5	5	浅 口縁部	ナダ 横	ナダ 横			1~2mm程度の砂粒含む	良
500	CF 5	5	浅 口縁部	ナダ 指押さえ 沈泥 明確 スス付着	ナダ 指押さえ にぶい黄			1mm以下の砂粒含む	良
501	CF 5	5	浅 口縁部	ナダ 明確	ナダ 灰黄			1~2mm程度の砂粒含む	良
502	CF 5	5	浅 胴部	ナダ 灰黄	ナダ 灰黄			1~2mm程度の砂粒含む	良
503	CF 5	5	浅 胴部	ナダ にぶい黄	ナダ にぶい黄			1~2mm程度の砂粒含む	良
504	CF 5	5	浅 胴部	ナダ にぶい黄	ナダ にぶい黄			1~2mm程度の砂粒含む	良
505	CF 5	5	浅 胴部	ナダ にぶい黄	ナダ にぶい黄			1~2mm程度の砂粒含む	良
506	CF 5	5	浅 胴部	ナダ にぶい黄	ナダ にぶい黄			1~2mm程度の砂粒含む	良
507	CF 5	5	浅 胴部	ナダ にぶい黄	ナダ にぶい黄			1~2mm程度の砂粒含む	良
508	CF 5	5	浅 胴部	ナダ にぶい黄	ナダ にぶい黄			1~2mm程度の砂粒含む	良
509	CF 5	5	浅 胴部	ナダ 明確	ナダ にぶい黄			1~2mm程度の砂粒含む	良
510	CF 5	5	浅 胴部	ナダ にぶい黄 スス付着	ナダ ハク にぶい黄			1~2mm程度の砂粒含む	良
511	CF 5	5	浅 胴部	タガキ ナダ にぶい黄	ナダ にぶい黄			1~2mm程度の砂粒含む	良
512	CF 5	5	浅 胴部	ナダ 灰黄	ナダ 灰黄			1~2mm程度の砂粒含む	良
513	CF 5	5	浅 胴部	ナダ にぶい黄	ナダ にぶい黄			1~2mm程度の砂粒含む	良
514	CF 5	5	浅 胴部	ナダ にぶい黄	ナダ 指押さえ にぶい黄	4.0		1~2mm程度の砂粒含む	良
515	CF 5	5	浅 胴部	ナダ にぶい黄	ナダ にぶい黄			1~2mm程度の砂粒含む	良
516	CF 5	5	浅 胴部	ナダ にぶい黄	ナダ にぶい黄			1~2mm程度の砂粒含む	良
517	CF 5	5	浅 胴部	ナダ にぶい黄	ナダ 横			1~2mm程度の砂粒含む	良
518	CF 5	5	浅 胴部	ナダ 横	ナダ にぶい黄			1~2mm程度の砂粒含む	良
519	CF 5	5	浅 胴部	ナダ 指押さえ にぶい黄	ナダ 指押さえ 灰黄電	0.3		1mm以下の砂粒含む	良
520	CF 5	5	浅 胴部	ナダ 指押さえ にぶい黄	ナダ 指押さえ にぶい黄			1~2mm程度の砂粒含む	良
521	CF 5	5	浅 胴部	ナダ 指押さえ にぶい黄	ナダ 指押さえ にぶい黄			1~2mm程度の砂粒含む	良
522	CF 5	5	浅 胴部	ナダ 横	ナダ 指押さえ 灰黄電	1.0		1~2mm程度の砂粒含む	良
523	CF 5	5	浅 胴部	ナダ 横	ナダ にぶい黄			1~2mm程度の砂粒含む	良
524	CF 5	5	浅 胴部	ナダ 横	ナダ にぶい黄			1~2mm程度の砂粒含む	良
525	CF 5	5	浅 胴部	ナダ 横	ナダ 指押さえ にぶい黄			1~2mm程度の砂粒含む	良
526	CF 5	5	浅 胴部	ナダ 横	ナダ 指押さえ にぶい黄			1~2mm程度の砂粒含む	良

83. 出土土物類観察⑦

番号	出土地点	層	器種(石材)・部位	文様・調整・色調等(外)	文様・調整・色調等(内)	長さ cm (器高)	器径 cm (口・底径)	器厚 cm (土)	重量 g (備考)
527	C区	5	巻 底部	ナデ ハク 指押さえ 明景帝	ナデ 指押さえ 区奥地		2.0	1~3mm程度の砂粒を含む	良
528	C区	5	巻 底部	ナデ 指押さえ 区奥地	ナデ 指押さえ 区奥地			1~3mm程度の砂粒を含む	全く不良
529	C区	5	巻 胴一底部	ナデ ナデ 指押さえ 区奥地	ナデ ハク 指押さえ 区奥地			1~3mm程度の砂粒を含む	良
530	C区	5	巻 胴一底部	ナデ ナデ 指押さえ 区奥地	ナデ ハク 指押さえ 区奥地			1~3mm程度の砂粒を含む	良
531	C区	5	巻 底部	ナデ 指押さえ 区奥地	ナデ 指押さえ 区奥地			1~3mm程度の砂粒を含む	良
532	C区	5	巻 底部	ナデ 区奥地	ナデ 区奥地			1~3mm程度の砂粒を含む	良
533	C区	5	巻 底部	ナデ ハク 指押さえ 区奥地	ナデ 指押さえ 区奥地		4.2	1~3mm程度の砂粒を含む	良
534	C区	5	巻 底部	ナデ ナデ 区奥地	ナデ ハク 指押さえ 区奥地		3.6	1~3mm程度の砂粒を含む	良
535	C区	5	巻 底部	ナデ ナデ 区奥地	ナデ ハク 指押さえ 区奥地		5.2	1~3mm程度の砂粒を含む	良
536	C区	5	巻 底部	区奥地	区奥地			精良	良
537	C区	5	巻 底部	区奥地	区奥地	16.4		精良	良
538	C区	5	巻 底部	区奥地	区奥地	10.4		精良	良
539	C区	5	巻 底部	区奥地	区奥地	16.0		精良	良
540	C区	5	巻 底部	区奥地	区奥地			精良	良
541	C区一併	5	巻 底部	区奥地	区奥地		13.6	精良	良
542	C区併2	5	巻 底部	区奥地	区奥地		3.5	精良	良
543	C区併2	5	巻 底部	区奥地	区奥地			精良	やや不良
544	表層	5	巻 底部	区奥地	区奥地		3.7	精良	良
545	C区一併	5	巻 底部	区奥地	区奥地		3.4	精良	良
546	C区一併	5	巻 底部	区奥地	区奥地			精良	良
547	B区一併	5	巻 底部	区奥地	区奥地		4.7	精良	良
548	C区一併	5	巻 底部	区奥地	区奥地		8.4	精良	良
549	C区	5	巻 底部	区奥地	区奥地			精良	良
550	C区	5	巻 底部	区奥地	区奥地		10.0	精良	良
551	C区一併	5	巻 底部	区奥地	区奥地		9.0	精良	良
552	C区	5	巻 底部	区奥地	区奥地			1mm以下の砂粒を含む	良
553	C区	5	巻 底部	区奥地	区奥地	5.4	0.4-1.6	1mm以下の砂粒を含む	良
554	C区	5	巻 底部	区奥地	区奥地	4.2	1.0-0.3	1mm以下の砂粒を含む	良
555	北西側	5	巻 底部	区奥地	区奥地			1mm以下の砂粒を含む	良
556	C区	5	巻 底部	区奥地	区奥地			1~3mm程度の砂粒を含む	良
557	C区	5	巻 底部	区奥地	区奥地			1~3mm程度の砂粒を含む	良
558	小堀	5	巻 底部	区奥地	区奥地			1~3mm程度の砂粒を含む	良
559	不附	5	巻 底部	区奥地	区奥地	10.9	5.9	3.9	386.0
560	不附	5	巻 底部	区奥地	区奥地	15.5	10.0	3.2	144.36
561	C区	5	巻 底部	区奥地	区奥地	5.9	3.3	1.0	18.37
562	C区	5	巻 底部	区奥地	区奥地	5.0	3.8	1.0	38.67
563	C区	5	巻 底部	区奥地	区奥地	6.9	3.6	1.0	37.00
564	D区	5	巻 底部	区奥地	区奥地	8.9	9.4	2.0	259.00
565	C区	5	巻 底部	区奥地	区奥地	5.1	5.5	0.9	37.50
566	B区	5	巻 底部	区奥地	区奥地	8.4	7.1	1.2	85.00
567	C区	5	巻 底部	区奥地	区奥地	3.8	5.7	1.4	42.50
568	B区一併	5	巻 底部	区奥地	区奥地	5.4	6.3	1.9	89.85
569	C区	5	巻 底部	区奥地	区奥地	5.7	5.8	1.7	88.52
570	表層	5	巻 底部	区奥地	区奥地	7.2	5.2	2.4	170.00
571	C区	5	巻 底部	区奥地	区奥地	6.9	4.7	1.1	50.59
572	C区併2	5	巻 底部	区奥地	区奥地	4.5	6.4	1.4	51.65
573	C区	5	巻 底部	区奥地	区奥地	3.1	7.5	1.7	92.27
574	C区	5	巻 底部	区奥地	区奥地	35.4	18.1	12.0	850.00
575	C区	5	巻 底部	区奥地	区奥地	35.6	14.0	8.1	4460.00

84. 出土器物調査表⑧

4. 2～4 区の調査

2 区の概要 (85)

上田下遺跡 2 区～4 区は、細長く解析された谷部にあたる。2 区から 4 区へ向かいその標高は低くなり、その差は約 20 m におよぶ。台地上の 1 区との比高差は 2 区で約 20 m、4 区で 40 m を測る。谷は西から東に解析され、途中方向を大きく変え南に下り、五ヶ瀬川の支流である伍領川に達する。地区の人たちには、水が枯れることのない谷として知られている。水分を含んだ粘性の高い土が堆積している低湿地帯で、ぬかり田と呼ばれる湿田での稲作が行われていた。平成 19(2008)年 3 月に確認調査が行われ、この谷からはチャート製剥片や砂岩製礫器等が出土している。今回の調査では、谷の最深部を 2 区とし東の谷の入り口に向かい 3 区、4 区と設定した。2 区と 4 区では約 20 m の比高差がある。調査は低湿地帯における稲作の可能性を考慮し行った。濁水期を考慮して 1 月に着手したが、それでも常に水がある悪条件であり、また、例年以上の雨の多さに困難を極めた。排水溝を作り、常時、水中ポンプによる排水を行ったが、湧水と折からの雨で地表が乾くことがなく、面的な調査を断念することとなった。そこで、トレンチにより土層断面を確認し、プラントオパール分析による稲作の可能性を探ることとした。

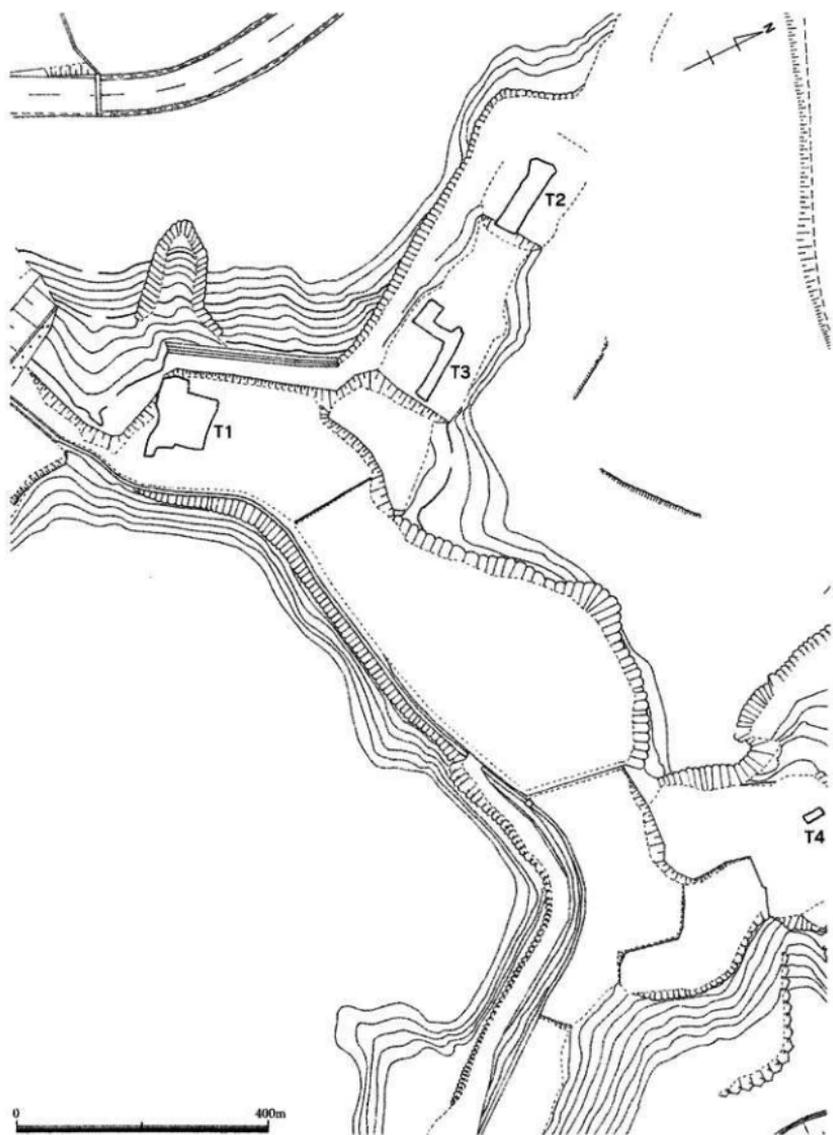
谷の最深部にあたる 2 区は、北西からと南西からの 2 本の浅い谷が集まり、常に水が集まる環境にある。南西の谷は総合運動公園造成時に一部が埋められている。2 区の東端には北から短い谷が入っている。断面は水分を含んだ粘土と砂質の互層になっており、極めて軟弱な地盤であった。崩落の危険も高く、安全面に配慮した調査となった。2 区では 4 箇所のトレンチを設定した。各トレンチにおいて層序が大きく異なり、基本層序として抑えることは難しく、各トレンチごとにその概要を記す。

トレンチ 1 は南西の谷に設置した。2 区では、もっとも標高の低い位置にあたる。地表より約 280 cm で岩盤に到達する。地山である岩盤を成形して水田面を広げているが、崩れやすかったようで木杭を打ち、横木を渡し護岸を行っている。護岸の痕跡は 1 層と 2 層の間と 2 層と 3 層の間に残っていた。トレンチ 1 の層序 (89) は以下の通りである。1 層は茶褐色粘質土、2 層淡青灰色粘質土、3 層暗黄灰褐色土 (やや硬くしまる。岩砕混じる。)、4 層淡青灰色粘質土 (シルト質)、5 層淡暗黄灰褐色岩砕粒 (粘性がある。やや硬くしまる。)、6 層黒褐色粘質土 (有機物を多く含む)、7 層淡黄褐色土 (岩砕粒に砂が混じる)、8 層暗黄褐色粘質土 (岩砕粒混じり。有機物が混じる。)、9 層岩砕 (10～30 cm 大。砂、粘土が混じる。)

トレンチ 2 は北西の谷の奥に設置した。周囲の岩盤を削ったり、崩れたりを繰り返したようで、岩砕と粘質土が混ざり幾重にも層を形成している。1 層岩砕、2 層暗灰褐色粘質土、3 層岩砕粒層 (0.3 cm～2 cm 大)、4 層淡青灰色粘質土 + 岩砕 (2～5 cm 大が主である。)、5 層暗茶灰褐色粘質土 (岩砕粒混じる。)、6 層岩砕粒 + 青灰色粘質土 (有機物が混じる。)、7 層暗青灰色粘質土 + 粒状岩砕であった。6 層と 7 層の層境から湧水が見られる。

トレンチ 2 の下段にトレンチ 3 を設定した。埋立による造成によって作られた地形であり、約 1 m が岩砕による埋土であった。

トレンチ 4 は北から入る短い谷に設定した。地表から約 130 cm で大きな阿蘇溶結凝灰岩 (灰石) が検出された。これは現代の水田耕作時に、耕作機械が沈まないように埋めたものであった。1 層灰褐色粘質土 (鉄斑が見られる)、2 層灰褐色粘質土 (1 層より粘性が高い)、3 層暗灰褐色土、4 層淡緑灰色粘質土 (5 層の粒子が混ざる)、5 層黄白色砂岩質岩盤 (粘性を帯び、非常に軟らかい)。



85.上田下道跡2区調査区配置図(S=1/800)

3区の概要(86)

3区は東に向かっていた谷が、南にさらに東にと向きを変える変換点に位置する。南西方向から別の谷を伝ってきた沢が、流れ込む地点でもある。3区では2箇所のトレンチを設定した。確認調査でチャート製剥片が出土している地点である。

トレンチ5は谷の変換点の横断面に設置した。地表から約1mで60～100cm数個の阿蘇溶結凝灰岩を検出した。これも現代の耕作時に埋めたものと判断される。1層淡青灰褐色粘質土(暗橙色鉄斑混じる)、2層暗青灰褐色粘質土(岩砕粒混じる)、3層暗灰色粘質土、4層暗灰色粘質土(粒状の岩砕、炭化物が混じる)、5層暗灰褐色土(粘性が高く、有機物が多く含まれている)、6層岩砕、7層青灰色岩砕。4～5層に阿蘇溶結凝灰岩が見られる。

トレンチ6はチャート製剥片が出土しており、また、水の量が比較的に少なく、面的に調査を行った。1～3層に少量の陶磁器片が出土したが、近現代のものであった。非常に小さな土器等も見られるが、磨耗しているため時期等は不明である。3区は1区の台地の直下にあたり遺物等は上からの流れ込みであると判断される。地表から約120cmで岩盤に達する。

4区の概要(87)

3区から東に下る谷は1区の台地が大きく南側に張り出すのに合わせて、水田耕作が不可能なほど細くなり、4区に入り再び広がる。谷はこの地点で大きく南に蛇行する。3区は1区の台地の南西下で、4区は南東下に位置する。1区の東に入る小さい谷から流れ出る湧水は、水が乾えることがないといわれている。確認調査で砂岩製礫器が出土している。南側の丘陵斜面を利用した標高約40mの水田地にトレンチ7と、谷の標高約38mの水田地にトレンチ8を設定した。

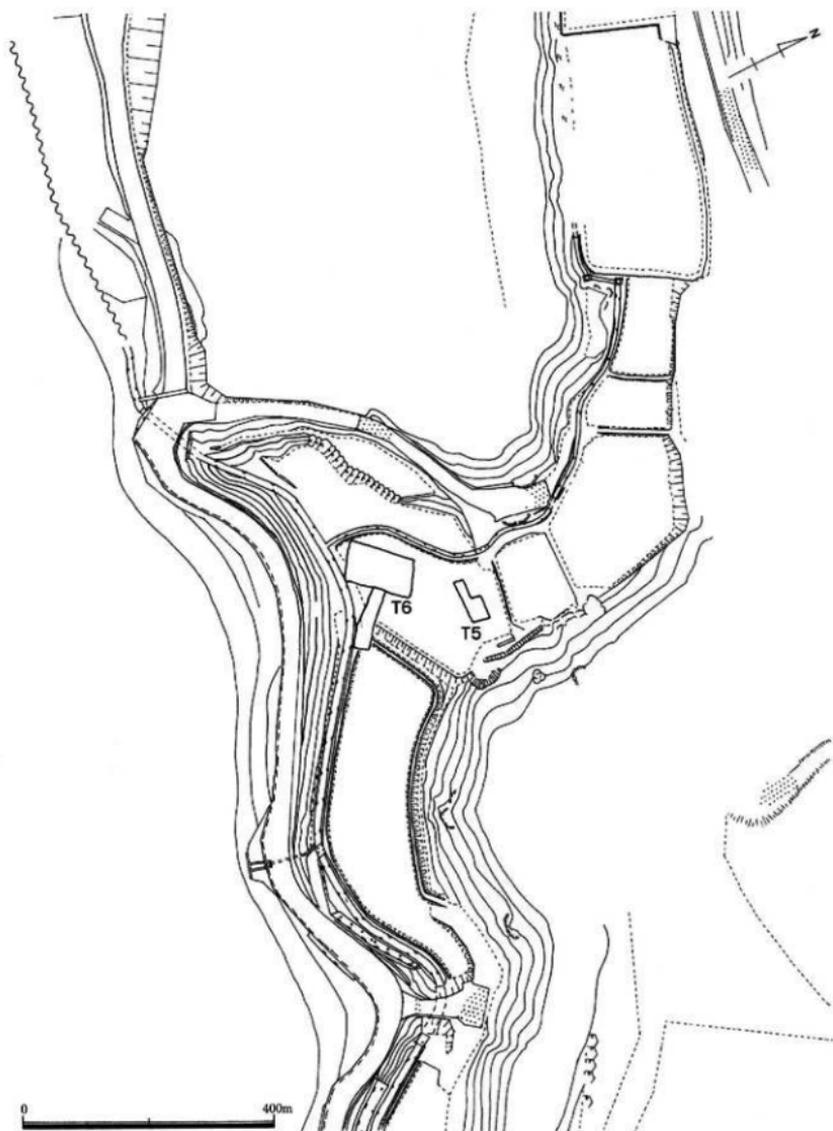
トレンチ7は丘陵を利用し平坦面を作り、水田耕作を行っていた地点にあたる。旧地形が多く残っていると期待したが地山である岩盤は急激に落ち込み、そのほとんどが造成による埋土であった。

トレンチ8を設定した水田では、確認調査で遺物が出土していることから、表土を剥ぎ面的な調査も行ったが遺構・遺物は出土していない。トレンチ調査でも現代の大規模な造成跡が伺え、確認調査時の遺物は、1区等の近接する遺跡から流れ込んだ遺物と判断される。トレンチ8の層序は以下の通りである。1層暗褐色土、2層淡灰褐色粘質土(旧耕作土)、3層灰褐色粘質土(暗橙色の鉄斑が混じる)、4層暗灰褐色粘質土(微量の鉄斑が混じる)、5層黒灰褐色粘質土(微細な炭化物が混じる)、6層埋土(約150cm大の大きな阿蘇溶結凝灰岩と40cm大の栗石、小石、砂利、砂等)、6'層灰白色砂質土(粘土混じりの砂層。有機物が混じる)。

植物珪酸体分析結果(88)

2～4区において、土中に長期間残留するイネ科由来の植物珪酸体を調査する事で、農耕有無とその利用状況を明らかにする為に植物珪酸体分析を行った。

試料は2区トレンチ1から2層・4層・6層・7層、トレンチ2から4層・5層・6層・7層、トレンチ4から1層・2層・3層・4層、3区トレンチ5から2層・3層・4層・5層、4区トレンチ8から3層・4層・5層・6'層の各4層位分の合計20点を採取した。観察の結果、トレンチ1以外からはヨシ属とネザサ節の植物珪酸体が検出され、加えてトレンチ1の2層・4層、トレンチ4の1層・2層、トレンチ5の2層・3層・4層、トレンチ8の3層・4層・5層からは稲の葉身の機動細胞に由来する植物珪酸体が検出された。また、稲の機動細胞が検出された試料からは、珪藻類も観察されている。それに対し、イネの植物珪酸体の検出が無い試料からは珪藻類の検出も無かった。



86.上田下流跡3区調査区配置図(S=1/800)



87.上田下道跡4区調査区配置図(S=1/800)

一般に、イネの植物珪酸体の検出密度が5000粒/gを超える場合、その地点で稲作が行われていたとされるが、いずれの試料からもこの値を越す検出密度は認められなかった。しかし植物珪酸体の検出密度（含有量）は、稲作が行われた期間や栽培形式（穂刈り、株刈り）に左右される。加えてイネの植物珪酸体の検出された試料で確認された珪藻類（*Surirella* 属、*Cymbella* 属、*Pinnularia* 属、*Stauroneis* 属）は湖沼、水田で確認される種であり、これは試料をサンプリングした地層が地表であった時期に冠水していた状態があった事が考えられる。したがってイネの植物珪酸体が検出された地層において検出密度が少ないものの水田としての利用も考えられる為、稲作が行われていた可能性が推察される。

小結

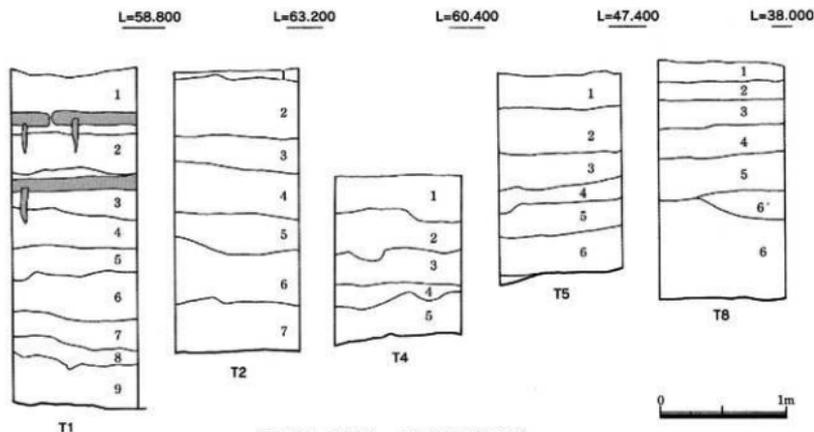
2区～4区で古代の稲作の可能性を探ったが、常に冠水しているような状況での稲作が行われていたようで、現代の水田耕作の痕跡でさえ、プラントオパール分析でも顕著に確認する事が出来なかった。また、土層の堆積状況からも現代において大きな改良の痕跡が伺え、古代水田址に該当する層は検出されなかった。以上のことから、当地における古代の水田耕作の可能性は極めて低いと判断される。

	2区												3区				4区			
	トレンチ1				トレンチ2				トレンチ4				トレンチ5				トレンチ8			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
1 イネ	3	2	0	0	0	0	0	0	4	3	0	0	3	2	1	0	2	3	3	0
	23	15	0	0	0	0	0	0	30	23	0	0	22	15	8	0	15	23	23	0
プラント・オパール総数	3	2	0	0	0	0	0	0	4	3	0	0	3	2	1	0	2	3	3	0
ガラスビーズカウント数	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300

上段 検出個数

中段 検出密度(単位: ×100個/g)

植物珪酸体化石組成表



89.上田下遺跡2～4区柱状図(1/40)



90.上田下瀬跡周辺航空写真(昭和23年米軍撮影)



91.発掘体験学習



92.土壌篩い作業



93.1号集石遺構(北から)



94.2号集石遺構(北から)



95.1号竪穴住居跡(北から)



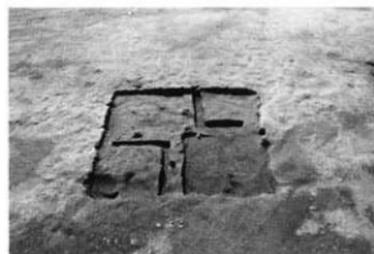
96.2号竪穴住居跡(北から)



97.3号竪穴住居跡(南から)



98.4号竪穴住居跡(東から)



99.5号竪穴住居跡(東から)



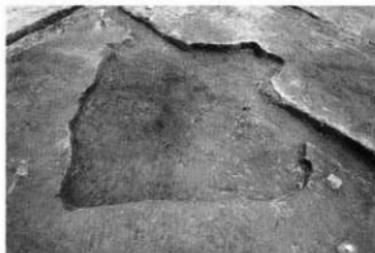
100.6号竪穴住居跡(東から)



101.7号竪穴住居跡(西から)



102.8号竪穴住居跡(東から)



103.9号竪穴住居跡(東から)



104.10号竪穴住居跡(西から)



105.1号土坑(北から)



106.2号土坑(東から)



107.3号土坑(西から)



108.4号土坑(西から)



109.5号土坑(北東から)



110.6号土坑(東から)



111.7号土坑(南西から)



112.8号土坑(東から)



113.9号土坑(西から)



114.1号不明遺構(北東から)



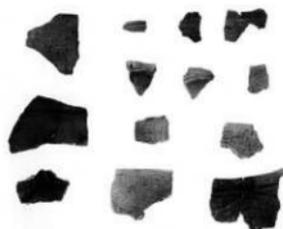
115.1号建物(北東から)



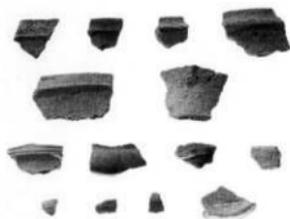
116.出土遺物(1~13)



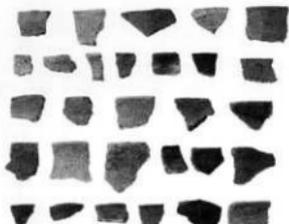
117.出土遺物(14~27)



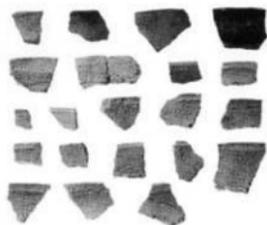
118.出土遺物(28~40)



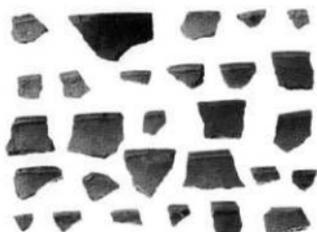
119.出土遺物(41~54)



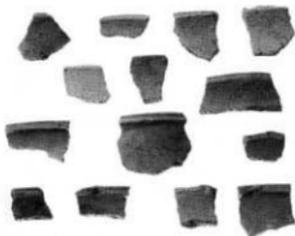
120.出土遺物(55~83)



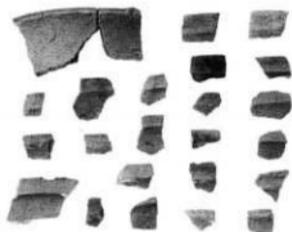
121.出土遺物(84~104)



122.出土遺物(105~132)



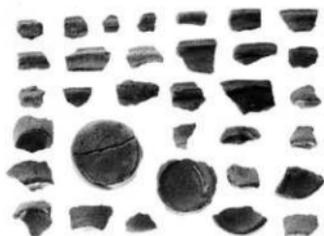
123.出土遺物(133~146)



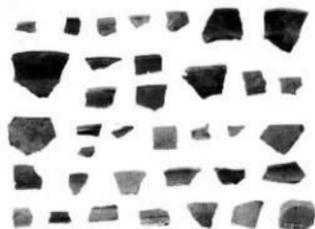
124.出土遺物(147~169)



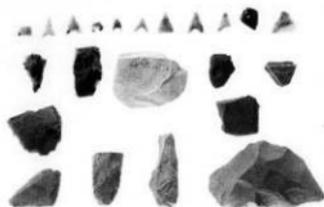
125.出土遺物(170~196)



126.出土遺物(197~229)



127.出土遺物(230~265)



128.出土遺物(266~287)



129.出土遺物(288~300)



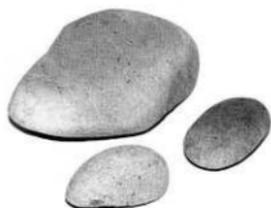
130.出土遺物(301~314)



131.出土遺物(315~327)



132.出土遺物(328~343)



133.出土遺物(344~346)



134.出土遺物(347~355)



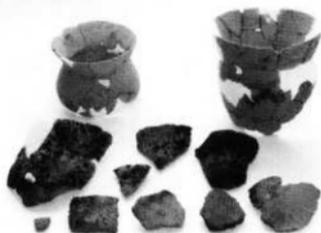
135.出土遺物(356~363)



136.出土遺物(365~377)



137.出土遺物(378~385)



138.出土遺物(394~402)



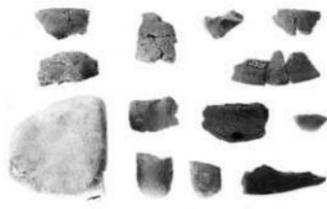
139.出土遺物(403~417)



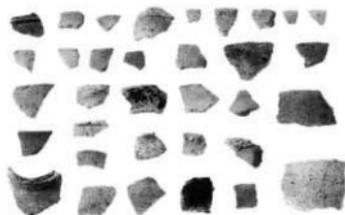
140.出土遺物(422~448)



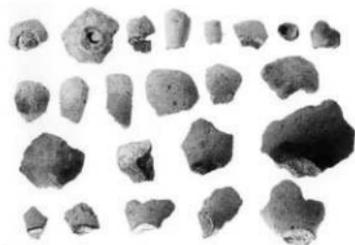
141.出土遺物(449~463)



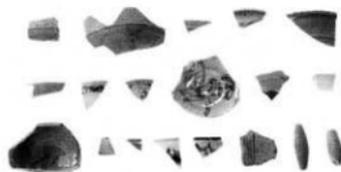
142.出土遺物(464~478)



143.出土遺物(479~512)



144.出土遺物(513~535)



145.出土遺物(536~554)



146.出土遺物(555~573)



147.出土遺物(574~575)



148.遺物出土状況(A区VI層:北から)



149.
上田下遺跡航空写真
(西側より)



150.
上田下遺跡2区
航空写真



151.
上田下遺跡3区
航空写真



152.
上田下遺跡4区
航空写真

Ⅲ. おわりに

今回の新最終処分場建設事業に伴う埋蔵文化財調査では、台地上の1区で縄文時代早期の集石遺構2基、縄文時代晩期の土坑2基、弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住居跡10軒を検出した。また、時期は不明であるが、溝状遺構、土坑、柱穴、焼土集中部をアカホヤ層上面で検出した。土坑の中には、落とし穴と思われる機能を有す遺構が4例ある。底面に逆茂木痕と思われる小柱穴が3～4個（4個検出例は中央に2個並列する）並んで掘られている。粗製深鉢土器及び精製浅鉢土器片が出土した9号土坑以外は出土遺物がなく、時期特定はできない。

細長い谷部にあたる2区から4区では確認調査でチャート製の剥片や砂岩製の礫器が出土したが、本調査では例年以上の雨のために各区ともに面調査ではなくトレンチ調査を行った。調査の結果、土器片が若干出土したが、遺構の検出はなかった。磨耗している土器片もあり、上部からの流れ込みの可能性が高い。

遺物では、旧石器時代の石核や剥片、縄文時代早期及び後期・晩期の石器・土器が出土した。弥生時代後期～古墳時代前期では、壺・甕・高杯・打製石包丁・管玉・鉄鏃・須恵器等が出土している。また、中・近世では陶磁器が、時期は特定できないが土鍾・石鍾等も出土している。

旧石器時代では、遺構の検出はなく、1-A区以外では包含層からの出土遺物も少ない。竪穴住居跡内からも旧石器時代所産の遺物が出土している。一部AT層下位まで掘り下げたが、遺構・遺物の検出は無かった。蔵田遺跡や矢野原遺跡などの近接地域ではAT層が確認され、さらにその下位の層から遺物の出土例が増加している。堆積状況から、周辺には良好な包蔵地が予想される。今後の開発行為には十分注意する必要がある。

縄文時代早期では、各区とも削平が進み良好な遺物包含層の残存状態がよくなかった。その中で、1-A区の東側とC区の西側で遺物包含層を確認し、1-A区では集石遺構を2基検出している。内1基では敷石が確認された。埋土中には焼けた礫も混じることなどから、周辺にはまだ多くの集石遺構の存在が予想される。遺物の量は多くはないが、押型文土器や貝殻円筒文土器、鯨形鏃、尖頭状石器等が出土した。前期や後期の遺構の検出はないが若干の遺物が晩期の包含層から出土している。

縄文時代晩期では、1-C区で削平を免れた西側でV層中より粗製深鉢土器を中心として精製浅鉢土器、扁平打製石斧等が比較的まとまって出土している。弥生時代から中・近世の遺物も混じっているが、1-C区で出土した縄文晩期の遺物量は、他の調査区に比べて圧倒的に多い。南に向かって緩やかに傾斜するくぼ地的環境も影響していると思われる。

当地域における弥生～古墳時代の竪穴住居跡の検出例は、これまでの調査例に最近調査された延岡～北方道路の調査事例を加えると50例を超える。そのほとんどは、一辺が4～6mの規模であり、今回初めて一辺8mの住居跡を検出した。これまで、急傾斜地や尾根の端部などから検出した竪穴住居跡の調査例から想定された当地域における集落のあり方を再考する上でも興味深い調査例となった。

また、北方地区ではこれまで竪穴住居跡内からの鉄鏃や錐状鉄器等の出土例が少なく、貴重な調査事例となった。

中・近世と考えられる遺構では、溝状遺構があげられるが、各時代の遺物が混在しており特定は出来ない。また、底面に砂状粒子の堆積が認められず、外の機能（区画溝）の可能性もある。周辺には五輪塔などがあり、北東側には「かじやしき」の地名が残る場所がある。白磁八角小杯や青磁、肥前系陶磁器等から15世紀中頃から16世紀後半、17世紀以降の年代に属する集落の可能性がある。遺物の量は多くはないが、今後周辺の開発事業には十分注意する必要がある。

報告書抄録

フリガナ	カミタシタイセキ							
書名	上田下遺跡							
副書名	平成21年度新最終処分場建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告書							
巻次								
シリーズ名	延岡市文化財報告書							
シリーズ番号	第44集							
編集者名	小野信彦							
編集機関	延岡市教育委員会							
所在地	宮崎県延岡市東本小路2-1							
発行年月日	平成23年3月31日							
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
カミタシタイ 上田下遺跡	延岡市 北方町 笠下寅	2033	61	32° 34' 53"	131° 30' 48"	2009.8.27～ 2010.3.31	12,100	新最終処分 場建設事業 に伴う調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
上田下遺跡	包蔵地	旧石器・縄文時代 弥生・古墳時代		集石遺構2基 竈穴住居跡10軒 土坑9基		土器・石器 勾玉類・鉄器類 陶磁器等	一辺8mの大型住居の 検出(1基) 落し穴状遺構の検出 (4基)	

<p>上田下遺跡 延岡市文化財報告書 第44集 平成23年3月31日</p>	
発行	延岡市教育委員会 〒882-0611 宮崎県延岡市東本小路2-1
印刷	安井株式会社 〒889-0697 宮崎県東臼杵郡門川町大字加草2725番地

